

UFOと宇宙哲学の研究誌

# GAPニューズレター

No. **72**

**特集・80年度日本GAP総会**





〈巻頭言〉 時間と進歩… 1

**大盛況! '80日本GAP総会… 2**

〈写真〉 日本GAP総会… 4

—講演—

- |                         |           |
|-------------------------|-----------|
| ① 宇宙的な生活の基本             | 伊藤達夫… 6   |
| ② 生活の中のアダムスキー哲学         | 笠原弘可… 10  |
| ③ 実践24時間                | 野口敏治… 14  |
| ④ アダムスキー哲学と私の歩み         | 遠藤昭則… 19  |
| ⑤ 宇宙哲学との出会いと<br>実践活動の今後 | 志田真人… 24  |
| ⑥ アダムスキー問題の本質           | 久保田八郎… 28 |

〈総会を終えて〉 会員有志… 33

質疑応答 **宇宙と人間の真相(2)** フレッド・ステックリング… 36

80年度「アメリカ南米宇宙考古学の旅」を回想して(2)… 40

〈予告〉 第3回日本GAP **アメリカメキシコ** 宇宙考古学の旅… 42  
海外研修旅行 カリブ海

〈会員の声〉 むかし出会った惑星で… 44

日本GAP各地行事報告と予告… 46

日本GAP全国月例研究会案内… 48

★本誌掲載記事の内、海外関係のものは翻訳転載権取得済。  
全記事・写真共禁無断転載。



GAPとは

GAPは「知らせる運動」という意味の世界的なグループ活動で、世界中の人々がUFOの真相について「知る」機会を与えられるべきであるという見地に基づいて1959年にジョージ・アダムスキーによって創始されました。彼の願いは「最大多数の人が現代の真実を発見して、来たるべき時代に眼を転じること、人間はすべて「コスミック・パワー」の子であり、そのパワーの諸法則や宇宙に満ちている真実を確信をもって知ること」にありました。この諸法則は他の世界（惑星）から来る友好的な訪問者からもたらされた「生命の科学」の研究と理解を通じて体得できます。

日本GAPの目的はUFOとスペース・ブラザーズ問題に関心ある人々に伝えることにあり、奉仕活動を通じて真実の解明と宇宙の法則の実践を呼びかけることにあります。その中心思想は次のとおりです。

1. この太陽系の他の惑星群から偉大な発展をとげた人類が地球を訪問しつつある。
2. 他の世界から来る人々はこの世界の政治家や科学者とひそかにコンタクト（接触）しており、危機にひんした地球に対して救援の手をさしのべている。官民を問わずスペース・ブラザーズとコンタクトしている人々が少数存在すると思われるが、通常その真相は洩らされていない。
3. ジョージ・アダムスキーがもたらした哲学は、人類の起源と未来の運命の真実を知るのに有益である。

本誌は政治・宗教と関係のない非営利刊行物です。

■表紙写真は、1980年11月9日、80年度日本GAP総会後の記念大パーティーにて。

「光陰矢の如し」といふ。How time flies. という。いづれも年月の経過の早いことを表現した日英のことわざである。ひとくちに二十年といつても個人により思ひはさまざまだが主観的には二面がある。アツという間に過ぎた一面と、大変だったという苦難に満ちた一面である。前者を主に考えれば三十六年前の終戦の日に天皇の玉音放送を軍隊で聴いてから数日後に帰郷したのがつい昨日のことで、一夜明けた今日この巻頭言の原稿を書いているという感覚が抜けきれないし、後者のフーリングからいえば宿命的な何かを感じさせるものがある。

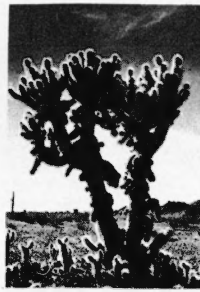
いづれにせよ人間の一生涯ほど奇妙なものはない。というよりも人間という生物の存在すること自体が宇宙で最大のミステリーである。したがって人間のあいだで発生するあらゆる論争は群盲象をなでる式の妄論にすぎないといえるだろう。なぜなら人間が人間自体を理解しないのに、外界の事象に対して絶対公正な判断がくだせるわけがないからだ。

地球は「迷える魂の惑星」だという。これは詩人の言葉ではなく偉大な進化をとげた惑星の人々の憐れみと同情の表現であるらしい。むべなるかな、「貴殿の人生の目的は？」と尋ねても「別にない。マイホームを持つて安穩な生涯をすごしたいと思うだけだ」と大抵の人は答えるのである。人間とは何か、ワレとは何かを考へる余裕は全く生じないらしい。またそのような事を考へても現実の生活に何らの利益をもたらさないし人生や世渡りとは無関係だと思つてゐる。こうして

七、八十年の生涯を飲んで食つて過ごし最後はボロ雑巾のような老体を病床に横たえて、何のために生きてきたのかと生命なるものに漠然と思考をめぐらせばまだまじなほうだろうが、大半の人はそのような哲学的思惟を起こすこともなく、心身ともに疲労困憊の極に達して、ただ息が絶えるだけなのだろう。いま自分の実体が別な新生児の美しい肉体へ移行して新たな人生の課程に入るのだと意識しながら去る人は四十億の人間の中で〇・〇〇〇パーセントぐらいのものである。まさにこの世界は「迷える魂の惑星」である。一生涯を終えてからの行先

### 〈巻頭言〉

## 時間と進歩



を認識すらできないのだ。

しかし二十数年間の研鑽や努力をもつてしてもさほどの進歩はなかつたというのが編者のいつわらざる個人的反省である。ということは実際には研鑽や努力を積まなかつたということになるのだろう。多年にわたつて繰り返した無数の失敗とへまはいつになつたら無縁となるのか。試行錯誤というようなキレイごとではなく、ドロドロとした醜惡な不可視の実体にとりつかれて、もがいては逃げもがいては逃げするだけの行動の連続の二十年であつたということになれば、最重要で最も恐るべきは年月の経過の迅速さ

である。こればかりは容赦なく万人に公平に襲いかかる。待たなしたに人間を老化せしめるので、気がついたら全く無意味な生活を過ごして愚痴放し機と化した自分を発見出す。ああ世は夢か幻かとは芝居の科白ではなく現実の一般人の心情の表現であり、無目的に地球で生涯を終える者のきまり文句である。

しかし宇宙の法則を知る私たちはこのような戯言の独白で最後の眼を閉じることなく、むしろ「この世界に生まれてよかつた！」と歡喜と希望に満ちたままなる肉体への移行に渾身の期待をこめて去り行くべきである。だれもがいつかは現在の肉体と訣別しなければならぬのだ。まだ若いから先が長いと思つてはいけない。昨日の若き美男女は今日は老醜をさらす枯木として風に揺れているのだ。繰り返すが恐るべきは光速にも似たすさまじい年月の経過である。

してみると我々の進歩は刻一刻を争うべき問題であり、明日やあさつてのことではない。現在の一瞬一瞬に自己のすべてが凝縮されカルマが秘められている。具体的に言えば、一瞬ごとに自己の想念を観察し、不純なる非宇宙的な低劣想念が押し寄せれば断固これを撃退して、常住坐臥、不断に宇宙の意識を意識する必要がある。これを意識的意識という。我々は死者の棺をかつく死人の妄動に同調してはならないが孤立化も避けねばならぬ。死人とはセンスマイン드의死せる者を意味するのであつて、だれしも意識までは死滅してはいない。意識が死滅すればもはや転生の機会はなく、大宇宙の

意識の大海へ吸収されるだけである。センスマイン드는死人のそれで、魂(意識)のみが肉体を支えているのが一般地球人であつてみれば、これを無下に排除するわけにはゆかない。できれば死せるマイン드를生き返らせるように何らかの援助をなすべきだろう。

しかし何よりもまず自己のマインドを生き返らせよう。怠惰かつ傲慢な四つの感覚器官を叱咤激励し、宇宙の方向へ向かわせよう。周囲から死人がやつてきてあやしげな哲学やド・キホーテの狂言に惑わされるなど、したり顔で忠告しても穏やかに拒絶し、無言と微笑をもつて応えよう。

万物に創造パワーが宿り、それが宇宙の英知であり意識であることは絶対否定できぬ事実である。この絶対次元を認識してその上に立つた絶対人間こそ我々の到達すべき目標である。これは単なる観念論ではないし理論の遊戯でもない。実際にそのようなフーリングを全身に起こすことによつて、自己の健康状態やカルマを奇跡的に大変化せしめ得るのである。

いかにすればそのフーリングがわき起こるか？ 起爆剤となるのは「自分は絶対だ！」というミラクルワードの反覆である。これを四六時中唱え続けることによつて強烈なフーリングがわき起り、次いで大変化が生じるのである。人間個人に何の変化も生ぜしめぬ哲学は死人の思想にすぎない。我々は自己を変化させる宇宙哲学を学習中である。これを生かさぬということはない。

創 立  
20周年  
記 念

# 80日本GAP総会

## 大盛況!!

高次元の雰囲気と  
感動の一日が終了





# 創立20周年 記念総会頌

齋藤泰文

菊薫る十一月九日。朝方は重くたれこめていた雲も受付けの始まる午前九時ごろにはすっかり姿を消し、青空が目にしみる。会場の東條会館一階大ホールも午前九時五十分頃にはほぼ満員。演壇上方に掲げられた金星のシンボルマークとアダムスキーの大きな笑顔がコバルトブルーのカクテル光線にくっきりと浮かびあがり、創立二十周年をむかえた日本GAPを祝福しているかのようである。

午前十時、大阪支部代表の平塚和義氏と同支部の渡辺優美子女史のなごやかな司会で記念すべき大総会の幕が切って落とされた。当日の第一講演者は松山支部代表の伊藤達夫氏。演題は「宇宙的生活

・司会の平塚和義氏と  
渡辺優美子さん。



の基本」。氏が現に宇宙的生活を實踐された体験談がたんたと話されてゆく。特に氏は、日本に古くからある葬式あるいは墓まいりは非宇宙的因習の最たるもので、今すぐにも廃止すべきであると強調されていたことが印象に残る。

次の講演は仙台支部代表の笠原弘可氏の「生活の中のアダムスキー哲学」。氏は機智に富んだ巧みなユーモアをまじえて会場の雰囲気をやわらげながら、職場での苦勞話を例に、生活の中でのいかに「信念」が重要であるかを話される。その話の中で「真剣」と「深刻」とはちがうという例話は味わい深い。

午前中最後の講演は静岡支部代表の野口敏治氏による「実践二十四時間」。氏は実生活の中で「感謝」の気持がいかに大切であるかを体験を通して話される。中でも特に円盤との出会いの話や、夕焼雲による地震予知の話は非常に興味をひかれる。

昼食休憩をはさみ、会は午後一時から東京本部の遠藤昭則氏による「アダムスキー哲学と私の歩み」へと進行する。氏の本当に必要な書物というものは少ないという話や、宇宙的な生き方は明日からでは遅いのであり、今すぐ実行すべきであるという話は、身につまされる思いである。

その次は東京本部の志田真人氏の「宇宙哲学との出会いと実践活動の今後」。氏は今夏に行われた「アメリカ南米宇宙考古学の旅」の副団長としてピスタにおもむき、そこで受けたス氏、ホ氏、イ夫人からのティーチングをもとに実践活動

の今後について話される。「シンプリシテイの重要さ」、「レパシーの送受を行うには完全にリラクセスした状態である必要があること」、「一日のうち必ず自分を高揚させる時間を作れ」、「英知なき知識は無意味である」等々の重要なティーチングの紹介は深い感銘を覚える。

大講演の最後は久保田会長による「アダムスキー問題の本質」。会長はアメリカ大統領の交替など最新の国際情勢の変動の話からはじめて、地球物理学的にみても、我々の住む地球が危険にさらされている事実を示唆される。特に、「ポール・シフト(極の移動)」が現に起こっており、異常気象や大地震の頻発は、これが原因ではないかとの見地から現在トップレベルの学者が研究しているという話は非常に興味をひく。そして実はこの極移動の話は何年も前にアダムスキーによってもたらされており、核爆発がまたこの極移動の引金となっており、核爆発を指摘した。しかしこれらの衝撃的な事実に対して多少しも恐怖心をいだく必要はないのであり「宇宙からの訪問者」百七十四頁のフアーコンのことばにある通り冷静に対処すべきである旨を強調されていたことは印象深い。

午後三時過ぎ、十分余りの休憩のあと菊地喜之氏撮影の映画「アメリカ南米宇宙考古学の旅」が久保田会長の解説付きで約一時間四十分上映された。ピスタでの素晴らしい日米合同夕食会の様子、デザートセンターのコンタクト地点付近の光景、不思議な南米の遺跡群のたたずまい等々と参加したGAP会員の姿がダイ

ナミックに描かれ、現に今旅行しているかのよう。

大講演会および映画会は予定通り午後五時に終了し、続いて五時半から五階スタワーの間での記念大パーティーにうつる。久保田会長の「乾杯」の首領と共に日本人六名からなるロス・パコス楽団の華やかな演奏が始まる。全員の記念写真撮影のあと外人三名で構成されたロス・トロピカリレス楽団が素晴らしい中南米音楽の生演奏をきかせる。演奏に油が乗ってくるにつれて会場をうずめつくれた百余名の参加者たちが手拍子にあわせて踊り出す。途中、久保田会長も楽団に加わってマラカスを演奏したり、ダンスの模範を示したりする楽しいハブニングも出てしまいは会場全体が一体となって音と人との大渦巻。司会者の声も轟々たる大歓声にかき消され、ほとんど聞きとれない。結局予定の時間を三十分もオーバーして午後八時三十分、熱狂的なまでに盛り上がった記念大パーティーはようやく終了した。

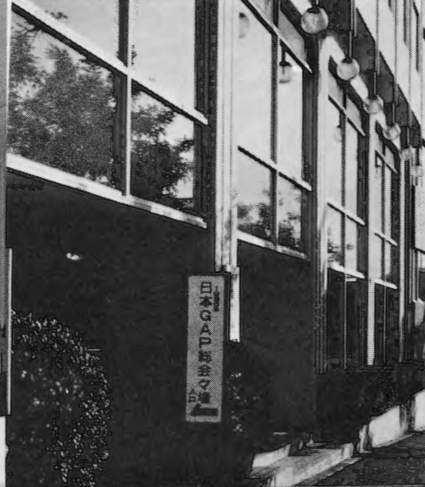
このあと二次会あるいは三次会へ流れられた人も数多く、総会の余韻が深更までも続き東京の空を焦がすかのよう。大講演会といい映画会といい記念大パーティーといい、全く創立二十周年を記念するにふさわしい素晴らしい総会だった。

総会を主催された久保田会長および参加者全員の方々には心から感謝したい。









# 宇宙的生活の基本

〈松山支部代表〉 伊藤達夫

皆さんこんにちは。ただ今ご紹介いた  
 だきました松山支部の伊藤でございます。

今日は日本C.A.P.の創立20周年の記念  
 すべき総会でございます。ここに全国から  
 おいでになった皆さんとお目にかかるこ  
 とが出来ました大変嬉しく存じます。私  
 は総会出席は今度が初めてでありましたが  
 初めてでありながら講演をさせて頂いただ  
 くということで大変恐縮いたしておいま  
 す。全国から来られた会員の皆さんと一  
 度お目にかかりたいと、かねがね思っ  
 ておりましたが、今回その機会を得まして  
 お目にかかることが出来まして嬉しい気  
 持ちでいっぱいです。

今日は、私がお話をする立場と皆さん  
 がそれを聞くという立場の違いはありま  
 しても二十周年を祝うということにつき  
 ましては同じことでありまして、ともに



この記念すべき総会をお祝いしたいと思  
 う次第でございます。

## 会長はよくやってくれた

二十年前に久保田先生がジョージ・ア  
 ダムスキー氏からの直接の依頼によって  
 日本G.A.P.を設立された頃はどのような時  
 代であったかと申しますと、当時は米國  
 とソ連の人工衛星が初めて地上から打ち  
 上げられることよって世界の住民が自  
 分の生活の中の狭いカラの中にとじこも  
 って毎日の生活を送っていた、自分のこ  
 とや自分の周囲のことだけを考えて生き  
 ていたのが、急速に住民の目を宇宙に向  
 けはじめた、そういう宇宙時代の幕明け  
 にあたっていたのです。そういう時期に  
 先生が日本G.A.P.を設立されたというこ  
 とは何か意味のあることだと思っております。

当時は、宇宙時代の幕明けの時期では  
 ありましたが、他の惑星に偉大な住民が  
 いて、地球へひそかにやって来て私達を  
 援助している、という様なことを言おう  
 ものならちょっとバカか気違い扱いされ  
 て非難や嘲笑を受けた時代なんです。そ  
 ういう時代に先生は、非難や嘲笑をも  
 とめせずに強い信念と内部の宇宙の意識  
 に対する絶大な信頼を基礎にされて、  
 アダムスキー氏との友情をきざすとされ

てこの道ひと筋に活動して来られたわけ  
 です。これは口で言うのはやさしいこと  
 ですがなかなか大変なことでありまして  
 そのお蔭で私達は現在G.A.P.哲学を知る  
 ことが出来たというわけなんです。

他の惑星からこの地球を援助するため  
 に転生して来て、そうしてこの日本で生  
 まれて日本G.A.P.を設立された宇宙的な  
 カルミツクな指導者が私達の面前にいら  
 っしゃること、その方が開設された日本  
 G.A.P.という「宇宙の学校」の私達は生  
 徒として、この宇宙の教えを学んでいる  
 ということなんです。これは本当に素  
 晴らしいことです。この偉大な方から私達  
 が学ぶことが出来ることはどんなにしあ  
 わせなことでしょうか。

よく人間の運命というのは、ある人と  
 の出会いによって決まると言われており  
 ます。まさに私達が久保田先生という偉  
 大な指導者との出会いによって現実運命  
 が変わりつつあります。今まで知るこ  
 とのなかつたアダムスキー哲学にふれて  
 それを実践することによって運命が急速  
 に転回しつつある人がいかに多いことで  
 あるかということをお考えください。  
 もし皆さん、この日本という国に久保田  
 先生という方がいらっしゃらなかつたら  
 一体どうなることになっていったか、とい  
 うことをお考えになってみて下さい。私  
 達は未だに自分の内部に宇宙の意識が存  
 在しているマインドをそれに従わせるこ  
 とも知らなかつただろうし、「生命の科  
 学」や「テレパシー」の本を正しい翻訳  
 をして下さることによって正しく理解し  
 て実践することもなかつたであらうし、

結局マインドに振り回されて、マインド  
 のみの生活をすこすことよって試行錯  
 誤を繰り返して暗やみの世界の中で生き  
 続けていたであらうことを考えた時に、  
 先生がいて下さったということ、そして  
 私達を指導して下さいということ  
 をどれ程感謝しても感謝しすぎることは  
 ないと思ふ次第でございます。

## 私はどのようにして アダムスキーを知ったか

私ははじめてアダムスキー哲学にふれ  
 たのは中学二年の時でした。私は本屋さ  
 んへ行つて立ち読みをする常習犯でして  
 よく近くの本屋さんで立ち読みをしてい  
 たんです。私がおまりに立ち読みばかり  
 して本を買わないものですから本屋さん  
 がはたきではたきにくるんです。「早く  
 帰れ」と言つてはたきんです。それでも  
 辛抱強く本屋さんへ行つていたお蔭で、  
 「空飛ぶ円盤同乗記」という本に巡り合  
 う事が出来たのです。「同乗記」の本に  
 巡り合う丁度一週間前のことですが、や  
 はり同じ本屋さんで立ち読みしていまし  
 たらある雑誌に「アメリカ人で、アダム  
 スキーという人が砂漠で着陸した円盤か  
 ら降りて来た金星人らしい人と会見した」  
 という記事に接したんです。それで「こ  
 れは大変な事だ。これだけでは事実が判  
 らないから何とかして真相を知りたい」  
 と思つたのです。そうしましたら、たまた  
 ま一週間程して同じ本屋さんへ行きま  
 したところ、書棚に「空飛ぶ円盤同乗記」  
 という本がありまして、よく見ると「ジ  
 ョージ・アダムスキー著、久保田八郎訳」



と書いてある。これは自分が一週間程前に知りたいたと思つてたことを記してある本そのものじゃないか、というわけで早速買って帰りました。読むだけじゃなく、とにかく凄いな内容だつたです。夜が寝られなくなりまして、朝学校へ行つてもボーッとした顔をしていて授業中も先生の話が耳に入らないんです。窓の外ばかり見ていて夜読んだ本の内容のことばかり考えているんですから先生からよく注意されました。「勉強する気があるのかないのか」と。何分中学生の頃は非常に純粋な心なものですからその本の内容を純粋に信じたんです。「この本に書いてあることは本当の事だ。間違いない。この内容を自分は一生、生きる糧にして目標にして生きてゆこう」と思いました。そしてヒマあるごとに繰り返し繰り返し五十回位は読んだでしょうか。内容の全てが素晴らしいのでありますが最も私の心に影響を与えたのは惑星人が「地球人は成長するまでにかんりの年月を要するが老化は早く来る。これは古い因習やしきたりのためであつて、惑星人は自分の生活の中に教訓のためものを持ち込むからであり、無益と思つたものは全て捨てるからこのように若々しくなるのです」と述べている個所に非常に心を打たれました。以後、中学生の純粋な心で「よし、この生き方を自分は小さいけれどなんとか生きてゆこう」と思いました。

### 因習にとらわれなかった

それで自分の周囲の生活の状況を見つ

めてみますと色々なものがわしくて古めかしい非宇宙的な習慣が存在しているところが判つて来たのです。それでメクラ蛇におじず式で気の付いた事からなるべく若々しい生き方をしてゆこうと思ひ実行しました。例えば日の吉凶、大安とか仏滅とかいう日の良し悪しなど宇宙にある筈がないのだから今後一切考えない事にして、自分の誕生日もご馳走して買つて祝つていたのも自分が生まれたことを祝うよりも、もう一つ年を取るような気がする、ロウソクの数が12本から13本になるのだから、その方に強い印象がゆくのでも止め、今に至るも誕生祝いはしてやりません。又仏壇に手を合わせることもやめました。それまではおじいさんやおばあさんの影響で敬虔に手を合わせるつもりでしたが、これを止め、お墓参りなども人間は死んで生まれ変わつていけるのかも人間は死んで生まれ変わつていけるのかもやめました。「同乗記」の中でアダムスキー氏が金星の母船の中でタバコを出して吸おうとするのと金星人のカルナという女性が「お好きなら吸つてもかまいません。灰を受ける物を持つて来ましょう。ただこんな奇妙な習慣は地球人だけでですよ」といわれてタバコをまたポケットにしまいこんだという個所があります。これに強い印象を受け「そう言えば大人というのは不思議なことをするものだ。口から長いものを出して先に火をつける。そして口の中からももうと煙を吐き出す。こんな奇妙な行為はよそう。どうもおかしいというので未だにタバコは吸いません。いわばメクラ蛇におじずでや

て来られた訳で、私が社会に出て色々な経験を積んだ後でこの書物に触れていたから、これ程までに純粋に実行できたかどうかは疑問です。それと今から考えて見ますと私のこうした生き方に対して、私の両親は良い意味で変わつていたといいますが、小さい私がおとなな生き方をしても何にも言わなかつたのです。全く干渉しませんでした。最近になってそれがわかつたんです。自分の親のことを話さうでおかしいですが立派な両親であつたと感謝しております。私が新しい生き方をしようとしてもし親が干渉していたら、これ程まで実行できたかどうかわかりません。とにかく非常に物わかりの良い両親であつたと思ひます。

### 古い習慣を打破しよう

そういう風にして若々しい生き方をした来たものですから、先日久保田先生がビスタの本部へ研修旅行に行かれた時には本部の方から「宇宙的な生き方というのはテレビシ―能力を高めることは勿論だが、それだけではなくて実際の生活の中にある古い生き方を打破つてとらわれないようにする事が大切である」ということを強調しておられた事を聞いて「自分の生き方というのそれほど間違つてはいなかつた」という自信が湧いて来まして非常に共感を覚えました。

先日松山支部月例会で、ある主婦の方が体験を話しておられました。この方のお里は九州の熊本でして、ご主人のお父さんが重態なので看病をしなければ

ばならないことになり、熊本市からしばらく山の中に入ったある町で約一ヶ月間看病されて帰つて来られておっしゃっていました。「田舎の因習の強いのはうんざりして、へきえきしました」と。

その方はご主人の会社の都合で転勤がありますので年寄りの方とは一緒に暮らしておられませんが、今回はたまたま看病に行つた為にお年寄りと同居することになったのです。どういふことにへきえきしたかといふと、「よそからお見舞をもらったが何を返しすれば恥をかかずにすむか」とか「お寺のお坊さんにお布施を包むのにいくら入れたらよいか」とか、「近々寄り合いがあるが誰を上座に座らせて、二番目、三番目に誰をもつてくればよいか」とか、この様な事を考へて一日中朝から晩まで費やしている。そうして毎日を送つていふことなんです。何ら建設的な考え方を全くしない。過去の人が敷いた古い習慣というレールの上を乗つたつたただ生きていくだけのまるで死体のよう人間なんです。自分で考へて自分で行動することがないんです。いわば過去の人です。

考へてみますとこうした現象は何も熊本の山の中のみでなく日本中到处で見られる現象ですね。今日ここにお集まりの皆さんもしよつちゅう家庭の内外で経験しておられると思ひます。恐らく日本の中で他人に干渉されないで自由な生き方が出来るのは東京ぐらいのものだと思ひます。大阪になるとよつと古くなつてきまして、名古屋になるともう一つ古くなるといふ具合で大なり小なり古い

生き方をしていると思うのです。

特に日本人は、本来ならば大変醜い因習を美しくして芸術化して儀式化してきますので、子供の頃からしきたりに慣れ親しんでいて、しかも美しいものですから、それに陶醉する傾向があるようです。生活の中で何が宇宙的な生き方であり、何が非宇宙的な生き方であるかの区別がなかなかつきにくいわけなんです。それに私達の生活の中には宇宙的なものとは非宇宙的なものとの複雑に織り合わさっていて区別がつきにくい状態になってしま

す。例えばどのように美しいかと申しますと、葬式を例にとりますと、人が死ぬとみんな黒い喪服を着て集まります。それが制服みたいなものです。その黒と対象的にお坊さんは金糸銀糸の美しい法衣をまといがたいお経を唱える。霊前は綺麗な花輪で飾られています。終われば田舎の道をのぼりや旗をなびかせて行列がしらずと行く。まあ一服の絵です。一種のお祭りです。そういう風に因習を美意識でとらえるものですか。どうしても古い習慣に浸り込むことになり

### 私が体験したある一例

しかし私達は美しいからといって、古い習慣に振り廻されてはなりません。やはり知恵をみかいて、それが宇宙的な生き方でそれが人間を非宇宙的にさせて後退させるニセモノの生き方であるかをチェックする必要があると思います。それ

まいます。ブラザーズは宗教を一切相手にしないことですが、これは当然のことだと思えます。人間を非宇宙的にさせる組織や団体にブラザーズが味方したり加担したりするはずはありません。

そして宗教的な行事というものが私達の生活の中で因習と密接につながってしまして一大張本人であるといえると思えます。本来、宗教は、人間を苦しめや悩みから解放して自由でのびのびした生活を過ごす為の指針を与えることが本来の目的であるはずですが、実際にはそうではなくて、人間を古いしがらみの中に縛りつけるために大きな役割りを果たしているわけで、だからブラザーズが相手にしないのも道理であると思うわけなんです。

私達は新しい生き方と古い生き方の二つに同時に仕えることは出来ません。どちらかの生き方をしなければなりません。敷居をまたいだ格好で前足を新しい生き方に置き、後ろ足を古い生き方に置いた状態というのでは意味がありません。どちらの生き方を選ぶか決断を迫られる時が必ずやってくると思うのです。そのように決断を迫られる体験を最近、私自身がありましたので、その時の体験をお話してみたいと思います。

今年の三月二十三日に松山支部大会が久保田先生をお迎えして開かれました。その時に私は、大会の司会と前後の運営全般の責任を負っていました。明日は久保田先生がおいでになるというので張り切っていました。すると大会の前日に

『いま母が死んだ。明日葬式をしなければならぬが、親類が少ないので困っているからすぐ手伝いに来てほしい』とい

って来たのです。それを聞いた時に私は目の前が瞬間真暗になりました。この従兄弟は自分が自分の兄弟よりも親しくして心の通い合った相手だったのです。父親は早く死んでしまっておらず、母親と兄弟三人が暮らしていたのが、今度は母親が死んでしまった。もうみなしご同然になったのです。三人とも結婚しておらず独身なんです。頼る相手といえれば私とかあととは数えるほどの人しかいないのです。そんなわけで一瞬私も迷いました。

考えて見ますと、この地球上で最も古い生き方の典型的な象徴である葬式という儀式と、この地球上で最も宇宙的な生き方の会合である日本GAP松山支部大会。こうした新しい生き方と古い生き方のどちらを取るかという状態に私は追い込まれたのです。どちらかに決めなければなりません。その時にいさぎよく新しい生き方を取りました。もう従兄弟に一生生涯根まれてもいい、親類付き合いを断られてもいい。従兄弟から嫌われたならばそれだけで済むけれども、自分ももしGAP松山大会に行かなくなったら一生大きな傷をつくることになる。ダイヤモンドどころではなく、それよりも遙かに偉大な何物かを今生で失うことがはつきりわかっていました。それならばいさぎよく宇宙的な生き方を取ろうと思つて葬式の世話を断りまして、東京の兄に電話して『至急帰つてくれないだろうか』と頼ると『よし良かった。代わりをしようじ

やないか』ということで兄に葬式に行つてもらつて私は支部大会に出席したのでした。そして三日間、久保田先生のおそばで色々とお話をお聞きし、ご指導していただきました。それと全国から来て下さった会員の皆さんと交流して友情を深めることが出来たのです。そのことがあ

つてから私は、GAP活動にまい進する力がわいて来たんですね。このGAP活動を今生の糧として、目標として生きてゆこうという強い決心がついたのです。

もし私があの時「従兄弟の葬式はこれ一回限りだし当分ないから可哀そうだから手伝いに行つてあげよう。GAPの大会は今度だけじゃなくて、これから何回もチャンスはあるから、今度は誰かに司会と運営はやつてもらおう」などと考えて、大会に出席しなかつたら、今日の私は存在しなかつたと思います。それははつきりと断言出来ます。

### 親切さの重要な意義

そんなわけで、たまたま私自身が古い生き方を取るか、新しい宇宙的な生き方を取るかというギリギリの決断に迫られるという体験をしたのですが、新しい生き方がいかに大切なものであり、古い生き方が人間が宇宙的に生きようとする足いかに引張っているかがよく理解出来たので、今後はなるべく古い考え方にとらわれない生活をしようと思つております。宇宙的な生活の基本は、これまでお話ししましたように新しい生き方をするにはあります。もう一つは



「報いを求めないで周囲に親切な行為が思いやりのある態度を示してゆくこと」にあります。この事は久保田先生がニューズレターや月例会等で度々述べておられます。特に目新しくはありませんが、ビスタの本部の方々も久保田先生に「アダムスキー氏はGAPに関係のない人にも温かい思いやりある態度で接した。私達もそうしている。だからあなたもそうしなさい」と言っておられました。私達が集団に気がねをしないで新しい生き方をする事自体は立派な行為です。しかしあまりにも周囲の気持を無視してかかりますと、周囲からは「あの人は言っている事は立派だが、どうも礼儀を知らないし、無作法だ。他人の気持ちをよくみ取ろうとしない。自分勝手に自分だけ良い子になろうとする利己主義者だ」というような見方をされることが多くないですね。私達はこの世に生まれた以上は自己共に調和し合ってお互いに励まし合って助け合うことで、この世の中を少しでも住み良い世界にしてゆくという使命があると思います。そのことを自覚しないうちに世の中が混とんとして混乱ばかり起こることになると思うのです。このGAP哲学は宇宙的な生き方をすると共に、周囲に親切な行為をすることが必須条件になると思います。私はここ二、三日間親切な行為というのはなぜ必要であるかと考えてみました。それでわかったのは、親切な行為はエゴの心ではないですね。古い因習にとらわれている心がエゴの心なんです。自分は新しい生き方を実行しようとするけれど、出来ない人が多い

ですね。これは内部のエゴの心が妨害しているんです。「そんな新しい生き方をしたら周囲から嫌われやしないだろうか」あるいは「そんな事したら田舎のことだから、あの人は協調性がない付き合いの悪い人間だと思われて村八分になるのではないか」というふうな恐怖心が出て来て妨害するんですね。私達GAP会員はエゴの心やエゴの心から派生した恐怖心に自分のマインドを支配させてはならないと思います。しっかりとした信念を持ち、自分がこの新しい生き方をしようとするのは自己の内部の宇宙の意識の呼びかけであること、衝動が起こってきていることを自覚して、それに従うことは正しい行為なんだという強い信念を持って行動することによって宇宙的な生活は成就すると思うのであります。

それで親切な行為は自分の内部からの意識の発現ですから、それに従って相手に親切にすれば、相手の内部の意識が表面に呼びさまされて来て共鳴作用を起こすのです。親切にされた相手は「自分は大変困っていた時にあの人は親切に相談のつてくれてアドバイスしてくれました。そのお蔭で道が開けてきた。自分は本当に嬉しかった。この世の中は冷たい人ばかりで実もフタもない世界だと思っていたけれども、あの人が親切にしてくれたお蔭でどれほど自分の心に喜びを与えてくれたかわからない。この受けた喜びを今度は自分が他の人が困っていたら返してあげよう。励ましてあげて相談のつてあげよう」という気持が起こってくるのです。これがその人の内部の意識

が発現してきたわけなんです。ただ、親切な行為と申しましたが、知恵を働かせてある人に親切にするのがよいか、そっとしてあげる方がよいかどうかは内部からのフイーリングにしたがう必要がありますが、基本的には、今申し上げたように、自分と他人の両方の内部の宇宙の意識を発現させることが親切な行為だと思います。

中国の論語の中に「君子は和して同ぜず」ということわざがあるのを皆さん、ご存知だと思います。この「君子」という意味を私は「知恵のある人」、または「英知ある人」と考えております。このことわざは、他人と調和していても日頃の行動は同調しないという生き方こそ宇宙的な生活の基本を最も象徴的に表現した言葉だと思っております。日頃は周囲とは生き方が違いますから、自分は新しい生き方をしており、周囲は古い生き方をしている。この世界はお互いに各人の生き方を選ぶ自由がありますから、それに干渉する事は出来ません。他人がたとえ古い生き方をしているも干渉すべきではありません。しかし相手が困っている時には、行って手を差し伸べて援助してあげることによって表面的ではなく、真の意味の和解、人間関係の調和が現れてくると思うのです。これが真の意味での「和」であって、行動を同じくすることが「和」ではありません。行動は別々でも心の奥底でお互いに調和して尊敬し合っていることが本当の和解であって、これが本当の民主主義の基本だと思うわけでございます。そんなわけで、因習に

### 若さが最も大切

とらわれない新しい生き方と他人への親切な行為という二つが相まってはじめて宇宙的な生活の基本が成り立つと思うわけでございます。

話は変わりますが、皆さん宮内温夫さんをご存知ですね。日本GAPの会員で大変有名な方です。アメリカへ渡られてニューヨークのブッシュビーン・スタジオで指導者に認められて、「タイム」という有名な雑誌の表紙のイラストを二度も描いて、一躍有名になった方です。この宮内さんは、実は松山の出身なんです。GAPの先輩であると同時に松山の先輩でもあります。それだけに私は非常な親近感を覚えるのです。まだお目にかかったことはありませんが、ぜひ一度お会いしたいと思っております。この方がおっしゃっていました、**「日本GAPの会員は若い方が多いが、アダムスキー哲学を頭では理解しているのだが、どうも信念がもう一つ弱いのではないか。このことを皆さんに伝えてほしい」と**久保田先生に話しておられたことを聞きまして、私は信念が弱いというよりも、若い会員の皆さんがこの世における若者の役割りを認識しておられないからではないかと考えました。この会場に来ておられる方々も若い人が大半で、よほど若いお年寄りはいないですね。若い方ばかりです。それで、あえて皆さんに申し上げたいことがあります。それは、この世の中を表面的にはともかく、真の意味で改革して

ゆくのは若い人であることを知っていた  
 だきたいのです。決して老人ではありま  
 せん。老人というのは過去の人が敷いた  
 古い習慣やしきたりを、ただ守り続けて  
 ゆくだけの存在にしかならないのです。

決して新しい生き方を生み出したり、世  
 の中を宇宙的に進ませたりする力は全  
 くありません。この力は若者にしかない  
 のです。これは私が自分の考えだけで申  
 しているではありません。歴史的な事  
 実なんです。例えば日本の歴史を振り返  
 ってみますと、昔からゆくと、「大化の  
 改新」があります。これは若い藤原鎌足  
 や、中大兄皇子といった二十代、三十代  
 の若人が新しい時代を開きました。中世  
 では鎌倉時代の創設があります。これは  
 源頼朝が三十代の若さで、当時の平安貴  
 族の怠惰を打ち破って鎌倉に清新な政府  
 を樹立しました。最近では明治維新があ  
 ります。吉田松陰、坂本龍馬、桂小五郎  
 といった人達が、「よし活動しよう」と  
 思い立ったのは二十代、三十代です。か  
 らね。当時、その人達は今のGAPの皆さ  
 んと同じように日本人の意識レベルをは  
 るかに越えていたんです。坂本龍馬など  
 は当時、すでに「地球」という言葉をた  
 びたび志士との対話の中で使っています  
 あの時節は幕藩体制がくずれ、日本国  
 民がようやく一つの藩の力を破って、  
 日本を一つの国としてとらえようとして  
 いた時期だったのです。そのような時に  
 龍馬はすでに地球という観点でこの世界  
 を一つの世界としてとらえていたのです  
 から、彼の考え方がいかに宇宙的であり  
 進歩的であったかがわかります。

龍馬が生きた時代は政治的な時代でし  
 た。私たちの今の時代は、政治的な時代  
 ではありません。しかし、本質は変わっ  
 ていない筈です。とにかく当時の若者た  
 ちが、老人の支配を打破して活躍したか  
 らこそ、前進が出来たのです。ですから  
 老人がいばっている時代は暗黒の時代で  
 あり、若者が活躍する時代は、光明に満  
 ちた前進の時代です。今の日本は老人が  
 支配しているから、あまり良くないです  
 ね。

とにかく、「若い」ということを皆さ  
 んにもっと自覚していただきたいのです。  
 若いからこそ、この新しい宇宙的な生き  
 方が出来るのだということ。私はこの  
 会場にお年寄りが来ていたら、こんな事  
 は言いません。若い方々ばかりだから申  
 し上げるのです。若いからこそ、世の中  
 を改革出来るのです。たとえそれが政治  
 的な表だった華やかな活動であれ、逆に  
 私たちのように地味で目立たない活動で  
 あれ、それは一切関係ありません。真に  
 世の中を変えてゆくのは若者であること。  
 そして強い信念と自信をもって堂々と  
 この世の中を生きていっていただきたいと  
 思います。私たちには、宇宙哲学という  
 素晴らしい哲学がありますからまさに鬼  
 に金棒です。この哲学を基礎にして若者  
 の役割を認識して生きて行っていただけ  
 れば不可能なことはないと確信しており  
 ます。

話はもとに戻りますが、今日は日本G  
 APの創立二十周年を記念した総会です  
 この二十年間、久保田先生はただひたす  
 ら私たちにこの素晴らしい宇宙哲学を与

えるだけの二十年間でした。「この生き方  
 をしなさい」と、決して強制はなさらな  
 かったですね。ただ、「皆さん、こうい  
 う生き方がありますよ。この生き方は素  
 晴らしいから実践してゆきましょう」と  
 アドバイスや示唆はなさいました。強  
 制はされませんでした。ただ私たちに与  
 えるだけの二十年間でした。しかしこれ  
 からの二十年間は、先生が私たちに何を  
 与えて下さるか、を期待するのではなく、  
 私たちが先生にどんなことをしてあげら  
 れるか、どんな協力が出来るか、という  
 ことが課題だと思っております。

皆さん、これからも手を取り合って日  
 本GAPという『宇宙の学校』の中で、  
 ともに学習に励んでゆくようではありませ  
 んか。

## 生活の中の アダムスキー哲学

〈仙台支部代表〉 笠原弘可

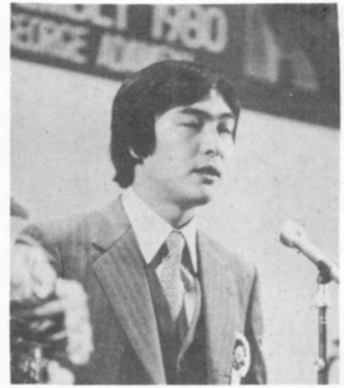
皆さん、こんにちは。私は仙台支部の  
 笠原です。この二十周年記念の総会に際  
 しまして心から喜びの意を表したいと思  
 います。ひと口に二十年といいますが、  
 並大抵のことではありません。特にGAP  
 は政治、宗教等と全く関係なく、会員  
 制といっても資金は機関紙代だけで、全  
 くの個人的奉仕活動なのです。この活動  
 に対する絶大な信念があれば、必ず  
 途中で消滅していたに違いありません。  
 さまざまの障害を乗り越えて、こんに  
 ちまで私達を御指導下さいました日本G

AP会長久保田八郎先生、本当にありが  
 とうございました。今後とも益々の御活  
 躍を期待しております。私達もできる限  
 りの協力を続けていこうと決意を新たに  
 しているところです。

GAPの総会といいますが、私は三年  
 前のことを思い出します。丁度フレッド  
 ・ステックリング氏の講演のあった時で  
 す。私のすぐ後にいた二人がこういう会  
 話を交わしているんですね。「GAPつ  
 て何の略なんだい、ジョージ・アダムス  
 キーPR活動かい」と言っているんです。



使えませんが、今日以下同文という得意の手を



私はおかしう吹き出しそうになりました。もしかしたら冗談でいっていたのかも知れません。もう一人が「ゲット・アルコール・プログラムだ」と答えたかどうかは記憶していませんが、まあ、これは笑い話です。

さて、この記念すべき総会におきまして、講演の御依頼がありました時、正直いまして非常に驚いたのです。もとよりの演壇に立つて皆様に話せる何ものもない私です。しかし、これも良きレッスンを与えられたものと思ひ、全力を尽くしたいと思ひます。

私は人前で話すのが苦手でして、今年の山形・仙台合同支部大会でも挨拶をしましたが、いざ皆さんの前に出ますと、考えていたことをすっかり忘れてしまったのです。結局、どういったかと申しますと、「今、山形支部の山口氏が、私の言いたいことをすべて言って下さったので、私は何も言うことはございません」とやったわけです。これは非常に便利ですが、今日以下同文という得意の手を

## 各自のレッスン

アダムスキー哲学につきましては、皆さん、くわしく研究されていると思ひますので、その哲学を生活の中で実践する際の私の考え方、あるいは実践している方法などをお話ししたいと思います。

アダムスキー哲学あるいは宇宙哲学などとは私にはよく口にはしますが、簡単に考えますと、これは宇宙のどこにいても通用し、なおかつ、有意義な生活を送れる方法ということができると思ひます。つまり、この哲学は普遍的なものでも、決して個人的なものでもありません。しかしながら、これを身につける方法にはある程度個人差があります。むしろ、統一化した方法で行うことの方がこわい気がします。精神道場などといって、集団で同じ行動をし、同じ行法をして教えを説いているところもあるようです。一人一人の学ぶべきことが異なるのに、これで本当に進歩できるのでしょうか。他人にこちそうを食わせてもらっても自分がおなか一杯にならないように、他人から押しつけられた方法によって向上できるとは私には思いません。あくまでも一人一人が、実生活の中でレッスンしていくもので、その際、方法に個人差がでてくるのは、やむを得ないことだと思ひます。私の考え方は、かなり独断と偏見に満ちているかも知れませんが、皆さんの賢明なる判断力をもってお聞き願えれば幸いです。

## 人生は楽しむためにある

アダムスキー氏の書物を研究しますと、センスマインドのコントロール、想念の観察、宇宙の意識との一体化の方法などが述べられています。よく読んでみようと、私達が実生活でどのように具体的な問題に対処し、解決していけばよいかはほとんど書かれていないことに気づきます。実際一つ一つの例をあげて書きますと、何万ページの本でも足りないと思ひますが、とにかくアダムスキー哲学を生活にどのように生かすかは、私達の手に任せられているわけです。

私はときどき自分に問いかけることがあります。なぜ、人間は生きるのか、生きねばならないのか。この答えは、きっと言葉では言えないと思ひますが、いえますことは、総ての生物が生きようとする意思を持っている、ということだと思います。人間の存在の深い意義について語ることはとても私にはできません。しかし、幸福を求めて生きている、とは万人にあてはまることだと思ひます。「幸福」という言葉もあいまいです。わかりやすく考えますと、人生を楽しむ、楽しく人生をすごす、ということだと思ひます。

さすべてが憂愁で消されていった。すると彼女は、低いテーブルからグラスをとりあげて、それを一口飲むと、また微笑した。グラスを置いて彼女はいう。「こんな悲しいことをお話しするのはたいそう残念です。しかもこのような苦悩が宇宙のどこかにまだ存在するなんて、いっそう悲しいことです。他の惑星に住む私達はないそう陽気です。とてもよく笑うのです」。この簡単な話の言葉に私はすっかり感動してしまつた。彼らは各自の惑星にいて楽しいのだ」とあります。そうです。まず何より、楽しく明るくあることが、アダムスキー哲学を生活に生かす上での根本ではないでしょうか。逆にいうと、喜ばしい生き生きとした人生を送るために、アダムスキー哲学が存在するとも言えるでしょう。

そんな哲学も思想も必要ない、我々は充分人生を楽しんでいる、とある人は言うかも知れません。人生とは苦しいものだと思ひ込んでいる考え方よりは良いかも知れません。しかし、ここにおられるGAP会員の皆さんはこれでは満足されないでしょう。私達はもともと人間を知りたいのです。万物を知りたいのです。そして生命を感じたいのです。そのような宇宙的な生き方をしようという、どうしようもない衝動をもち、そのような生き方に、最大の喜びを感じる人々の集まり、これがGAPなのかも知れませぬ。

## 笑いは幸福の源泉

「このようなことを語るにつれて、カルナの表情にたたえられていた自然の快活



最近、GAPのある女性会員の方から素晴らしいお手紙をいただきました。別にラブレターではございませんが、その中にこんな文章がありました。

「いつも明るい楽しい想念状態にいるための一つの方法を考えました。それは常にどんな時でも「ニコッ」「ニヤリ」と笑うことなんです。今は意識して無理に笑っていますが、いつの日か必ず無意識のうちに美しい微笑ができることを信じて努力していきたいと思います。無理にでも笑うと必然に楽しい気分になってくるから不思議です」

大変素晴らしい方法だと思います。

ある本で読みましたが「笑おう会」という会があるそうです。指圧で有名な浪越徳次郎氏が笑裁だそうです。あの「指圧の心は母心」という名文句で知られた人です。毎月例会がありまして、笑いのたねを持ち寄ってはみんなで笑いまくるということなんです。テレビで紹介されたのを見たことがあります。みんな笑うために参加しているものだから、その笑い方はすごいんですね。あるお年寄などは、入れ歯をとばして笑っているんです。ハッハッハッ、カパツという感じです。その場面をもう一度スローモーションでやりましたが、最初はハッハッハッという声ですが、途中から突然フアツフアツフアツという声に変わります。

この笑おう会顧問の医学博士宮入氏はこう言っています。

「動物で笑えるのは人間だけで、笑いは人間の特権である。笑いのない人生は歌を忘れたカナリヤのごとく人生の砂漠

である。微笑みは血圧を下げる最大のくすりにして微笑みにまざる化粧法なし。大笑いは横隔膜の上下運動をおこして胸中のうつぶんを去り、腹中のこりを除いて消化を活発にし、不眠症の最大の療法である」

まあ訳もなく町の中を笑って歩けば間違えられますが、冗談の一つも聞けば笑える、という柔軟で明るい精神状態は、アダムスキー哲学を実践する上での基本と思うのです。

アダムスキー氏は「テレパシー」の中でも「生命の科学」の中でも、自然を観察する事を教えています。明るい精神状態でこそ、彼ら自然界の囁きを聞けると思ふのです。逆に、自然界をながめて、心が晴れ晴れしてくることもあるでしょう。

ここで重要なのは信念です。沈んだ気持ちを持ち直らせる力は信念です。信念はどういうふうにも応用できます。

例えば、金こそすべて、財産こそすべてだ、という考えの人は、金を絶対もっていてやる、という信念を自分の中に強くもつこととなります。あまり、こういう信念はもちたくありませんが――。

### 信念が重要

私達是否応なく現実の中にいます。他人に「世間は甘くない」などと説教されないまでも、みずからきびしい問題に直面することもあつてしょう。そんなときでもなお堂々たる精神を保てる、あるいは、いつとき落ち込んでまたまた明るい希

望に満ちた状態にのみがえるためには強い信念が必要です。

私は国鉄に勤務しておりますが、前にいました駅は組合活動が非常に盛んな所でした。組合一色の駅なのです。別の組合員であつたり組合に入っていないかつたりしますと、露骨にいやらせを受けまゐります。九割以上が某組合員ですので、私のように組合に入らない職員への風当たりは相当のものでした。ちなみに、国鉄はオーブン・ショップ制といまして組合に入ってもいいし、入らなくてもいいのです。何人か集まって新しい組合を作ってもよいのです。現在知られているだけで六つか七つの組合があるそうです。

対立する人間の間では、挨拶もしない口もきかないということが普通に行われているようなどうしようもない駅でした。

入社して三カ月後、私は辞表を出し、転職を考えました。しかし母の異常なショックをまのあたりにしたので。最後の最後は、どんなに説得しても家族が自分の考え方に反対の場合は、家を出るしかないと思つたのですが、極力家族や周囲との調和を保ちたいと考えていましたから、その時は辞表を撤回しないわけにはいきませんでした。

その当時から一着きつ時期でした。そしてそんな時、私を支えてくれたのは、やはりアダムスキー氏の言葉でした。生命の科学の中にこんな言葉があります。

「たとえ、一独裁者が人民を支配しようとするとき、他人に対するみせしめとして自分に反抗する者を殺します。こ

んな野蛮な方法で実例が示されるのに、我々が世間に対してすぐれた実例を示せないことはありません」

強い意志を示しながら相手に悪感情を持たないということは非常に難しいことです。

組合への加入を勧められれば、はつきりと断りました。しかし挨拶することも普通の態度で接することもやめまいと思ひました。このころほど「つまらない想念に混乱すること程つまらないことはない」と痛感したことはありませんでした。そして職場から帰る途中、山の頭上に広がる空に向かって、「自分は自由なんだ。宇宙の大生命力と一体なんだ」と毎日のように繰り返したことを忘れることはできません。

今から二年半前に転職しまして、思ひ出多いその駅を後にしましたが、そういった組合の幹部から「色々あつたけど個人的には……」と言葉をにこしながらも饒別をいただいた時は印象的でした。あとでビールのギフト券を持つていったので少し損しましたが――。

まあ、私の体験など全く苦勞の苦の字にもならないものと思ひます。もちろん苦勞などない方がいいと思ふのです。そういういまでも人生を歩むにつれて、いろいろな事が起こります。

ですが、私達を創造し、生かしている宇宙の意識が私達を苦しめようとしているのでしょうか。ましてや宇宙の法則のもとに生きようとしている人達に対しては必ず何らかの良き方向へいく道が示されると私は信じます。

「神様は、私に何もしてくれなかった。あの時、あんなに折ったのに」などという人がいます。宇宙の意識は「情」では動きません。その力は信念によってのみ動くと思うのです。人間のマインドは、時としてたやすく裏切りますが、宇宙の意識は決して裏切りません。

意識は絶えず、よりよき方向に人を導いていると教えられています。言い換えれば「さあ、使つて下さい」と英知と力が、いつも待っているということ。私たちが人間も、自分を本当に信頼してくれる人に対しては、全力で応えようとするものです。応えようとしても、うまくいかなくて相手に申し訳なく思ったりすることもあります。宇宙のパワーは、信頼されればされるほど、間違ひなく、その英知と力を、私たちに与えてくれます。

### 根気よく自分に呼びかけよう

昔、大きな釣鐘のある寺で弁慶と義経が力くらべをしたという話があります。力自慢の弁慶が全身の力を振りしぼって大きな釣鐘を押したそうです。それでも釣鐘はびくともしなかつたのです。今度は義経が挑んだのですが、体力的に数段おちる義経が見事にこの大釣鐘を動かしたのです。それはどうしたのかといいますが、義経はじつくりと時間をかけ、釣鐘をぐっと押しては力を弱め、また押しは力を弱め、をリズムミカルに繰り返したのです。多分に作り話めいたところがあるのですが、なかなか面白い話です。根気よく自分自身に呼びかけつづけるこ

とが重要で、一時の燃えたつような想いでうまくいかなかつたといつて失望するのは考え違いだと思います。

宇宙的な生き方に絶望感や悲壮感を感じねばならないものです。時として沈んだ感情におそわれることもあるかも知れません。そんな時こそ喜ばしい生活を送るために、今じっくり考えているのであって、決して悩むために悩んでいるのではないんだ、と心に言い聞かせる必要があると思います。

素晴らしい宇宙の人々が確かに存在しますが、彼らもまた一步一步進んで今になつたのです。そしてそれは各々の生活の中で、自分自身の足で歩んだのであって、誰かに背負ってもらつたわけではないのです。進歩とは、今突然、金星人や土星人のようになることではなく、各人のいる場所から一ミリでも一センチでも歩むことをいうのだと思います。

このように胸を張って堂々と宇宙の法則によって生きようとした時、すでにその人は宇宙の人間の仲間入りをしたと言えるかも知れません。やたら、難しいことを考えても、自分の足で歩こうとしなければなんにもなりません。

重荷を心からはずしてやっつて、青空でもながめて、にっこり笑えれば準備OKです。感じる態勢完了です。

これが単純なようで、なかなかむずかしいのです。よし、青空に向かってにっこり笑おうと思つたら急に雨が降つてきたりしまして――。

これは冗談ですが――。

### 想念通過法を考案

哲学、それも宇宙哲学などというところ、いかにも難解な感じがします。確かにアダムスキー哲学は深遠な事柄を数多く含んでいますが、難解なものではないはず。彼の哲学は難しくない、難しいのはその実践である、とよく言われます。生き生きと明るく、愛と奉仕の気持ちにあふれ、創造主のもとに万物や万人が調和して生きるべきだ、とアダムスキー氏は説いています。その実践が難しいのですから、いかに人間が重苦しく、陰険で、分裂の中に生きてきたかが、逆にかるような気がします。

私達地球人は、長い複雑な歴史の中で体内に宿る宇宙の力に封印をしてしまつたのです。因習的な社会の中で見失つたその力を私達は生活の中でみつけようとしています。だからこそ、理想社会を現実には生きたる他の惑星の人々の言葉に耳を傾けなければいけないといえるでしょう。彼らは気苦勞を感じることなく、ゆつたりと、しかも各人が人生を楽しんでいるのです。

私達はテレパシーの能力に大変関心を持っています。もちろん私もその例にもれません。「求めよ、さらば与えられん」という言葉通り、何事も求めることが大事なのでしょうが、テレパシー能力については、あまり求めすぎではダメなようです。「感じよう、感じよう」という想いが壁をつくつたり、細胞を緊張させたりするので。さらに悪いことには、そ

のはやる気持ちが勝手にイメージをつくつて、それをテレパシクな印象だと感違いしてしまうことです。

予知夢というものがあります。私もあの先輩に、「飲みにいこう」と誘われる夢を見まして、次の日、お互いに宮城県の人なのに、どういふわけか上野駅でばつたり会い、結局飲みに行こうと誘われたという経験があります。夢が未来や過去などを、かなり正確に映すのは、細胞がゆつたりして求め過ぎないからだと思います。もちろん全く求めないのではなく、適度に求めてゆつたり待つのがいいと思うのです。

自然界をながめ、リラクセスした精神状態。ここからすべてが始まるような気がします。毎日の生活の中で、星空でもいじし、樹木でもいいのですが、自然を観察する時間を持つことは必要です。

前の勤め先の駅でのことですが、どうにも重苦しい心境でいました時、線路端に小さなタンポポが咲いているのを見てはっと目がさめたような気になつたことをおぼえています。自分がこんな気分であっても、生命力は万物がこんなにも生き生きと美しく生かしていかれるんだなあ、その力が今、自分の中にもあるんだと思つたら、非常に元気が湧いてきたのです。

真剣さというものは、何事をするにも重要なことです。深刻さは真剣さとは別のもので。私もこの深刻になり過ぎのいわば深刻病に何度か陥つたことがあります。この病気の症状といえますと、顔

は無表情、視線はうつむき加減、冗談など一つも言わない、絶えず、自分なんか駄目だ駄目だという想念が心を暗くします。前の駅にいたとき、そうですね。今から約五年位前になりますが、その頃の私はまさにその症状でした。

そこで、なんとかせねばと考え出し、非常に効果のあったのが、想念の通過法という方法です。もちろん私が独自に考えた方法ではなく、想念観察法の応用といえるものです。

深刻病にかかりますと、ちょっとのことが気にかかるものです。つまりぬ想念を捕えて離さなくなるのです。そこで、片っ端からそういった想念を通過させるわけです。私は今、特急列車は皆通過する小さな駅に勤務していますが、マインドでもこれをやるのです。「次の想念は通過します。白線までお下がりにください」という具合です。最初は習慣細胞が邪魔しましてなかなかうまくいきません。

習慣細胞というのは習慣想念の線路のようなものと言えるでしょう。習慣想念はその線路を使ってわがもの顔に走り回ります。習慣細胞には駅まであって、駅前にはエゴ町という町ができています。列車が到着すると、悪人が大勢降りてきて、降りた町の善良な宇宙的細胞まで荒らそうとねらってきます。

このへんの考え方はいろいろできるでしょう。私はいちおうこのように考えて極力、習慣想念を体内にとどめないで通過させるようにしたのです。これは歯をくいしばって「出てゆけ」などとやっつては逆効果のようです。さりげなく流す方

がよいのです。そして、常に反復想念を用いて、習慣細胞の質を変えるようにしました。反復想念のときの言葉は肯定的な言い回しの方が良いと思います。

例えば、イライラして困る時に「私はイライラしない」というよりも、「私はゆつたりと落ちついている」といった肯定的な言葉の方が効果がありました。

だんだんやっついていくうち、パツと眼を見開き、背筋を伸ばして、同時に明るい表情をつくりながら行うと、つまらない想念がすーっと通過していくようになりました。

おかげで少々忘れっぽくなりましたが忘れっぽいのは前からじやないか、とある人に言われ、すかさずその意見も通過させました。

私達の一つ一つの細胞にも絶大な英知が宿り、活動しています。自然界はその姿を千にも万にも変え、私達に囁きかけてくれます。何より、私達は生命の連続について少なからず知っています。加えてこのように素晴らしい友人達がいてくれます。喜ばないわけにはいきません。

楽しくないはずはありません。そして強い信念を持ち続けることができます。いつか、きらめくような想念の輝きを心底から実感できるに違いありません。目覚めは突然やってきますが、目覚める準備は突然にはできません。私達は暗闇にじつと手を握りしめて奇跡を待っているわけではないと思います。まず生活の中を明るい喜ばしい想念で満たすことが必要ではないでしょうか。失敗もまた楽しいものです。私達に新しい方法を教えてくれ

るのですから――。

地球社会はいろいろな制約を人間に押しつけてきますが、少なくとも自分の想念は自由でありたいものです。そのためには、強い信念が必要です。私も未熟者ですが、毎日何かしら積極的想念を全身細胞に呼びかけていこうと思います。宇宙は広大で、時間もまた永遠です。

今日のこのGAP総会のことを、遠い遠いはるかなる記憶として、なつかしく思い出すときがくるかも知れません。その時、この地球から何億光年もかたの惑星に居るかも知れません。私達はまだまだ知らない事を無数に持っています。

だからこそ、旅を続けるのです。つまらない事に絶望したり、ちょっとの事で焦ったりしては、私達を創造してくれた大宇宙に申し訳ないと思えます。

人間は自分の信ずるよう生きても、他人にはどうすることもできない場合もあります。

苦しみや悲しみは、あるいは宇宙の英

知の警告なのかも知れません。

生き生きとした喜びの感情が厳然としてあるのです。そして、そういう状態を快く感じるように私達は創られています。さらに快適に生き、本来の姿に復活するためのアダムスキー哲学というものめぐり会えました。今までの生き方に汲々としている必要は全くなくなつたと思うのです。

今後とも明るい気持ちで困難に挑み、時に失敗しても、明るい気持ちで立ち直り、さらに力強く堂々と生活の中でアダムスキー哲学を実践し続けようと思っています。

私が常に励ましてくれる言葉にこういうものがあります。

「私を生んだ」父に確固たる信念を持ち、私のあらん限りの力をもって「父」の目的に奉仕する限り「父」は私を見捨て給うことはない。G・アダムスキー。皆さん、ともに頑張ろうではありませんか。

ご静聴ありがとうございました。

## 実践二十四時間

〈静岡支部代表〉野口敏治

みなさん、こんにちは。

本日は日本GAPが発足しまして二十周年という記念すべき大会にこのような席からお話しさせていただきます機会を与えて下さいました久保田先生に心より感謝申し上げます。

この二十周年という記念すべき大会に

日本全国より朝早くからこのように大勢の皆様方が参加されましたことは、この大会を機会として今まで以上に一段と強力にアダムスキー哲学の実践に踏み出してゆこうとする固い決意と大きな期待をもつて参加されたことと思われれます。

私がアダムスキー哲学と出合い、日々





学んできまして、人間の良き運命そして宇宙の人間の形成には実践以外にはないという結論に達しまして今日までいろいろと感じたことや気が付いた事など、限られた時間ではありますがすこしお話しさせていだきたいと思えます。どうぞ気軽に聞き下さい。

### 何よりも実践

私達のこの宇宙はひとつの規則正しいリズムによって動いています。春には、美しい花が咲き、秋には紅葉するという四季の変化があります。そしてまた夜空に輝く星ひとつを見ても一瞬の休みもなく整然と運行し、その道を外れることはありません。このように宇宙には人間の力ではどうすることもできない力、大自然によって定められた力、つまり宇宙のパワーが歴然と存在していることはもう皆様方ご承知のとおりであります。この宇宙のパワーつまり宇宙の英知あるいは宇宙の意識と呼んでいます。これがこの存在

をすなおに信じ、認めることが宇宙哲学の実践の第一歩つまり原点であります。

皆様方もアダムスキー氏の体験とその哲学に接しこれこそ自分の生きる道であると強い感銘を受けられたことと思えます。アダムスキー氏は、私達に次のような大切な教訓を与えてくれています。

「アイデアや決意をもったならば、どんな事があっても迷わず、それは必ず実現するのだという強力な信念をもって進むべきであり、またそれを実現させるだけの実践をしなければならぬ」ということであります。

しかしながら決意をもち実践に踏み切っても、しばらくして自分の決意に対してこれでいいのかが心が動揺し、なかなか継続できません。宇宙哲学の実践というものは、今日一日実践をしたからその翌日に、また一カ月実践をしたからその結果が出ると思えますが、宇宙哲学の実践というものは、自動販売機のように百円玉を入れればすぐ結果が出てくるようなものではありません。

実践というものは人間の人格の本質を変えるというのが根本となっていますから、今まで生きてきた長い年月での曲がった考え方や、今までの古い習慣というものに打ち勝って少しでも宇宙の生き方のできる人間に変えてゆこうとするので、それから、それこそ長い間の根気よい実践というものがどうしても必要となります。これを休みなく確実に実践してゆけば、どんな人でも必ず進歩した素晴らしい人間を作り上げることが保障されて

いるのであります。

私達は、日々の実践によって宇宙的な人間を作り上げるという目標を持つと同時に、この地球全体の宇宙的な向上そして太陽系の進歩という広大な理想つまりスペースプログラムに直結しているということを心の片隅に常にとめておく必要があります。今日の私達の個々の実践というものが必ずスペースプログラムにつながっているという信念を持つほど大切なものではないのであります。

実践して何がなんでもすぐ実現せよと焦ってはなりません。焦りは必ず心に不満とか不安というものが生じてきます。人間の心は誰でも完全ではないからです。私達の心に少しでもそのようなマインドが生まれてくると実践にも身が入らず、宇宙的な人格の形成という本来の目標からは、どんどん遠ざかってゆくばかりです。そしてもとの自分にもどるには多くの時間と労力を費やすという結果になってしまいます。

今日の実践の結果がすぐに現れなくても心配することはありません。その実践してきた分だけ宇宙の銀行に預金しているのだと、大きな気持をもってコツコツと実践し、そして来世で大輪を咲かそうではありませんか。焦ることはなにもありません。必要なのは、不屈の信念と明るい希望というものを持ち続けることだけあります。

かの幕末の志士坂本龍馬は、日本の会議を中心とした平等社会の実現は、自分の時代に来なくとも五十年百年後には必ず実現するという強力な信念を持ちつつ

けていたからこそ、あのような情熱的な素晴らしい活躍ができたのであります。自分の進むべき道をきめ、それを信じてこそ、すべての実践の基礎となるのではないのでしょうか。

私達は、宇宙哲学、アダムスキー哲学と、哲学という文字を見ると何か非常に難しいものを学んでいくという先入観があり、またまわりから「哲学とは難しいものだ」と言われるとそのように思い込んでしまふ。つまり「哲学とは難しいものだ」と言う言葉の暗示にかかってしまっているのではないのでしょうか。

アダムスキー哲学を実践してゆくといいことは、特別な場所でも特別なものを学ぶというものではありません。大自然の姿のように自分のありのままの姿、つまり日常生活のなかで自分の内部に宿る宇宙の意識からの印象のままに行動すればよいわけです。自然界の動物、植物がその生き方を示していますので、私達もそれを見習えばよいのですが、人間には心というものがあって、これが宇宙の意識からの印象を聞くのをいろいろと妨げています。この心を上手に訓練することができます。この心で印象の感受の仕方が違ってくる。どのような場所においても、どのまうな人々と接しようが常に自分の心は乱れることなく、宇宙の意識からの印象を聞く準備ができていくのだという人が宇宙的人間であるといえると思えます。学校や職場で毎日あらゆる人々と接する機会がありますので、その時、その場所がもう自分の実践の場であり、つまり私達が目覚めたその瞬間から、

そして寝るまでの間、実践するチャンスが与えられているわけです。ときには寝ている間でもいろいろな夢を見たりします。これらの夢の内容も分析すると私達の生活になんらかの影響を与えていますので人間二十四時間が実践の場であると言えるかと思えます。

このように人間の行動するありとあらゆる場所が実践の場となりますので、この地球全体も一つの道場であるといえます。地球での学びが終わるとまた次の道場が待っています。人間は永遠に学び続けそして自分をより宇宙的に進歩向上させてゆこうと生まれてきたにちがいないのです。これが人間の本来の生きる姿ではないでしょうか。

### 印象をすぐに行動に移すこと

宇宙の意識からの印象を聞きとる心の準備ができたならばその印象に従って行動に移せばよいわけです。しかしながら心を静めても、どれが宇宙の意識からの印象なのか、なかなかわかりませんが、これは実際に行動に移してからでないとその結果はできませんが「生命の科学」のなかで「心の意志は意識の意志に従う必要があります。意識の意志は自らを押しつけません。意識の意志の表現は、親切で豊かで美しいのです。意識の意志は恐怖を知りません。自然界の万物は宇宙の法則の意志によって働いています」とあり、これが重要なヒントになっています。

私達には毎日数多くの印象がやってき

ます。その印象のなかで一番最初にあつた印象に従ってすぐ行動に移せば、それは宇宙の意識からの印象にまず間違いのないと思えます。これは何回かの体験からそう感じました。一番最初にやってくる印象には、自分の我々というものが入っていない純粹な心の状態の時であるからです。二番目の印象からは、一番目の印象に対して心があれこれ詮索し始めて我々というものが入り込んできてもう純粹ではなくなってしまう。この宇宙の意識からの印象には、日常の仕事のこと、生活のこと、遠からず起こる身のまわりの変化、予知的なものと同様なものがあります。これらの印象があつた時は、絶好のチャンスとみてすぐ行動に移すようにすることが大切です。すなおに行動しない場合は、宇宙の意識に対して「我々」を張っているということにもなりかねません。人間は宇宙の意識によって生かされているのですから、こうした印象は、大宇宙から自分に与えられた特権であるとありがたく感謝して、すなおに行動してゆくことが大切だと思えます。

いろいろな印象のなかでも、現在直面上努力している事と関係のある印象であれば、すぐ行動に移す気持は起こりますが、さしあたり今すぐ関心となっていないことについて印象があつた場合、これは良い印象だと自分では感心しながらも、まあ、そのうちに行動に移そうと自分で自分に妥協しているうちに、つい忘れてしまうことが多くあります。こうした印象はすぐ行動に移さないままでにしても、忘れないうちに手帳などに記録し、あと

で実行するように心掛けておかないと次に来る印象に対して正確な判断ができません。印象があつたらすぐに次々と行動してゆく人は、それだけ自分の体に宇宙の意識を取り入れ、その流れをスムーズにしているわけですから、ますます多くの印象を感じるということになります。

せっかく大切な印象があつても、まああとでゆつくりやればよいというような気持ちしていると素晴らしい印象があつてもやがて忘れてしまい、そういうことが重なる、ますます印象の感受が難しくなってしまう。

私事で恐縮ですが、私の妻は会員ではありませんが、日頃アダムスキー哲学をおり見てはすこしずつ話しています。先日、子供が学校に出掛ける時「お母さん、咳止めの薬買つて」とたのまれたそうです。そして家事で忙しいこともあつて午前中が過ぎ、午後もすこし過ぎたころ、やっと落ちて着いて本を読んでいるとき、「咳止めの薬」と印象があり、薬局に行かねばと、窓を開けて外を見るとドシャぶりの雨が降っていて、行くのをためらつたが子供との約束もあり、しぶ傘を持ち玄関の戸を開けると、先程までのドシャぶりの雨がパラパラ程度にやんでいて急いで薬を買ひ、家に帰ってきたら又降り出し、結局濡れないで行つてこれたと喜んでいました。そして「宇宙の意識は素晴らしい。忘れていた薬のことを教えてくれたしかも雨に濡れないで行つてこれる時間までも教えてくれた。人間は心であれこれ考えることは

何もないのね」と私に話してくれました。宇宙の意識からの印象があつたらすぐに行動するということは、私達に大きな信念と希望をもたらしてくれれます。

### 印象をメモする

また私の場合は、手帳を用意して想念の観察だけでなく、あらゆる印象をメモしています。たとえば仕事にある人の名前がフツと浮かんだ時、その名前をメモし、夢を見たときも覚えている限りメモします。また地震予知に少し関心があるものから、その日の夕焼けや雲の状態がすこしでも異常とみうけられたらメモしておきます。

先日、次のような夢を見てメモしておいたことがあります。ある学校での休み時間、教室のなかに私と三、四人の生徒そして受付の先生がいました。その先生は久保田先生でした。先生を囲んで話をしている時、突然地震があり、かなり左右に揺れ、その建物は木造の二階建の校舎で、となりの校舎を見ると弓なりになつて大きく左右に揺れています。先生と顔を見合わせ「よく揺れますねえ」と笑いながら話していました。そして大きく揺れる割には窓ガラスが割れることもなく、屋根のカワラも落ちませんでした。夢のなかで自分の身には危険が無いと安心したのを覚えています。この夢を見たその日の夕方、こんどは南の方向に夕焼けと雲に異常がみられ、これはかなり大きな地震があるかも知れないという予感がしました。夢といい、夕焼けといいこ

## 感謝も重要

これは近いうちに大きな地震があるが場所はどこなのかと、夢を振り返ってみると私と久保田先生は無事だったことから静岡と東京ではないので、これは外国だろうと思い、それからのニュースに注意していたところ、二日後にアルジェリアでマグニチュード七・五の大地震がありました。

このように印象があったらすぐメモしておくようにしていますが、その時は、その印象に対してあまり詮索しないようにしています。といいますが、印象が来るといことは自分の状態が最高に良い時ですから、そのような時には次から次と印象が来るかも知れないからです。ですから「この印象は一体何を意味しているのだろうか」と強い関心を起こすと次にくる印象がもう感受できなくなりまうので、あまり極端に心を乱さないように冷静に受けとめています。

このような事を毎日続けてゆくうちに印象に対しての判断が自然とすこしずつ出来るようになってきます。そして自分の感受する印象の傾向もわかってきます。自分で自身を知る材料にもなります。ほんとうの自分というものを知るには、このように記録を残して始めていくことができるのであります。メモしてきまして、今までいかに多くの印象を無視してきたか、いかに心に振り廻されてきたかがわかり、改めて心を冷静に保つことの重要さが思い知らされました。

また私達の一日は感謝で始まり感謝で終わるということがいえると思います。毎朝私達は宇宙の意識によって目覚めさせてもらっています。毎日の自分の行動一つ一つを取り上げてみても、また肉体の内部の一つ一つの働きをみても、これらは自分が行っているのではなく、すべて宇宙の意識の援助によるものです。毎日なにげなく吸っている空気、そして水も太陽も、宇宙のあらゆるものは人間にすべて「ただ」で与えられています。そして永遠に与え続けてくれます。これに対して私達は感謝しても感謝しつくせるものではないでしょう。

私の一日は、目覚めると「今日も生かされている」と感じますので「ありがとうございませう」とまず感謝します。そして朝の空気を胸一杯吸い込んで、その空気が頭から足の爪先までのすべての細胞にゆきわたってゆく光景を描きます。そしてゆきわたったところで全身の細胞に「今日も頑張ろう」と呼びかけます。すると細胞もそれに答えて、エイ、エイ、オーと大合唱する光景を描いています。この大合唱の時のイメージの描き方をもうすこし詳しくお話ししますと、自分の細胞の一個一個が自分の体と同じ姿をしていて、つまり自分の体の中に小さくなった自分が頭から足の爪先まで何十兆と存在していて、それが号令とともに大声で右手を上げてエイ、エイ、オーと大合唱するのです。すると自分の身も心も二倍にも三倍にも大きくなつたように感じます。そしてまた起きて顔を洗うときは水道の蛇口をひねる時「おねがいします」

締める時「ありがとうございました」、顔をふきカガミに写つた自分を見つめ、「若い若い、いつまでも二十八才」と呼びかけています。食事をする時も感謝、仕事場へ歩いてゆくとき右足を出して、「ありがとうございます」、左足を出して「ありがとうございます」と歩を運びます。仕事は、写真製版の仕事をしていますので電気のスイッチを入れたり切ったりすることが多いので、その度「おねがいします」、「ありがとうございました」と声をかけています。また車を運転する時は「お願いします」と声をかけてからエンジンを動かし、自分と車とは友達であり「これから出掛ける間はすべて安全に行つてくれる」と話しかけています。また今度生まれ変わった時は、タイヤの付いていない、そして公害をまったく出さない乗物に乗るのだと、そして今運転しているのがその車であるという気持ちでハンドルを握っています。また寝る時も「今日一日ありがとうございました」と感謝してから寝ます。その時も枕元に手帳とペンを用意しておきます。寝入る直前は頭の中が空っぽになるので良い印象が多くなるからです。

このようにして一日が終わつたら感謝して寝るということ、次の日もこの気が引き継がれて好結果が続くことができます。これと同じように人間が生涯を終わりに転生する瞬間「ありがとうございました」と感謝の気持を起こすことは来世に非常に大きな影響をもたらします。

このように感謝しながら一日を過ごすことは自分を客観視していることにもな

り、またあらゆるものとテレパシーで話し、愛の放射線を送っていることになり、このことはとりもなおよさず宇宙の意識とともに行動していることにもつながっています。なに事も感謝の気持で実践してゆけばトラブルは起こりません。そればかりか人間として生かされているというほんとうの喜びというものが内部から湧き起こってきます。

また実践には入学があつて卒業がないといわれています。実践は誰でも始めることができますが、その道程はどれだけ実践すればよいという基準のようなものはありません。実践すればするほど奥深いものが見えてきて、ますますその道を究めてゆくものであります。人間が永遠に宇宙を旅するのと同じように、やはり実践も永遠に行つてゆくものなのでしよう。ですから毎日の生活のなかで、あれもこれもと難しいものを選んで実践に踏切つても長続きしません。誰でもやれるような簡単なものを選んでそれを毎日コツコツと実践してゆくのが長続きさせるコツでもあります。秋には各地で運動会が盛んに行われましたが、ケガ人もかなり出たそうでした。これは普段あまり体を動かしていない人が急にハッスルしすぎた結果であると思います。普段からジョギングにしろ他のトレーニングにしろ、軽い運動でもいいからとにかく毎日根気よく続けてゆかないと基礎体力は作れません。かなりハードな運動を週に二、三回程度やって、他の日はテレビを見てゴロゴロしていたのではトレーニングの効果も帳消しになってしまいます。これと



同じことをプロボクシングのチャンピオンも言っていました。

「難しいテクニクを練習しても基礎ができていなければ十五ラウンド戦うことができないし、チャンピオンベルトも保持することは出来ない。日頃誰でもできるようなランニングとか縄飛びなどを、それこそ毎日毎日同じ事を繰り返してゆくうちにプロとしての気力というものが身につけてくる、この気力が土壇場でものを言うのだ」と。私達も毎日コッコツと実践しアダムスキー哲学のプロの実践者となりましょう。そしてどんな事があってもそれを乗り切ってゆけるだけの気力と信念を身につけておきたいものです。

また月例会が実践の本番ではなく実生活が本番であるといわれています。月例会で素晴らしい話を聞き、なるほど良く理解できたと思っただけではあまり効果がありません。毎日の生活のなかで日々実行してゆくことによってみがかれてゆくのです。月例会に参加するのひとつの実践といえますが、やはり毎日の生活のなかでひとつひとつ体験してゆくのが実践の本番であるといえます。

### ある不思議な体験

月例会で思い出したのですが、GAP ニューズレターの表紙にはUFOと宇宙哲学の研究誌と印刷されています。UFOつまり未確認飛行物体のことですが、私も不思議なものだあとと思っていることがひとつあります。それは一九七九年七月一日の午後一時半頃、場所は静岡市

民文化会館の第一会議室です。ここは静岡支部の月例会場として使用していました。その日の月例会が始まり、久保田先生の「生命の科学」の解説テープを聞いている時でした。机の上の本から目を離してすこし顔を上げたところ、あずきの豆位の大きさのオレンジ色に輝くものが右側から現れ二十センチ位水平に移動し私の目の前でこんどは下に移動しそしてまた上に移動し、それはアルファベットのVまたはUという文字を描くように動き、また水平に移動し、左の方へ消えてゆきました。音もなくニオイもないこの物は何んであったのか、どうして月例会場に現れたのか、不思議な体験でした。

### イメージを描くこと

またアダムスキー哲学のなかにイメージを描いて物事を実現させる方法というのがあります。今年の五月に静岡支部大会が開催されましたが、この大会も大成功でありますようにと前々からイメージを描いていました。イメージは大勢の会員のみなさんが参加しているなかで久保田先生がマイク片手に熱弁している光景を大きな画面にアップで描いていました。そして大会の何日か前トコヤに行き、散髪中も久保田先生がマイク片手の光景を描いていたのですが、どういう訳か途中からイメージを描くのをやめてしまいました。すると、大会の当日は久保田先生は急病のため出席できませんでしたので私が最初に描いていたイメージは実現しなかつたわけです。イメージを描いてい

ても、そのイメージどおりにすべてが実現するというものではないということがわかりました。そこで今回描いていた光景を思い出してみると、その画面のなかにいつもよりすこし違った変化があったのに気がつきました。このような変化が現れた時は、いくらイメージを描き続けてもその物事は実現しないのではないかと考えるようになりました。

その変化とは、描いていた久保田先生のマイク片手の画面がいつもより全体に緑色がかつたように見えました。そして画面のまわりが霧がかつたようにぼやけていました。この状態は、子供向けのテレビ番組で夢を見ている画面を現す時画面のまわりをぼかすのがありますが、それと似ています。イメージを描いていて実現しないものは、どれもこれもすべてこれと同じような変化が現れるとは限りませんが、皆様がたもすこし実験していただきその結果をお知らせ下さればと思います。

イメージを描く場合大切なことは、なるべく細かい部分までも、そして大きな画面に描くようにします。その画面が鮮やかなカラーで見えてくるものであれば、そのイメージは実現の可能性があると思えますので、そのイメージと同時に、もう実現してしまつたのだという強力な言葉による呼びかけも忘れないで下さい。このイメージ法をどんどん利用して、充実した素晴らしい毎日を過ごしましょう。私の好きな言葉のなかに信念という言葉があります。信念をもつというものはどのような状態のことなのでしょうか。

これは恐怖心を起こさない状態つまり自己中心の状態から非個人的な状態になることを意味しています。恐怖心を起こさせないようにするには、私達はあらゆる物事を理解し、信頼する必要があります。一般の人達は、死というものに対して異常なまでの恐怖心をもっています。これは人間が死んだらその後はどうなるかを理解していないからです。

宇宙の意識は恐怖心を知りません。宇宙の意識はすべての物事を理解し、知りつくしています。宇宙の意識は信念を生み出しています。宇宙の意識は私達の肉体の中にも存在していますので、私達の内奥には信念があります。

信念の強い人は恐怖心を起こしません。信念の強い人は、先を急ごうとはしません。ゆつたりと大きくかまえ、どんな事があっても失望しません。逆にますます信念を高め目標に向かって堂々と前進してゆきます。失望したりするマイナス想念が起こつてきたら、その時が自分の一番大切な時で、ここが前進するか後退するか別の道だと自分自身に言い聞かせ焦らず、気持をリラックスさせることが大切です。私達のもっている信念というもの、ほんものかどうかということ、毎日の様々な実践によって試されているのであります。

これからも信念という炎を毎日の実践によつてますます高く、ますます赤く燃やし続け、みなさんと共に頑張つてゆきたいと思えます。

# アダムスキー哲学と私の歩み

〈東京本部〉 遠藤昭則

ご紹介にあずかりました遠藤です。このような場で講演をさせていただきますことを、久保田先生はじめ皆様方に深く感謝させていただきます。

ここで自分をふりかえってみるとさまざまなことがあります。アダムスキー哲学を知ってから色々なことが起こってきました。楽しいこともつらいことも色々ありました。

そこで、私がアダムスキー哲学を知る前と知ってからのことについてお話をさせていただきます。よろしくお願いいたします。

## 私がアダムスキーを知った動機

私は小さい頃から宇宙のさまざまなことに興味を抱いていたことを覚えていません。父の持っていたドイツ製の天体望遠



鏡のレンズを組み立てて月の表面を家族みんなで見たときに、月に色々なクレーターがあつたりして、地球と同じような地形があり、山があり土地があつて、月の建物とかいう話はまだ知りませんでした。だが、初めてそのように見たときの感動は忘れることができません。

アダムスキー氏の本に初めて出会ったのは中学一年の時でした。家の近くにある本屋に行ってみると、あまり目立たないようなところに二冊のちよつとくたびれたカバーになっている本を見つけた。一冊には「空飛ぶ円盤同乗記」、そしてもう一冊には「空飛ぶ円盤の真相」とありました。この本屋には他の空飛ぶ円盤の本などは置いてありませんでしたので、特別に興味をひかれたことを覚えていません。そこでさっそくこの二冊を買って帰ることにしました。

私の家族はよく空飛ぶ円盤のことや宇宙のこと、そして夢のことなどについて話をしていました。そういうわけでそれほど違和感はこの二冊を買ってもありませんでした。ただ学校へその本を持っていったりすると、中学校の頃ですけれども、なんとなく自分だけ異なった種類の本を持っているようで、うれしい気持ちになったものです。

しかしこの二冊の本は中学一年の私にはちよつと難しいものでありました。と

いうのは図解入りででいた金星のスカウト・シップや母船の構造、そして宇宙空間のことなど、そういうことだけについては解るのですが、それ以外の哲学的なことになるとまだよく解りませんでした。

それから中学、高校となるに従ってスカウト・シップ、金星のスカウト・シップのような乗り物を造りたいという夢はだんだんとふくらんでゆきました。高校生の頃はさまざまな本を調べてみましたが、結局 UFO がどのような推進原理で飛んでいるのか解らないということにありせりをととも感じていました。今考えてみますとそのことばかりを考えていて、例えて言えば、この大地にしっかりと足をつけていないで落ち着かず、空飛ぶ円盤のことばかりを考えていた時代であつたと思います。

そして大学に入学してからのことになりましたが、もう一つ考えていたことがありました。それは人間は死んだら生まれ変わらぬのだらうかということでした。中学生の頃に買ったアダムスキー氏の本をよく読んでいたら大分解つたことであらうと思いますが、UFO の推進原理のところばかりを読んでいたので、そういうことについては解るはずがありませんでした。

人間は死んだらどうなるのだらう、墓に入ると土となつてしまふのだらうとか、まさか生まれ変わるはずがないとか色々考えてみました。そして自分はどこから生まれ変わってきたのだらうかなどこういうことを思いますと、たいしては

落ち着いた何か白い色をバックにして色々な印象が湧き起こってきました。ですから確信は持たないでいましたが、人間は生まれ変わるのだとは思っていましたがただ私は人間の形をした神というものを信じてはいませんでしたので、もしもそのような法則を働かせているものがあるとしたらそれは、「自然」という神であらうということになんとも納得していませんでした。

そしていよいよある時本屋で「空飛ぶ円盤とアダムスキー」という本を見つけました。それを手にとつて副題をみますと、「死と空間を超えて」とありました。先程述べましたように、死というものに対しては随分と考えていた時でしたので、この本には何かあるのではないかと思つて、さっそく中を見てみました。他の UFO 関係の本とは全然違つて、密度の随分濃い印象を受けましたので、この本を買おうかどうかどうしようかちよつと迷つていたのですけれども、

「この本は私の今まで考えてきたことをとでもよく解決してくれる本である」という印象を強く受けました。GAP にまだ入っていませんでしたけれども、そういう印象を随分感じたことを覚えていません。

そして読んでゆくうちに、なるほどこれは私の疑問を解決してくれ、おまけに私を指導してくれる本であるということが解つてきました。今まで考えていた疑問点が随分そこに答として出ていました。もつとも納得のゆく、そしてもつとも簡単に解りやすい言葉がありました。

さらにその中で「生命の科学」講座によって腐りかけていた木を治そうとしてもどおり無事に治ったという記述がありますが、そこで深い感銘を受け、「生命の科学」という本を是非買ってみたいと思ひ、さっそく東京の本屋に行って買いました。

そして少ししてGAPに入会しました。これは今から七年位前のことです。

しかし入会して初めのうちは、他にもよい本があるのではないかと色々迷っていました。そして色々と探してみましたが、困っている時、悩んでいる時にはどうしたらよいか他の人とうまくつき合せてゆくにはどうしたらよいか、自分を交えてゆくにはどうしたらよいか数え上げればきりがありませんが、そういう内容の本が随分と出ていました。私は欲が出てきてそれらの本を全部買おうと思つたのですけれども、どの本もその本を読んでいる時にはなるほどなと思うのですけれども、少したつと忘れてしまつたり、頭でだけ覚えていたりして結局自分のものとはなりませんでした。

そしてだんだんとそのような本がいやになつてきました。そういう本は私を喜ばせるだけのものではなかつたのだらうと思ひます。しかし「生命の科学」と「テレパシー」の二冊の書物は違つていました。この二冊は人間の最も基本的な活動の源である生命力というものをいかにして使つていくかということに大きな注意が払われていました。そしてとても心強く感じました。

そういう訳でだんだんと一般に出まわ

つていた本がいやになつて、今度は自然というものを見るようになりました。

自然を色々見てみますと、その英知といひますかその素晴らしさは本に書いてあるほど狭いものではないなと思ひました。そして無限であるようでありました。このときには本当に自然とは偉大なる教師であつたと思ひます。

大学に入つてすぐの頃でしたから、小さい頃から自然の様々なものが好きであつたせいもあつて、色々調べる事ができました。そしてアダムスキー氏の言葉は大いに役に立ちました。それは今まで結果の世界だけしか見ていなかったものを、その原因の世界からも調べてゆくことができるようにしてくれたからです。そして人間にも自然がもつているような力があるものだ、おなかの底から力が湧いてくるようでありました。

### 想念観察の実習

さて、「テレパシー」の本の中にでてる想念観察ですが、これを続けてきて約七年ぐらひはなりました。方法は「テレパシー」の本にあるように、一日を通じて感じた想念で個人的な性質を帯びているものをすべて一方におき、宇宙的な想念を他方に記録するという方法です。自分の想念の様子をノートに初めてつけた時、本当のことを申しますと何となくおもしろくありませんでした。というのは、これからそういうことをしていって自分自身は暗い雰囲気をもつた人間になつてしまふのではないかと、自分の意志

のない、ただその想念だけを見ているような人間になつてしまふのではないかと色々と考えてきました。しかしよく考えてみますとそれは、今までマインドがわがもの顔に一人て歩いてきたのに、今度は意識という力を使ひだしたためにマインドがおもしろくなくて、反発を起したのだと思ひます。

始めて一、二年の頃は色々悩みましたが、どうかそうとしても、どうかそうとしても出てくる考えがあることに気がつき、その考えについては色々理論でもつてどうかそうとしました。例えば何か怒つた感じが出てくると、これはいけないんだとか、他の人の方が優れているから私はこういうことを考えるのだとか、その怒りに対する理論も色々でできました。

そこで想念観察をやめると今度はうまくゆくのですが、その出てくる想念に対しては全然気を払わないようになってしまいました。アダムスキー氏は想念観察の重要性を説いています。しかし想念観察をやるとそれにとらわれるようでもありました。そこでジレンマというのが起こつてきました。そしてしばらく想念観察をやめてゆつくりと考えてみることにしました。

あるときふと素晴らしい印象がやってきたのでもう一度アダムスキー氏の言つていたことを調べてみようと思ひました。そこでもう一度調べてみました。想念観察をするときは、出てきた利己的な想念を一度引きとどめておいて、それについてあれこれとらわれなさいということはどこにも書いてありませんでした。で

すから利己的な想念が出てきても別に気にすることもなく、そのまま出てくるにまかせておくことにしようということにしてみました。つまり利己的な想念はそのまま利己的な想念なのだと思ひ、自然に流れていくものを阻止しないようにしようとするにしました。

このことは簡単なことではありません。自分ではただ出てくるにまかせていたつもりがいつのまにかそれについてあれこれと考えだしていたり、また出てきた想念が、自分はそれについてふたたくないものであつたりすると無理に押し戻してしまつたりして、自然に外へと出てゆく想念の流れを押しとどめ、いつまでもそれを保つていようとした。

でもなんとかして、心に出てくるそういう利己的な想念を無理に押しとどめたり、無理にどうかそうとすることもしないで素直に「あつ、出てきたな」というように見ていました。まあ色々試行錯誤をしてみたのですけれども――。

それでもこのことをすることによって逆に何か余裕というものが出てきました。今まで気になつてきたこれらの利己的な想念は、自然に出てくるにまかせておいてよいのですから随分気が楽になつてきました。そのことに気が払う必要もなくまた自分はこんな想念が出てきたんだと悲観することもなくなりました。

とにかく今の自分の状態に、さらに信念や宇宙的な想念、イメージなどをのせて自分の心をさらに広げることができるようになつてきました。これは自分の現在もつている力を充分に知ることになる



ことであるとも思います。

### 自分の想念内容を知ること

歌手の人達はまず、自分のもっている力をよく知ることから始めます。そしてその持っている力を十分に出してゆけるように練習をしてゆきます。その歌手の人達のなかには自分の音量、音域、音質など色々あると思いますが、それらをよく知らないで歌おうとするのなら、無理に歌おうとして声帯を痛めてしまったりいつまでたっても進歩しなかったり、本当に満足感というものが湧き起こってこなかったりで、歌手としては耐えられなくなつてゆくと思います。そして自分より優れていると思う人を見ては、いつも嘆いてばかりいることと思います。

想念のときもそうだと思います。自分の想念のさまざまな状態を素直に知って自分のもっているパワーを十分に使うべく、ゆくことは、とても大切なことであるとも思います。

私はこのことを知ってから、ふと考えてしまいました。

「それでは自分はどのように生活してゆけばよいのだろうか」と。

すると、「生命の科学」の一節が思い浮かんできました。

「我々は何かの目的をもってここに生まれてきたはずです」

という一節です。この言葉ほど私を勇気づけてくれた言葉はありません。これは今でもそうです。人間は誰でも目的をもって生まれてきているはずで、目的

のない人間などいないことであるとも思います。私は自分の目的がどのようなものであるかはわかりませんが、何をしたいのか、何をしてきたのか、そしてそれはどういう理由で、ということはあると考えることができます。

想念はパワーですので、歌手が十分な力をだして歌えるように、現在もっているパワーを十分に使うこと。すなわち、自分にできることを、日常生活で十分に遂行してゆくことはとても充実感のあることであると思います。これは行動力とともに、自分の今もっている力を、イメージを描いたり、想念を感じたりなどすることであるとも思います。

このように人間は誰でもパワーをもっています。このパワーは食物、その他色々なところから与えられるものなのであるとも思います。それですから、想念観察をしていて解ったのですが、ほんの小さな宇宙的な想念があらわれてきても、それに対して喜びのフィーリングをもっている、その想念は次にはさらに強力な想念となつてあらわれてきてくれるはず

です。

自分に素直になること。これが結局現在の私の目標です。

私は以前、人と会って話をするのがどうも苦手だった時代がありました。まあ今でもそうですが――。しかしそれでは自分にウソをつかないで自分の思ったことをありのままに言うことはできませんでした。そこで実行ということが必要になりました。思ったことをありのままに言うことは、わがままにそのことを言う

こととは違います。

このようにして自分にウソをつかないということが解つてきたのですが、それは苦しい時には苦しいと言ひ、うれしい時にはうれしいと言ひ、うれしい、我慢をしてまるで鉄の仮面をかぶつたようにしつとしていくことではなく、また、ただ、だまって傍観者のようにしていることでもないと思います。

アダムスキー氏は客観的に見ることを「テレパシー」の中で述べていますが、ただそれだけを述べているのではなく、人間として生きてゆくために、その自分のパワーをいかに使うかということを通じているのだと思います。

最近、新聞やテレビなどで中学生の非行が増えてきているということを見たり聞いたりします。彼らは小学生の頃は何の変化もないのですが、中学生になつてくると突然非行、そういうものに興味をもち始めてきます。そして色々なことをしてかすのです。彼らが何故突然そのようになるのかを考えてみました。人間は子供から大人になるに従つて身体の中の各機関が成長してゆきます。そして自然の活動、すなわち、意識的な部分を司どる中枢は誰でも同じように強化されてゆくとあります。しかしマインドに関係した中枢には個人差があるのだと思います。それでこの意識に関係する中枢と、マインドに関係する中枢との間のバランスが問題になつてくるのではないかと思ひます。

各中枢がバランスよく完成されてゆくのであればよいのですが、非行に走る子供の場合には、マインドの方が、今まで蓄えられてきた家の原因とか、いろいろな原因とも思ひますけれども、そういう原因によつて、その非行に走るものの方へと興味をひき起こしてゆくのであるとも思ひます。

従つて意識の部分のパワーを使うということは、とても重要なことであるとも思ひます。

### 環境から逃げ出さない

ところで私は就職をして五年になりました。一年目は「宇宙哲学」や、「生命の科学」に書いてある事柄等を人に話したくしてしようがありませんでした。ですからちょっと人と話をしていても、すぐにそのようなことに関する話になつてしまいました。しかし、まわりの人達はそのような話を聞いても、ただ驚くか何かぐらゐで、それ以上何の反応もありませんでした。これは、相手が本当にこの話を聞いてくれるのだろうかという疑問を常に持つていて話をしていた私の方にも責任があるのだとも思ひます。

まあそういうわけで、このようなことは、あまり話してもしようがないなと考へていました。私は話をしたくしてやうがないのですが、忍耐強く、きつと話をしてくる時があると考へていました。

そうして三年位して、やつと職場の人達が宇宙的な話を私のところにしてきてくれるようになりました。私は、まわりの人達が必ず宇宙的な話をしてくれて、そういう信念をもつていたことは確

かですが、これは三年たつてやつと達成されてきました。

ここで職場の人達と申しましたが、勘違いをなさらないようにして下さい。私は職場の人達はとても素晴らしい人達だと思つています。たしかに宇宙哲学を知らないがためにいやになつてしまうこともありまふ。しかし私にはかけがえのない人達であり、私が間違えば指摘してくれるよい人達であります。彼らは宇宙哲学については何も知りません。だからといって、彼らから遠ざかることは全くしたくはありません。彼らが知らないからこそ、私のような者がいて、それでも別にいいのではないかと思ひます。

まわりの環境は常に自分の思い通りにゆくものではないと思ひます。しかし、その環境に何らかの力を及ぼすことはできまふです。楽しい世界を築こうとするのなら、我々は自分を楽しい方向に向けることをしてゆかなければならないのではないのでしょうか。それは、やつかいなことから逃げることでなく、そのやつかいなことを乗り越えてゆくことであると思ひます。

我々がどんなに苦しいときでも、いやになつたときでも、常にそばにいてくれ、絶対に諦めずに解決方法を提供してくれている力、それは宇宙の英知です。

間違えても間違えてもへこたれずに目の前にある障害物を乗り越えてゆく力。それは誰もがもつている生命の力です。一体我々はどれくらい、我々を生かしているこの英知ほどに忍耐強いものでしょうか。

何回失敗をしても、何回進歩の道から目をそむけようとも、常に我々にささやき、進歩の道に連れもどそうとするこの宇宙の英知ほどに忍耐強い人間が、一体どこにいるのでしょうか。そしてこれこそが宇宙の英知とよばれている、あの偉大な力の所以ではないでしょうか。私は実行という段階になると、明日から今日はいいや、ということをよく考へてしまふことがあります。「生命の科学」を初めて読んだときも、実行するときもそうでした。

私は今学校に勤めていますが、学校で生徒に計画をたてて勉強をするようにと言ひますと、よく、明日から必ずするからねと約束をします。しかし、明日からという生徒にかぎつて今までと同じ、だからとした生活を送ることが多いことに気がまきました。明日からと言うまゝに、今日から始めなければならぬのではないのでしょうか。

先ほど申しましたように、私もよく、「生命の科学」については、明日から実行しようと思つたりします。何故、今日良いことをしようと思へなかつたのかと考へてみますと、当時は次のように思つていました。

それは、私は今このような利己的なことをしている。だから宇宙的なことは明日にならなければいけないのではないかと。

しかしこの考へ方は間違つていました。利己的なことをしていたのならなおさら宇宙的なことをした方がよいのではないのでしょうか。

## 内部のフィリングに従うこと

就職してからの話に戻りますが、私は職場に勤めて一年間ぐらひは何をどうしようか解りませんでした。そうして私がかつていた過去に教わつた色々な人達の真似をして、その人になりきつたつもりで色々やつてみました。

初めはうまくいっているようでしたがだんだんとトラブルが起きてきて、もう真似をしていることができなくなつてしまひました。そしてとうとう真似をするをやめて、今度は、自分の本當に持っているものは何であろうかということ、実際にそれだけについてやつてみることにしました。そしてこれらの真似を取り去つたあとに残るものは何かということとは全く解りませんが、とにかく全力でどんな力があるのだろうかということをやつてみました。

それからというものの今までの習慣をどかすようにして、自分のもつている身体の中の力、それを十分に出してゆくようにということに心がけてきています。これはたやすいことではなく、忍耐力もいるものです。大学の頃の人生についての色々な本は前にも申しましたように、もうありませんでしたけれども、それでもまだだんだんとそういう関係の本がたまつてきていましたので、それらの本も使うときさきわりがあると思つてすべてしまひこんでしまひました。

これらの本をしまひこむ時には抵抗もありましたが、しまつてみると何かほつ

として、心のゆとりというものができてきたようでありました。更めて何と著者の意見が頭の中につまつていたことかと思ひました。そして大学の頃から、自分の本當の心を探すんだといきまいていながら、そのような本の著者の意見で自分を本當の心から遠ざけていたことに気がまきました。

この自分の本當の心からでる力、それはフィリングであると思ひます。そこであることを思い出しました。

去年の夏、磐梯山へ旅行に行つたときのことです。我々は到着した翌日に磐梯山に登ることになつていました。そしてその山に登る前の日の夜、ある友人が、「実は十日位前にこういう夢を見たんだ」と言うことで、話を始めました。それはある生徒が山登りをしていて、突然身体のある部分の支障ですけども、その機能が働かなくなつて事故を起こすというものでした。そこで私に、その者が大丈夫だろうか聞いてきたのでした。私は困つてしまひました。この旅行は絶対うまくゆくという印象が湧き起つてきていたのですから。それで明日の朝会つてみようということだったのでその日は寝ることにしました。翌朝ラジオ体操をしてる時にその生徒と会つたのですが、特に変わった印象は感じられませんでした。ただ昨日軽く足を痛めたようなので、山登りではないコースにしてみたらと友人に言ひました。友人も納得してその生徒だけ山登りではないコースにして、無事その旅行は素晴らしいものとなつて終了しました。

まあここで終わればいいのですけれど、あとで聞いた話なのですが、一箇所危険な所がありました、そこで昨日よその学校の生徒がすべり落ちたそうでした。そんなに気にせずに山道を歩いてきた私達はとても驚きました。もしもあの時登らせていたら危なかったかもしれないなど。

このことによって、相手からくるほんの小さなフィードバック、それはとても重要なこともあるのだということをお教えされました。

私はこの印象というものについてですが、想念観察をしていて悩むことがもう一つあります。一体これは宇宙的なフィードバックなのだろうか、自分を動かしている英知からのフィードバックなのだろうか、それとも推測なのだろうか。

今考えるとそれは、頭の中だけで色々考えすぎたためなのだろうと思います。自然はもっと簡単なはずで、湧き起るフィードバックはいつも考えこむためものではないはずで、もっとゆとりがあり、そして明らかにすべきはずのことであると思います。

なぜこのように悩むのかと、まあ想念観察というよりも、それを記録してあるノートをみてみますと、どうもそのように悩むときというのは、あまり自分からこうしようという気がないときが多いことに気が付きました。つまりこうしようと思っているのですけども、他方ではこうしたくないというように、二つの意見が対立していたときでした。それで宇宙のなかに従おうとしないマインドの方がどちらが正しいかと思悩んでしまうこ

とになっているようでした。

ですからこのようにならないためには先ほど申しましたように、自分は一体何をしようとしているかということをはっきりとさせ、そしてそのためにはこうするとよいというイメージを時々思い描いておくようにするなどして、自分の道をしっかりと創つてゆくことが必要であると思いました。

### 心と意識との一体化

時間がなくなってきましたので、最後に私の心と意識ということについてもう少し話させて下さい。

私は現在勤めている学校でのクラシックギターの同好会の顧問をしています。クラシックギターで合奏をするものから、独奏とは違い、あまりそれについて書かれた本がないので苦労したりすることもあります。しかしその反面、自分から考えてゆくことができるので楽しいことでもあります。どうすれば良い音が出るのか、無理なく十分に力をだしていい音をだすためにはどうしたらよいのかなど、色々考えることができます。

これは初めのうちはいわば真剣勝負でした。今、創立してから三年目になりまして、今、創立してから三年目になりまして、変なふうにならぬように、まずいところがあるという部分へ、もどっていったら、再び考えるという、意識と心の両方を使っている人であると思ひます。

さて、私にはまさかそのようなことができるはずがないと思つていたので、一つ一つの疑問が出てくると、それに対し

てあれこれと色々な角度から考えてみます。指だけではなく身体の各部の力の配分の関係、音色の関係なども色々あります。そしてその疑問に対しての解答はすぐに出ることもあれば、一週間くらいかかることもあります。またあるいは風呂に入っている時に思いうかんでくることもあります。

最近日本にきた、クラシックギターを音楽的に高めた第一人者と言われているスペイン人のアンドレス・セゴビアという人は次のようなことを述べています。「私はギターを弾いているときには先生であると同時に生徒でもあります。そして私の中の先生と生徒とは、強く水統的な友情で結ばれ、人生のもっとも不快な変転も、そのきずなをますます固いものにしたのです」

彼は若い頃、ギターがそれほど音楽的に認められていなかったのを見て驚き、さまざまな研究をすることによって、ギターを弾く指の敏速さ、その他などについて考え、それらをギターのテクニクとして仕上げてゆきました。それには彼の中の先生の部分と生徒の部分とのつながりが役に立ったのだと思ひます。先生の部分はこうすればよいということを指摘し、生徒の部分はそれに忠実に従ってやってみるのですが、まずいところがあると先生の部分へ、もどっていったら、再び考えるという、意識と心の両方を使っている人であると思ひます。

さて、私にはまさかそのようなことができるはずがないと思つていたので、一つ一つの疑問が出てくると、それに対し

の疑問がでるとそれについて研究してみるのですが、するとそれについてのさまざまな想念が湧き起ってきます。そしてそれらについて検討したり、実際にためしてみたりしてその解答を見つけてゆくのですが、想念はすぐに湧き起ってきてくれることもあります。なかなか解らないこともあります。

今年の九月の中旬までに一曲仕上げようと七月から練習を始めていたのですが八月の後半になってその曲に対して行き詰まりを感じてしまいました。自分がイメージとしてもっているところまで仕上げたいのですが、そこまでゆけずにある一箇所でどまったりになってしまったのです。その時は本当に困りました。そしてあれやこれやと考えようとしてもどう考えてもいかぬ解らず、それでもちろん良い考えもかんできませんでした。

しようがないので休みをとって、九月の初めに再び始めてみました。すると少しは良くなっているようでした。休みをとってリラックスしたのが良かったのかもしれないかもしれませんが、これはいいぞと思ひました。そしてそれからというもの、こうすればよいという想念も前のように出てくるようになり、また援助をしてくれる人も来てくれるようになりました。そしてなんとか思いどおりの仕上がりに近づけ、九月の中旬には仕上げる事ができました。この時は本当にこのことをやっていたよかったです。

このようにして思いついた色々な考え方などはノートに書きとめてあるのもありますが、それらをあとで見ると、



このときは意識と一体だったのかなあと  
思うこともありませう。

そしてこれらの方法は立派に通用する  
ものでなくてはならないので、やはり色  
々な人の意見をお聞きすることも勿論で  
す。

こうして私の中にも意識と心という関  
係があるのだということが解ってきはじ  
めました。そうしてここまで来た私は、

## 宇宙哲学との出会いと 実践活動の今後

〈東京本部〉 志田真人

皆様こんにちは。本日はお忙しい中、  
日本GAP創立二十周年記念大会に多数  
御来場下さりまして誠にありがとうございます。  
ただいま御紹介にあずかりまし  
た東京本部の志田です。

本来ならば私はこうしたところから皆  
様にお話しできる程の人間ではありません  
が、本日は特にお許しをいただき、ア  
ダムスキー問題あるいは宇宙哲学といっ



私にも意識と一体であるときがあるのだ  
と自信をもっていえるのであります。ど  
のような人にもこのようなときはあるは  
ずです。そして私はこのアダムスキー哲  
学に出会って以来本当によかったと心か  
ら言える次第です。

日本GAPの二十周年を心より御祝  
いさせていただきます。どうもありがとう  
ございました。

たものとの出会いから、今日に至るま  
での過程、また今後の実践活動に関する事  
柄につきまして私自身の体験や今年ビス  
タの米国GAP本部で学んだことなどを  
まじえながらしばらくの間お話ししたい  
と思えます。どうぞリラックスしてお聞  
き下さい。

### 宇宙哲学との出会い

私とアダムスキー問題との本格的な出  
会いは、私が日本GAPに参加しました  
一九七三年秋のことです。この時がアダ  
ムスキーによってわれわれにもたらされ  
た宇宙哲学や生命の科学との実質的な意  
味での出会いといえます。もともとUF  
O問題との出会いは小学校五、六年の頃  
のことで、当時私の父が「空飛ぶ円盤実見  
記」や「精神感應」といった本を読んで  
おり、私も子供心に興味をおぼえてちよ  
くちよく読んでいました。もちろん当時

はアダムスキー問題の真相とか、スベ  
ープログラムの一環としての生命の科学  
や宇宙哲学であるといったことなど全く  
わからず、単なる好奇心から読んでいた  
だけでした。こうしたことから久保田八  
郎先生のお名前はその頃から存じており  
ましたが、その後十数年たって久保田会  
長の主宰される日本GAPに参加するこ  
とになりました。ことに何か特別な因縁と  
いったものを感じざるを得ません。また  
GAP入会の直接の動機は、ワイフの強  
い入会希望が要因となっており、アダ  
ムスキー問題の理解者が身近に多いとい  
うことは私自身にとって非常なはげみとな  
っています。

さて私は小さい頃から、「人間は死ん  
だらどうなる」とか「金星や火星には生  
物はいないのだろうか」といった余り子  
供らしくない疑問をずつと持っていました。  
これはひとつには昔父が寺の住職を  
やっていたことから死人だとか葬式とい  
ったことになじみが深くなり、いやがう  
えにも人間の死というものあるいは死後  
のことについて考えさせられたこと、ま  
た勉強がらいでしたが、SF空想小説は  
大変興味をもって読んだことなどから影  
響を受けたためと思われる。そんな影  
響から最初に父の机の上で「空飛ぶ円  
盤実見記」を見つけて読んだときも別に  
驚くことは何もありませんでした。それ  
どころかその後も、「テレビジャーナル」や、  
アダムスキーの著書ではありませんでし  
たが、「宇宙語・宇宙人」といった本に  
多く接したためいっしょに他の星あるいは  
惑星には我々と同じような人間がいて当

り前という一種の独断におちいるよう  
になりました。従いまして日本GAPに参  
加する頃には、「彼らは何故やって来る  
のか」という疑問に変わっており、宇宙  
船の目撃事件やあるいは宇宙人との遭遇  
事件といったものには余り興味がなくな  
っていました。どのくらい星や惑星が  
この宇宙に存在するのか全く想像もつき  
ませんが、その中の地球とかいうこの小  
さな惑星上だけにわれわれのような生物  
が住んでいるなどと考えるのはわれわれ  
の好きな「常識」と照らし合わせてみて  
もナンセンスとしか思えなくなつたから  
です。従いましてわれわれと同じような  
格好をした異星人が宇宙船に乗って地球  
を訪問することはあつて当り前で驚  
くべきことでも何でもないと考えよう  
になりました。ただそうなると、いった  
いどのような目的でやってくるかが問題  
でした。

ところが、この太陽系の他のいくつか  
の惑星には偉大な発展をげた人類が  
いて、危機にひんした地球に対して救援  
の手をさしのべるために地球にやって来  
ていること。またわれわれ地球人の間にま  
じって生活しひそかに援助していること  
さらに彼らがアダムスキーを通じてわれ  
われもそうした哲学や生命の科学は、人  
間の本来の生き方と未来の運命の真実と  
を知るために大変重要であることを確信  
するに至ってはじめて事の重大さに気づ  
き驚愕したのであります。更に驚くべきこと  
にアダムスキーの宇宙哲学や生命の科学に  
関する著書を読むにつれ、これまで自分  
が自信をもって学んで来た宗教上の教義

や地球上のあらゆる哲学に対する信頼感が霧散してしまいました。ここに至って私は人間の本来の生き方と未来の運命の真実とを追究するために宇宙哲学や生命の科学、あるいはテレパシーのなかに書かれていることを少しづつでもいいから実践して行くことを決心したのです。

「アダムスキーはニセ者だ」とかインチキ呼ばわりしたり、彼のもたらした哲学に不信を抱く前に彼がわれわれに伝えてくれたことをまず実践してみることに重要な事にわれわれは気づくべきです。

### 地球上での生き方を学ぶ

#### — インドネシアでの体験 —

ところで私は機会があれば出来るだけ多くの国で何年かずつ生活してみたいと常々考えて来ました。これはアダムスキーが「スペース・ブラザーズはなぜ来るのか」の中で述べている次の言葉が基本になっています。

「一人の青年が私に語りました。『私は地球を出て金星または他の惑星へ行きたい』。そうですね。そう言う人が沢山います。しかし地球に住めないというようなことでどうして他の惑星に住めるでしょう。地球上で隣人と共に暮らせない人が他の惑星で暮らせる訳がありません。私は幸いなことに子供の頃日本中を転々としたためその土地土地で色々な人たちの生活というものを学ぶことが出来ました。従いまして今度は世界中を転々として色々な人々と接し、また共に生活しながらこのアダムスキーの言葉を実践してみたいと考えている訳です。ここに

いる皆様方の大部分が「他の惑星へ行きたい」とアダムスキーに語りかけたこの青年と同じ願望をお持ちではないかと思えます。私も同じです。しかし私はこの青年同様、まず地球上での生活を学ばねばならないことに気づいていませんでした。そうした折も折、仕事の都合でインドネシアに駐在することになりました。一九七五年のことです。

私はいよいよ機会到来と内心大喜びでした。インドネシアについては予備知識も大してなく、変な先人観も持っていませんでしたのでアダムスキーの言葉を実践するには好適だと考えました。結果的にはこうして無事日本に戻って来ましたし、長男もインドネシアでさざかりました。ハタ目にはうまくやってきました。これも知れませんが、実情は決してうまくやってきましたとは言えないのです。物の考え方の相異からくる人間関係のトラブルがしょっちゅうあり、そのため人間不信におちいりそうになったこともありました。こうした物の考え方の相異や価値感の相異というのは彼らの考え方や行動の基盤が大部分宗教的なものに立脚しており、一方こちらがそうでないことから起こって来ました。私の方は出来るだけ宗教的なものや神秘的なものには近づかないで宇宙的な見地から考えたり行動しようとするのに対し、彼らはイスラム教という宗教をベースに考えたり行動するためなかなか一致点が見い出せず、結果的にはこちらが悩むということがかなりありました。「私たちは実際は政府よりもむしろ宗教によって圧迫を受けているの

です」とアダムスキーは言っていますが、実際宗教というものが人々を狭い殻の中に追いやっている事実をいたる所で見ました。

約五年インドネシアに滞在しましたが無事に任務を終えて帰国できたのも、また初めての子供を無事インドネシアで出産出来たのも生活のバックに宇宙哲学や「生命の科学」の教えがあったためであることは事実です。異国の地で私の生活の基盤となり、今なお私が宇宙哲学を実践して行くうえでの基本としているのは、アダムスキーの著書「宇宙からの訪問者」の第十四章でマスターがアダムスキーに言った次の言葉です。

「一度正しい道を踏めば外れることはありません。人間は寛容の精神をもって働き、努力し、すべての事柄は決してわからないということを抱えず意識するのが根本的に重要です。進む道が正しいかどうかを決定するのに確実な指針があります。それは全く簡単です。もし地球人の思想や行動の結果がまちがっているなら進む道は創造主の援助の光からそれていますが、行く道によき物事が起こるならあなたがた、子供、その子供たちの生活はよろこばしいものになるでしょう。病気が闘争で乱れることもなく、祝福があなたがたの永遠の財産になるでしょう」

今年五月の東京月例会でもお話ししましたが、インドネシアに赴任して間もなくワイフが妊娠したことを知ったときに私は非常に恐怖心かられました。ろくな医療施設もないこんな国で果たして子供が生めるのだろうか、得体の知れない

病気にでもなつて子供にまで影響したらどうしようなどと毎日心配していました。今だからこそこのようにムクムクふとつてにこやかな顔をしています。当時は毎日胃がキリキリ痛んだ程心配しました。これはテープレコーダーに自分たちを強く勇気づける言葉を何回も繰り返し吹き込んで毎夜寝ながらそれを聞くという方法で心配や恐怖心を除去することに成功し、結果的には全くの安産で望んだ通りの健康な男の子を得ることが出来た訳です。余談ですが、テープレコーダーに実現させたい事柄を何回も繰り返し吹き込み、それを聞きながら一方では実現した状態を強烈なイメージで描く方法は実に効果的であることが私の体験から言えます。

インドネシアでの滞在を通じて、他人の憎悪、嫉妬、非難、貪欲、心配、恐怖といった想念には巻き込まれないようにすること、神秘主義的な事象、宗教的な教義にはそれらがどんなに魅力的であっても近づかないこと、地球上のいかなる同胞とも仲良くやっついていくことは口で言う程たやすいことではないこと、地球上のいかなる場所においても常に宇宙的な状態を保つことのむずかしさなどを学びました。

### ビスタで知った自分の誤り

インドネシアから戻って来てまだ引つ越荷物も良く整理できていなかった今年の八月に、積年の夢であったビスタの米国GAP本部訪問が実現しました。これ

などもインドネシアにいたときから夫婦そろってイメーシを描いて実現させた例と言えます。私はイメーシの中でビスタの米国GAPの人たちと何回握手したか知れません。これまで話して来ましたように私は「生命の科学」「テレビシー」などで学んだ事柄を実生活に活かすようにして今日まで自分なりに努力して来たと自負していました。ところが今夏ビスタを訪問して米国GAPの人たちと接するうちにバケの皮が一枚一枚とはがれていくのに気づきました。

まず第一に、自分は宇宙的になろうと努力して来て自分でもそれなりにいい線を描いていると思いがついていたが、もしかすると宇宙的でも何でもないのでないかという気がして来たのです。このことは、ステックリング氏が日米合同夕食会で次のように話されたときに強く感じました。

「愛の普遍的原理は生命の普遍的原理の最も偉大なもののひとつでありながら一般的にはひどく誤解されています。真に宇宙的な愛とは、動物、植物及び人間など生命のあらゆる形の中に存在する暖かい統一的なフィーリングです。人間が真に宇宙的になろうとするなら自分たちのまわりに存在するあらゆる生命を調和、結合させる真の愛の原理の利用法を学ぶ必要があります」

これと同様のことを一九七八年度日本GAP総会でホワイティング氏が述べています。すなわち、

「私たちは愛の原理こそ宇宙で最も強い力であることを決して忘れてはなりません。

せん。それは万物を互いに結びつける力です。あらゆる生命を生じさせ、再生させ、生き続けたいと願わせるあたたかい吸引力です」

このステックリング氏とホワイティング氏の話の中味をもとに私自身を良く観察しますと、私は暖かい統一のフィーリングとか吸引力とかいった愛の原理を生活の中で活かしていないのではないかと感じ始めました。生命の普遍的原理を日常生活の中で活かして行かなければ何にもならないということはハッキリしています。このことはイングリッド夫人も、「日常生活の中で宇宙的な生き方をしなくては全く無意味です」と、再三強調していたことからも明白です。

第二に、「そうだ、これは良いことだからやってみよう」といった何か良いフィーリングが起きても、「メンドウだからやめよう」とか「アホらしい」といった怠惰心や、「こんなことをしたら人に笑われる」とか「誰もやっていないから」といった伝統的、因習的な物の考え方左右されて良いフィーリングを無視しすぎるということ。こうしたフィーリングを大切に行動していくことはテレビシー能力向上には欠かせないことですから、その意味からも私はテレビシークではないということになります。これは、イングリッド夫人から、「あなたはわかっていてやらないという点でナマケ者です」と指摘され、ハッと気づいたのです。

すなわち宇宙的な生き方をしよう、またテレビシー能力を向上させよう、そし

て人間本来の生き方に少しでも近づこうと自分なりに努力し、アダムスキーの著書を読んだりして研さんを積んできてもそれらの基本原理を活かしていません。あるいは無視したりしては、ただ英知なき知識が身についたということだけで全く意味がないことをあらためて知らされた訳です。このことは私にとって大変なショックではありましたが、それだけにビスタ訪問の真の目的を果たしたと感じています。ビスタ訪問の前はもっと目新しいティーチングを受けるつもりでいたのですが、いみじくも本質的なことを突かれ、結局はすばらしい収穫を得ることができた訳です。

これは米国GAPの人々の前にいると思いがつた気持、傲慢な気持、あるいは不自信といったものが消え失せ、自分自身でも不思議な程素直で謙虚な気持になることから、普段はセンスマインドでフタをして見ないようにしているものが見えるようになるからでしょう。今夏のビスタ訪問は短期間ではありましたが、あらゆる意味で全くすばらしい旅でした。イングリッド夫人が「夕食会の際に感じた印象では出席者の半数以上がビスタにとどまりたいと思っていましたよ」と言っておられました。機会があれば、短期間でもビスタを訪問されれば必ず新たに得ることがあると確信します。

## SIMPLICITY (2) (5)

ビスタではわれわれの滞在が短かかったため重要なテーマにつき、それぞれ内

容をコンデンスしたかたちで話してくれましたが、その中でもステックリング氏がみずから非常に重要なこととして、「SIMPLICITY」というテーマで話をしてくれましたので、この内容を要約してこれから皆様にお伝えしたいと思います。このSIMPLICITYと云いますのは、質朴、実直、質素、飾りのないことなどといった意味をもったものですが、ビッタリする日本語訳は思い浮かびません。

「われわれは、SIMPLICITYという重要なことを見すごしてこつた。われわれの世界では、通常SIMPLE MANというのは無視され、われわれはSIMPLE MANというのは幼稚で馬鹿だと教えられてきました。一方で高度な技術者や科学者は非常に知的な人々と教えられてきました。SIMPLE MANはフィーリングで自然とコミュニケーションでできますが、われわれはそのような人間は馬鹿者だと見なすようになりました。しかし金星などのように高度に発達した惑星ではSIMPLICITYがまず重要だと教えられています。すなわち自然とコミュニケーションすることは、創造物の目的を理解できることに他ならないからです。われわれはSIMPLICITYの基本原理を学んで来たのですが、科学的な社会をつくる上ですべては忘れ去られてしまいました。しかしもしわれわれが平和で発達した社会に住みたいと願うなら、自然の簡単な法則を無視してはいけません。

今日高度に教育を受けた人々はコミュニ



ニケートの手段としてのテレパシー能力を失ってしまいました。というのは、それが素朴さや正直さや自然の心といったものを要求し、また彼らのまわりに存在する物事について先入観、独断あるいは個人的な意見といったものを持たぬよう要求しているからです。彼らは新しい物事を古い概念で見えており、その結果、自分たちの知覚をせばめています。

リラックスしたり、感覚的であったり感受性の一定の状態に拘束されないといった単純な能力は、一般的には現実逃避を試みる人々にとつてのみ都合の良いことと見なされて来ましたが、本当はこれこそが真のテレパシー能力を得るための唯一の方法なのです」

この中でステックリング氏はテレパシーの重要性を何度も強調すると同時に、テレパシー能力を高めるためにはまず、SIMPLEでなければならぬと語気を強めて話してくれました。これに関連してホワイティング氏が、「テレパシーを利用してときには完全にリラックスする必要がある」ことをつけ加えてくれました。

「地球というのはポジティブな惑星であるためにバランスをとるため女性が六割男性が四割の割合で存在しています。しかも男性がポジティブで女性がネガティブであるため、この地球では、男性が宇宙的に生きることが女性の場合よりむずかしく、逆に女性は、宇宙的なフィーリングを男性よりも、より多く受けやすい状態にあります。従つて、夫婦間などでは妻が自分の受けた宇宙的なフィーリングをパートナーである夫に反射することにより、相手を宇宙的な状態にさせ、それにより自分も宇宙的になります」

「親は子供の過去を読みとつて、それを子供に気づかせるようにしてはならず、また親は、子供から学ぶ必要があります」

「宗教、伝統、因習といったものからフリーになって、自由な物の考え方ができるようにする必要があります」

以上のような内容ですが、とにかくイングリッド夫人の前にいますと、何から何までお見通しといった感じを受け、子供のようにならざるを得なくなりませう。

### 今後の活動のポイント

このように宇宙哲学や「生命の科学」に接して以来、試行錯誤を続けながら色々学んで来たわけですが、今後の最大のポイントは、日常生活の中で愛の普遍的原理やテレパシクな印象を生かして行くことにあります。少なくとも私が接した米国GAPのかたがたはこうしたことまわちがいなく日常生活の中で活かしており、それによって日々向上していることは明白です。そこで、

まず第一に、自分の精神を高揚させる時間を確実に毎日何時間かとること。これはホワイティング氏のアドヴァイスです。

第二に、わき起こってくるフィーリングを無視したり、否定したりする要因となる伝統的なものの考え方や因習といったものをとり除き、それらの原因となっている習慣細胞を破壊すること。いろいろわき起こってくる印象のどれが正しいものかを知る方法についてイングリッド夫人は、それらの印象にまづ従つてみることで述べていました。そして大切なことは、その結果まちがっていたことがわかってこそ罪悪感を起こしてはいけないことでした。

第三に、出来るだけ自然に接し、生命のあらゆる形の中に存在するあたたかい統一的なフィーリングを感じ、そうしたフィーリングを日常生活の中にとり入れるようにすることです。

こうしてビスタ訪問後私は今一度原点にたちかえって宇宙哲学や「生命の科学」を生活の中で活かしていくことを決めた次第です。

### ビスタからの手紙

最近になってビスタよりすばらしい内容の手紙を受け取りましたのでここにその一部を紹介させていただきます。

「テレパシーは、われわれがそのことについて知っているにいかかわらず、まちがいなく存在します。テレパシーについて学ぶことだけがわれわれの人生に恩恵を与えます。

すばらしい生き方について口で言うことはたやすいのですが、実際にそれを実現させるとなると各々それぞれ立場や条件が少しづつちがうために強固な信念を必要とします。しかしわれわれはフィーリングでその両者にうまく適合する方法を学ぶことができます。

長い間このプログラムにたずさわつてきて、われわれは多くの異なる国々の人々と接する機会を持ちました。それら多くの人々は何かより良いものを求めており、そのことが彼らにより良い理解をさがし求めるよううながしているのです。しばしば彼らは自分たちの求めていたものを見出しませんが、いざ実践することになるとうまく行きません。行動によつて裏付けられなければ言葉自体は大した意味を持っていません。キリストは「私の言葉ではなく、私の行為によつてあなたに私が私を理解するだろう」と言っています。アダムスキー氏と共に働いてみて私は彼が多くの著書に書いた通り、彼の多くの生涯を通じ、あるいは生命の連続を通じてより良く生きたということを確信をもって伝えることができます。いかなる人間も一人では人格の完成をなし得ません。このことは、人類が本来ひとつの家族であつてお互いに助け合うように創造されていることを意味しています。残念なことには、われわれは本来の目的を忘れてしまい、そして今日人間はバラバラになつたものを結合させようとして努力しながら、しかしそれぞれに孤立しています。協力し合つてはじめてそうした仕事にな

しとげられるのです。  
 アダムスキー氏はユニティ、すなわち一体化のために非常に努力をされました。なぜならユニティというのはすべての物の根本となるからです。彼は常に「一人よりも二人がよい」と言っていました。が確かに真実です。

宇宙的な愛こそがわれわれに真の理解

## アダムスキー問題の本質

〈日本GAP会長〉 久保田 八郎

本日は多数ご来場いただきまして有難うございました。平素は多大なご支援にあずかりまして厚く御礼を申し上げます。第でございます。

おかげさまで本日、日本GAPの創立二十周年記念の総会をここで盛大に開催できまして、心から嬉しく思いますとともに、厚く感謝する次第でございます。また、ただいままでは俊英五氏によります素晴らしい宇宙哲学の実践体験談を



と、寛容と忍耐をもちます  
 以上本日お話ししたことで皆様にとって目新しいことは何もないと思います。とにかく重要なことは、「日常生活の中で宇宙的な生き方をする」ということに集約されるのではないかと考える次第です。  
 御静聴ありがとうございました。

お聴きしまして非常によい参考になり感銘を深めた次第でございます。出演されました皆様方は実際に日常生活で実行しておられる方ばかりでして、単なる言葉の羅列ではないわけで、これが本当だと思います。

### 大國政府の隠蔽策

ご承知のように私はずい分長いあいだアダムスキー問題の研究を行ってまいりました、その間さまざまな出来事もありつてまいりましたのですが、アダムスキーに関する限り、あまりにも深遠な哲学と、それから、スケールの雄大な宇宙的な記述にますます瞠目するばかりでして、これでは世人の関心の的にならないのも無理はないわいと、こう思う次第であります。

現在この太陽系の地球以外の惑星には人間はいないという考えが一般ではまだ

圧倒的に強いのですけれども、これはニューヨーク71号の巻頭言に書きましたように——あの巻頭言はいつも私が書いてるんですが——、大國政府は真相を隠したがりです、実際にはすごい事実が判明しておるにもかかわらず、全く逆な事を公表して大衆を盲目にしておくと、一種の欺瞞策が講じられていてと考えられるわけです。しかも世界の現状を見渡しますと、かえってそのほうが賢明ではないかという気がいたします。

もしアメリカナリソ連ナリが別な惑星の人類の存在説を唱えようものならば、これはもう大騒ぎになるでしょう。なぜなら人間は未知の物事に対して恐怖心を起こしやすいからです。

一九三七年と申しますと私が小学校のたしか六年生の頃だったと思います、アメリカでオーソン・ウェルズという空想科学ドラマの演出家が「宇宙戦争」という題のドラマをラジオで放送したんです。そして蝸のような姿をした火星人が地球へ来襲してきたというような架空の物語を流したのですが、これを聴きました一般市民が本物のニュースと勘違いし、大混乱が発生して避難騒ぎや、ついには発狂者まで出たというようなことがあったんです。

これからみましても人間のマインド（心）というものがいかにいい加減なものであるかということがわかると思っています。あれから四十三年しか経過していません。

四十三年間のことは大体、私、世の中に何があつたかを知っておりますが、地球人の精神の状態は全く進歩していな

いと思いません。ですから別な惑星の人類の存在について米ソあたりが声明を発表した場合、どえらい混乱が発生することは眼に見えてわかっておりますね。したがって米ソとしてはまだ真相を隠蔽しておくほうが良策だといえるでしょう。

これは個人でもプライベートな問題をそうだれしもやたらと話しはしなくても、率直に申しますと、私もアダムスキー問題のすべてを皆様方に完全にしゃべってしまったということじゃないんでして、実はまだ隠していることが沢山あるんです。そこで、それなら今夜のパーティーで、久保田にうんと飲ませて酔っぱらわせて、しゃべらせてやろうということになるかもしれませんが、それはだめなんです。私は今夜はビールをコップに三杯しか飲みませんからね（一同笑）ま、これは冗談です。今日は二十周年記念の盛大なパーティーですから、大いに飲ませていただきます——飲めない酒をですね（一同笑）——、そして皆様方と一夜愉快にすごしたいと思っております、その点はよろしくおつきあいのほどをお願いいたします。

### 極移動が起こっている？

さて、アダムスキーの宇宙的な体験は有名な二種類の書物でむしか公表されました。これは原題を直訳しますと「空飛ぶ円盤は着陸した」というのが一つで、これはいわゆる「実見記」といわれているものです。それから「宇宙船の内部」という題の書物として後に出たのが一つ。

これはいわゆる「同乗記」といわれているものです。これらは現在読んでみましても、全く驚異的な内容なものですけれども、そのなかで見逃し得ない重大な情報がありげなく洩らされているんです。さりげなく、ですね。

この二つの書物を合わせたものは「宇宙からの訪問者」という題で、まだユニバース出版社から出ていると思いますが、その第二部の「宇宙船の内部」の二百七十六頁にオーソン氏の言葉としてこういうことが述べられています。

「地球の傾きがいまでも次第に起こっているというのを知れば、あなたの関心をひき起こすかもしれません。これはいつでも起こりうることなのですが、もし地球がそのサイクルを終えようとして、完全に傾くならば、いま海底にある土地の多くは隆起するでしょう」

そこでアダムスキーが大いに驚いたとみえまして、  
「たしかに激烈な傾きは地球上に大変動をもたらすんでしょうね？」と尋ねましたところ

「必ず起こります」と、相手は答えた、とあります。

これは非常に重大な個所なのですが、このことは地軸つまり地球の自転軸の傾きを意味しています。

地球というのはご存知のように球体です。丸いイモの真ん中にクシを一本突き刺して、それを中心にくるくるコマのように回っているわけですし、そして自転しながら更に太陽のまわりを公転しているわけですが、この体験記が発表されま

した昭和三十年の初期の頃は、地軸——地球の自転軸を地軸といいますが——の傾きというような説は一般世間では全く相手にされないで、当時、この問題を科学者（複数）が笑いとばしていたのを私は覚えております。

ところがですね、この地軸の傾きというのはいまでも事実であって、確実に、わずかながらも少しずつ発生しております。そのために世界に異常気象が発生しているとか、その他異常現象が発生しているのだから、その他異常現象が打ち出した研究者（複数）が、すでに現れているんです。

聞くところによりますと、日本のあるトップクラスの大学の学者がひそかにこれを研究しているそうです。

アメリカのジョン・ホワイトという人もその一人として、その研究家の書いた「ポール・シフト」と題する論説が、最近「地球の最期を予測する」という題で日本語訳が出ました。三笠書房という出版社から出たんです。もうすでにご存知の方もいらっしゃるかもしれませんが、  
Pole Shift（極の移動）ですね。

極といえますのは北極南極のあの極、シフトは移動ですから、「極の移動」です。

これによりますと、七名ほどのポール・シフトの大研究家がすでに出ておりまして、その各研究家の論説をその書物に掲げた上で、結論として、遠からずこのポール・シフトが発生して、地球上にカタストロフィー、つまり大破局をもたらすだろうと、こういうふうに表示しているんです。いい本が出たもんですね。本

当に素晴らしい本です。

この書物は科学的に書かれた、なかなか興味深い内容です。過去にシベリアで冷凍状態で発見されたマンモスですね——象をもっと大きくしたような巨大な動物ですが——、そのマンモスの遺体が直立した姿勢で発見されました。

なにかの病気で死んでから冷凍状態になったのなら横倒しになっているはずですが、みなそうじゃないんです。直立して立ち上がったままの状態で見えられているんです。

これはある日突然に、アツというまに大変動が発生して、マンモスが生きたまま氷漬けにされたんじゃないかという推測から、これが極移動によるものではないかという研究が発展してきたらしいんです。

あるいは古代の失われた大陸の例のムーとかアトランティスですね、こういうのも、本当は極移動による沈没ではなかったかというふうなことが述べてありまして、今世紀末の、一九九九年の八月か十月でしたか、大変な事が起こるといっている、それは本当は極移動のことを言っているんじゃないかという推論まで出ております。

そういうようないわゆる予言ですが、予言というものは全然無視できないものもありまして、たとえば先程申しましたように、「宇宙船の内部」でオーソン氏でしたか、地球の聖書には未来に関する予言が沢山あるのだけれども、地球人はそれに全然眼を向けられない、なぜもつとそういうことを調べないのかというよう

ことを言っております。

だから、聖書中の予言というのはどういふものか私はよく知りませんが、相当に多くの予言が含まれているようですから、これもまあ、無視できないものがあるでしょう。

で、その「地球の最期を予測する」という書物の中には、イマニエル・ヴェリコフスキーという有名な研究者が昔いたんですが、金星が地球に異常接近してきたために、過去に極異動が起こったことがあるという、ちょっと納得しがたいような説ですけれども、そういうことが述べてあります。

とにかく現在、地球全体に頻発しております大地震ですが、昨日もカリフォルニアの北部でマグニチュード六点いくらでしたか大地震があったと今朝の新聞に出ていたんですが、そういう地震とかあるいは異常気象は、この極異動の前兆ではないかというふうに言っているんです。

これは大体にアダムスキーの「宇宙船の内部」でアダムスキーが聞いた話とある程度一致するわけです。その他、ガスベルト説などもあるんですが、そのガスベルトといふものがあるとするれば、それはやはり極移動に関連してそれが爆発するとかなんとかが起るんじゃないかと考えられます。

科学者のなかには、世界的な異常気象はアメリカのセント・ヘレンズ山の爆発による噴煙が原因じゃないかという学者まであります。そこまでは素人考えでもちょっと考えられないんですが、しかしそういうふうには、異常気象といふものが



大変な関心の的になっているということ  
は間違いないです。なぜかといいます  
と、この異常気象によって、世界的に農  
作物が大変な被害を受けているわけで、  
たとえば、ソ連は穀物が不足して深刻な  
状態になっているということが最近も新  
聞に出ておりましたね。

しかも世界の人口は増加する一方です  
から、こうなれば当然、食糧の奪い合い  
になりますし、奪い合いということにな  
れば、恐るべき大戦争が発生するであろ  
うし、そして大惨事に至るだろうとい  
うことは、充分考えられるわけです。

### 大戦争が発生するか？

このようなカタストロフィー（大破局）  
を避けるにはどうすればよいかというこ  
となのですが、地球のひっくり返りは逃  
れられないとしても、これを事前に  
観測して、世界中が一致協力して観測網  
をしいて、早くからそれを知らせ合え  
よというわけですから、世界連邦みた  
いなものをつくって、各国が仲良く観測  
網をしいばいいんじゃないかというよ  
うなことが、その書物の中に出ていま  
す。それは、そう簡単にはゆかないでし  
ょう。

アダムスキークの「宇宙船の内部」の  
アダムスキークとオーソン氏との極移動に  
関する会話の部分でも、オーソン氏が次の  
ように話しておられます。

「もし人間が大変動を起こさないよう  
にしようと思えば、他人を自分自身とみな  
し、他人を自分の反映と考える必要があ

ります」

この哲学的な意味は、私にも正直な  
ところ、あまりよくわかりませんが、察す  
るにこれは人間が互いに反目し合うこと  
なく、調和して生きなさいという意味で  
ありましようから、そうすれば戦争も避  
けられますし、核爆発による極移動のこ  
とが大変動も起こさずにすむというこ  
になるわけです。

ちなみに、突然の極移動は、核爆弾の  
大爆発などが引き金になるといわれて  
おりますから、そのような巨大な爆発を  
起こすような戦争は、まずやらないほう  
がよいということになります。

ところが、最近の情勢から判断して  
みますと、どうも第三次大戦が切迫して  
いるんじゃないか、というふうな考えられ  
るんです。これは単なる推測にすぎませ  
んが——推測なるがゆえに間違ってい  
ればいいんですがね。戦争などはだれも  
が望みませんから、むしろ、この推測は  
間違っているほうがいいんですが——、  
どう考えても世界の状況は、戦争から遠  
ざかるどころか、ますます戦争のほうに  
接近しているというふうな考えられるん  
です。

この考えは私の考えですが、これは最  
近、アメリカの大統領が交替したから、  
急にそういう考えが起ったということ  
じゃないんです。ずっと以前から私が一  
種のフィリングとして感じていたんで  
す。そうしましたら、アメリカのタカ派  
の大統領になったもんですから、こりや  
ますます危いわいと思うようになったん  
です。

ただし恐怖心を植えつけるためにこん  
な話をするんじゃないのとして、こうい  
うときにどうすればよいかということ  
をこれからお話しするわけですから、ひ  
つ安心してお聴き頂きたいと思いま  
す。こういう場合に「仕方がないんだ」と  
言っ手をごまぬいて戦争屋の仕事を傍  
観しているだけだったら、これももうみ  
んなが地獄の火の中に投げ込まれるだ  
けですから、なんとかしなくちゃいけ  
ないですね。

### どうすれば救われるか

どうすれば大災害から逃れられるか、  
ということですが、ここにアダムスキ  
ークの偉大な宇宙哲学の存在価値とい  
うものがあるんです。

「宇宙からの訪問者」の百七十四頁の最  
後の所に、フアーコンと名付けられた  
ペース・ビーブルの一人が、こういう  
ことを言っております。

「人間は生き方を変えようとしな  
い限り救われるものではないです」と。こ  
れは素晴らしい言葉です。

「無限なる者の法則をまじめに追  
求しようとする地球の少数の人々は、  
他人を導くように努力する必要があり  
ます」

このあとが問題です。  
「そうすれば他の世界の私たちも  
その人々を助けるつもりです」と、  
こう言っています。

要するに他人を助けようとする人  
は、ある人々によって助けられるとい  
うことです。もうすでに助けられて  
いる人

もあると思えますよ。何人かの人は  
——「生き方を変える」とはどうい  
うことかというのですが、これはもう  
アダムスキークの哲学書の「生命の科  
学」や「テレパシー」などに、イヤとい  
うほど書いてありますから、それを  
ごらんになればよしいわけです。その「  
テレパシー」の四十九頁にありま  
す一部分ですが、これがまず最高  
次の法則ではないかと思  
うんです。こうなっているんです。

「他の惑星に住む進化した人類は、  
自分の前に他人が立つ場合、自分  
が“生ける神”の面前に立つのだ  
というふうな意識しているのです」  
これはもう宇宙的な生き方の最高  
の法則でしょうね。こういうふう  
な意識をもって生ける人は、必ず  
救われるのであつて、破滅する  
ことは決してないでしょう。  
ここで救われるというのは必ずしも  
肉体的な救済ばかりではなく、肉  
体は失つても転生、つまり生まれか  
わりによって更に高次の惑星へ移  
動することも意味するわけです。

だから救われるというのは、肉  
体を持つたまま、どこか安全な場  
所へ行けるということもあるかも  
しれません。そればかりじゃなく  
て、安全な場所へ行つても食べ  
る物もない、人間が人間を殺し  
合うような飢餓地獄の状態にな  
った所で生き延びてもしょうがない  
ですから、その場合はあっさり波  
に巻かれて肉体は元へ戻して、そ  
して自分の実体だけを、もっと  
良き惑星に移動させて転生して、  
素晴らしい家庭に生まれ変わる  
ほうがはるかに良いかもしれませ  
ん。これも一種の

救いだと言えます。

いま「神」という言葉がありました。これは宗教的な響きを帯びていますが、でも、私たちの哲学は宗教ではありません。守護霊というようなものも全然必要ないんです。

何を私たちは扱ひ所にすればよいかといいますが、自分自身の内部にある絶対的なパワー(力)、このことは分子生物学を少しかじってみればわかるんです。そういうものが必ずあるという事は、そのパワーを便宜上「神」という言葉であらわしてありますが、これはだれの内部にもありますから、私たちは、それに「気付いて」、「それと共に生きる」というふうな決意すればよいだけのことです。これ以外に何も必要ないですね。

それで、マインド(心)は気付かなくても、そのパワーは人体その他の万物を自動的に生かしておりますが、もつとよいことは、マインドがそれに気付いて、その内部のパワーから、いろいろな印象などをキャッチするようになれば、ここでテレパシクな能力が開発できるといふことになりまます。そして本人は安全な方向へ導かれるでしょう。

あるいは第三次大戦が仮に発生して、日本がひどい状態になりまして、攻撃を受けられないにしても大戦争が起こればあらゆる食料、燃料などの輸入が止まりますから、日本は資源の輸入国ですから、直接攻撃を受けられないにしても大混乱が発生するでしょう。おそらく全国のスーパーマーケットの食べ物が一日で空っ

ぽになるといふようなことが起こるかも知れません。そういうことは絶対には得ないとは断言できないんです。終戦直後のあの大地震を回想してみますとね、

とにかく、そういう状態になったり、あるいは大地震が起こったりしても、「どこへ行けば安全に生き延びられるか」ということは、自分以外の他の何かが自分に伝えてくれるんじゃないかと、自分の中に内在する「宇宙の英知」が「アダムスキーは「宇宙の意識」と言っています。マインドにささやきかけてくれるのでありますから、そのささやきの声を聴き取るように自分の感受力を宇宙的な方向に高めるといふことが先決問題になってきます。

ところが、大抵の宗教とか哲学とか道徳とかは、自分以外の何かにすがれとか、あるいは祈れとか、こういうふうなことでばかり言ひまして、人間というものを非常に無力なものとしてしまっているのです。自分の宗教のほうへ来い、これを拝め、お賽銭を出せ、あるいはこれだけの寄付をせよ、そうすれば救われるお札をあげようといふようなこともやっているところがあります。

しかし人間というのは、そこまで無力な存在ではありません。一個人というのは、精神的な、あるいは形而上的な事を全く信じない「オレにとって信じられるのは金の力と自分自身だけなんだ」といふようなことを言うニヒリスティックな人でも、結構生きています。

これは、その人間のマインドがどの程

度であるにしても、とにかく無条件に本人を生かそうとする内部のパワーが存在しているからです。だから悪党でも一応生きることが出来るわけですね。善人だけが健全に生きられて、悪人は生きられないというふうなものじゃないですね。メシだけ食わしてあげばどんな悪人でも健康体を保って生きられるのは、やはり内部に絶対公平な宇宙の英知ともいふべきパワーがあるからでして、これに気が付かないといふことはないんです。

ですから人間や万物を生かす英知あるパワーは絶対的に公平です。人間を差別しない。この法則に私たちも気付いて他人を差別しないで、だれに対しても公平に援助の手を差し延べる、あるいは親切な態度で尽くすといふことをすれば、なんらかの方法でそれは報われる、救われる、といふことになるのが宇宙の法則であって、この法則はまず絶対だと思ひます。

ところが人間が勝手に作り出した法則も沢山ありますので注意を要するんですが、そういうのを因習とか、伝統とかいうわけですね。私たちはその因習や伝統にがんじがらめに縛られておりました、なかなか動きがとれないですね。生活上の物事にけじめをつける必要はありませんが、無意味な伝統的行事にとらわれず、自然に即した生活ができなくなってきたとして、結局、宇宙的な生き方とは縁遠くなってくるわけですね。

こうした因習や伝統というものは、個人のエゴを高めるために生じるわけですから、あまりはまり込むと、結局自分が

エゴの強い人間に振り回されるように低い次元に降りてしまふということになるわけですね。

こういうことは私がこの前ヒスタ(注)米カリフォルニア州南部の町。米GAP本部の所在地)へ研修旅行に行きまして、イヤというほど教えられて「もっと自然に即したおおらかな伸びやかな生活をせよ。いったいに日本人はあまりにも格式ばり儀式ばっている」といふようなことを言われまして、なるほどそうだなと思つたわけですね。

この数年來、私の近親者が次々と死にまして——老人ばかりですが——、そのために田舎や地方へ行つて葬式に出たり法事やまつり、私も葬式を主催したこともありますが、とにかく田舎のことですら、大変に格式ばつた儀式ばつたことをやるんです。それではないと済まないんです、田舎は——。こんなことで明け暮れていたんじゃないやどうしようもないと思ひまして、ほうほうの体で逃げ帰つたんですが、まあ、やはりそういうような因習や伝統が非常に強いわけですね。

以上「アダムスキー問題の本質」と題して若干述べましたが、これを本もと詳細にお話ししますと、何日あつても足りないほどの長話になりますので、大体要点だけにとどめましたけれども、もう一度繰り返しますと、自然の現象の変化が発生するに伴つて食糧事情が次第に悪くなり、そのために戦争が発生するであろうといふことを、それから友星人がそういうことをひそかに観察しているといふこと。それに対処して、私たちはどうい

生き方をすべきかということ、アダムスキーが声を大にして説こうとしたんだと思います。これがアダムスキー問題の本質だろうと思います。

### 宇宙的な生き方とは

では宇宙的な生き方とは何かということ、を、もうちょっと具体的に申し上げま

(1) 因習や伝統にとられない、自然に即した自由な生き方をすること。ただしここで誤解が生じやすいのですが、無責任な野放図な生活ではなくて、家庭や職場において、まず責任を完遂しなくちゃいけないということです。なかなかむずかしいんですがね。

(2) 生活を簡素化させること。さつきも志田氏のお話でシンプリシティーという言葉が出ましたが、あれが簡素化です。

具体的に言えば、身辺にあまりに多くの生活用品やレジャー用の道具などをごたごた置かないことです。そういう物の山の中に埋もれていますと、そういう物から発する波動によって自分が、がんじがらめに縛られてしまつて容易に抜け出せなくなります。ですから、いつでもどこへでも移動できるような身軽な環境にしておくことが大切だと思います。これは実際に何か大変動が起こった場合に、すぐよそへ移動できる良さもありますが、ふだんからあまりごたごたしたモノ(物質)にとられないというような簡素な生活です(注||これは人間そのものの飾らない簡素化をも意味する)。

(3) 他人に対しては公平な親切な態度で接すること。気まぐれな親切にならないということ。ときたま電車の中で老人を見ては、さあどうぞどうぞいつて席を譲ったりしますけれども、それ以外の時はあんまりやらないというんじや、ちょっと具合が悪いです。あくまでも公平にやるということです。

これらを土台としてアダムスキー哲学を絶えず研究し、実践するということになります。

さきほどの遠藤氏の話にもありましたように、思い立ったらすぐにやらないとだめです。あとからやろうというようなことではだめでして、これは外国語の学習で最もはつきり言えるんです。外国語の勉強で参考書を開いて「この部分は明日覚えよう」「この単語はあとからゆっくりに覚えよう」というふうにやっていたら、これは絶対だめでです。私の経験からしても、参考書を開いてどんどん出てくる単語なり英文なりを、その場で覚えてゆくというふうにやらないと、外国語は決して上達するもんじやないんです。

それと同じでして、宇宙哲学も思い立つたらその場でやろう、そして自分自身にある日突然ガラッと変えてしまおうというふうな大決心、大転換をする必要があると思いますね。

こういうことを口で言うのは大変やさしいんですが、実際に実行するのはなかなかむづかしいことです。ですが、やさしい事や、だれでもやれる事や、やっていたんじや価値がないですからね。人がや

らないような事をやるというところに打ちがあるわけです。同じ泥棒をやるにしても大泥棒をやる。人がびつくりするような事をやるというのは、それなりの価値があるかもしれません。

結局、人間というのは本質的に旅人です。一カ所に永久に定住したものはないので。転生によって転々と地球上のいろんな国を生まれかわつては旅をして歩く。それから今度は惑星間を旅をして歩く。更に太陽系間を旅をして歩く。あるいは銀河系間を旅をして歩くというふうな

転生によって移動するものが人間であるということですから、結局私たちは一生涯においてある物事を絶対視して、しみつかなくちゃいけない、執着しなくちゃいけないというものは何もないんです。最後には自分の肉体さえも捨てて行くかなくちゃならない。生まれたときと同じでして、この世で自分の所有物は何一つありやしないんだということを考えますと、非常に身軽なスカツとした気分になります。懐中空っぽになり一銭もない状態でも、まずあわてることはないでしょう。私は実際そういう状態になったことが何度かあります。人間は本質的に旅人であるということですね、これが一つの重要な考え方であろうと思います。

それから人間の運命というものはなかなかわからないもんでして——おおかにはわかっておりますが——、私が二十歳代の前半頃は戦後のあの大混乱期で、何をしてもよいかさっぱりわからず、素直たる生活をすごしていたんですが、後年になってこういう活動をするようになる

であろうとは、その頃はまだ全然考えなかつたんです。こういう活動をするようになったということは、ずっと前から、遠い過去から、決まっていたとしか思えません。

とにかく名もなき私みたいな人間の一生涯でも非常に不思議なものがあ、波瀾万丈とまではゆかないかもしれませんが、ずいぶんいろんな事がありましたので、一日一日を本当に真剣に生きなくちゃダメだなということを感じて感じます。

戦後三十五年間、私はほとんど進歩しなかつたと思ひますが、とにかく年月の経過の早いのは全く驚きます。三十五年があつたという間に過ぎて、昨日私は軍隊から帰って今日はここへやつて来たというふうな、早く言えば、そういう感じがします。ですから一日一日一刻一刻をゆるがせにできないということが自分の体験からして言えると思ひます。

時間がまいましたので、これで終わらせて頂きます。どうも有難うございました。







ていた「想念通過法」というのは、エゴ的想念に支配されたり悩まされたりしない大変効果的な方法であると思います。今まではエゴ的な想念をただ否定ばかりしていたのですが、さっぱり向上しませんでした。しかし「想念通過法」を実践してみたところ、第一目で効果抜群で他人の個人的な意見や批判などに影響されなくなり、自分のエゴ的想念も少なくなってきました（この調子で長く続くと良いのですが――）。そればかりか微笑みさえ浮かべるようになったのです。

また静岡支部の野口さんが言われていた「ありがとうございます」という感謝の念は、物質主義者におちいることがない近道であるように思われます。

私は毎日、愛用の車に「パンビ」という名前を付けて、通勤はもとより日常のほとんどの行動を共にしています。それはまるで生きています。普通人の多くは車は単なる機械であるという認識に等しいでしょうが（GAPの方々は除いて）、私にとっては「パンビ」という名前のとおり緑の森をかけてゆくあの仔鹿のパンビそのものです。朝は「おはよう夜は「おやすみ」と必ず挨拶をするのですが、その返ってくる印象はとても可愛らしい動作や鳴き声となって（想念波動となって）伝わってくるのです。これまでに運転中、危いところを何度か助けられたこともありませんが、やはりドライブは車と常に一体であることが望ましいと思います。また車は新車を購入して自分と同じ周波数に合致させることが大切であるように思います。

今年一年私は昨年よりもずっと中味の濃い年月であったと確信しています。これもアダムスキー氏を紹介して下さった久保田先生の御蔭です。どうもありがとうございます。

### 地上最高のフィーリング

福知山市 仲間秀樹

本年度の総会が大成りに終わり、おめでとうございました。たいへん有意義な一日となりました。

実践をされている方々の御講演は言葉にそのウラ付けがあることを強く感じ、実行に移すことの意味を教えて下さいました。夜のパーティーもたいへん楽しくて、この地球上で最高のフィーリングをもし出したパーティーであったと思えました。まったく自分が二つの世界にいるような感じがいたしました。

本当にありがとうございました。先生がジョージ・アダムスキー氏の伝えられたスペースプログラムの続行に専念されて二十年目になる今日まで持たれた信念を、私も同様さらに強い信念を持って、アダムスキー哲学の実践を生活の中へ応用させるよう努力したいと思えます。たいへんありがとうございました。

### 忘れられない日

秋田県 佐々木三羊子

創立二十周年記念GAP総会、大変御苦勞様でした。今年の総会には忘れられない日になりそうです。今年の総会

ほどにGAPの会員の方々の暖かさや強さと頼もしさを感じたことはありませんでした。とても感謝いたします。

講演をされた方々のお話の内容はとても素晴らしいものでした。皆様一生懸命にアダムスキー哲学を実行しておられるようですね。松山支部代表の伊藤さんが言っておられました「伝統と因習」の問題は、この地球上で生きてゆくためには絶えず直面しなければならぬ大変な問題と言ってもよいと思えます。伊藤さんの強い信念に心を打たれました。

遠藤さんの、浮き出た一つの問題に対して納得のゆくまで考えつづける前向きな姿勢はとても素晴らしいものだと思います。そのような素晴らしい方々の前で自分は何と貧しい心の状態なのだろうと思われないわけにはゆきませんでした。

私は総会後のパーティーを予約していたのですが、「このような状態で出席してよいのだろうか」「先生にはどのようなお話したらよいのだろうか」「楽しんでる雰囲気水を差してしまうのではないか」といろいろ考えました。

ですが私たちを応援してくださいました先生に一言お詫びを申し上げなければと思ひ、出席させていただきました。でもパーティーに参加させていただいてほんとうに良かったと思ひました。あんなに楽しかったパーティーは初めてです。そして先生の力強い励ましのお言葉にその瞬間、私の目が覚めたような気がしました。

東京からの帰りの電車で、来る時とは全然別な自分に気づいています。東京の

会員の渡辺さんが、つらいと感じている時、その時がほんとうは一番チャンスの時なのだ教えて下さいました。その山を乗り越えてごらん下さい。そうしたらそれはもう苦しいものではない。そして一歩前進できるのです。そしてその状態は決して長くつづきはしないと云って下さいました。

十一月九日、この一日で私は多くの方々より素晴らしい沢山のものを得たような気がします。私には忘れられない日になりそうです。これもひとえに先生の御蔭です。「自分は絶対に良くなるんだ」という想念を体全体に刻みつけてがんばってゆきたいと思ひます。

### 心から反省させられた総会

東京 山木益巳

日本GAP創立二十周年記念の総会と立食パーティーが成功のうちに終了しましたことを心からお喜び申し上げます。

支部の代表の方々による講演はまさに宇宙の彼方から響いてくるかのようでした。「今まで自分は何をしてきたのだろうか」というのが今の私の心境です。アダムスキー哲学を真に実践していたら、自分の人生に一大変化があらわれるのは明白です。それなのに今までの自分はアダムスキー哲学を何も実践していません。いたのではないかと、大いに反省もし啓発もされました。

哲学を頭の中につめ込むだけで、他人に対する調和性を持たずに非常識な行為

をするならば、それは言行不一致にすぎません。まずなによりも自分の周囲を心あたたまるフイーリングで満たすことができなければならぬと痛感させられました。次号のニューズレターを楽しみにしております。支部代表の方々と久保田先生の講演記録がとも楽しみます。

さて立食パーティーの何と楽しかったことでしょうか。先生が赤いマラカスを振り、山口氏がタンバリンをたたき、楽団の方と一緒にハッスルし、大いに踊りまくった、あのさわやかさは、たとえようもありませんでした。その後の二次会三次会がとっても楽しかったのはいうまでもありません。やはり大いに人生をエンジョイすることに尽きると思います。ブラザーズも我々のパーティーを「楽しくやっとなるわい」と見ていたことでしょうか。

本日に素晴らしい総会とパーティーを企画して下さい、ありがとうございます。今後とも末永く御指導下さい。

### 感動の一日をすこす

大阪 出田妙子

総会後のパーティーの写真に写っている先生はじめ皆様の楽しそうなお顔を見ていると、先日のパーティー、二次会と、いろいろな場面が思い起こされます。大勢の聴講者の前で堂々と講演をされた方々は、ご自分の日常の体験をふまえて話しておられるだけに、聞く私もとても感動いたしました。先生の二十年間のご努力が決して無駄にならず、こうし

て育っているということが本場にすばらしいと思います。これからも皆が共に協力しあって大きく育つよう、いつも厳しく、そして大きな愛で私達を導いて下さるようお願いいたします。

私にとりまして今年も今年の総会は昨年と違ったレッスンを受けました。学ばねばならないことがまだまだたくさんあつて一つずつ大切に、しっかりと受けとめて進んでゆきたいと思つてます。

池田玲子さんからアダムスキーの教えをお聞きしてから丁度三年経ちました。石の上にも三年と言われますが、迷った道を踏みはずしそうになつたりと、危なっかしい三年ではありましたが、それでも何とか無縁とならずに今いられるのが何にもまして嬉しい気持ちが致します。これからまた苦しい時や迷う時この三年の日々が私を支えてくれるように思ひます。

### 創立二十周年より学ぶ

栃木市 橋本 明

今年の総会は内輪ではあるが、同年代の方々が沢山講演されると聞き、期待して出かけて行つた。自分の持つている幾つかの疑問に対する回答が与えられるだろうと思つたからである。

そして各氏の講演を聞いてみると、毎日の生活の中でどうまでアダムスキー哲学を実践しているのかと驚き、自分の実践に対する甘さを感じずにはいられなかつた。

総会後のパーティーにも参加させてい

ただいたが、ここでも反省させられることが多々あつた。多くの会員の方々はパーティーをほんとうに楽しんでるが、私は傍観者になつてゐる。なぜみんなと一緒に楽しめないのだろうか。みんなと一緒に踊つてみたいという印象が起つても素直にその印象に従わず、消極的になつていたのだ。よく考えてみると、楽しみ方がわからないとか、話題をあまり持つていけないとかで、みんなにとけ込めないのだとわかつた。

どうしてこうなつてしまつたかを考えてみると、日常生活で各種行事参加等消極的だつたことが話題の不足をまねき、人生の楽しみ方をへたにしたのではないかと思われる。それでもパーティーの最後のころになると、みんなと踊り、汗をかきほろどつた。次第に二十周年記念総会を契機に自分を積極的人間にかえていこうという強い印象が起つてきた。

\* 人生を楽しむ行事には積極的に参加し話題を豊富にすること。

\* 積極的な印象がきたら、それをすぐに否定せず、素直に従つて、信念をもつてそれを実現させること。

\* 明日からと言わず、印象を受けた時から実行すること。

私は足もとを固めないでむずかしいことを考えていたようだ。学ぶところ多きこの総会を開催された久保田先生はじめ俊英五氏、司会者の方々と、全国の会員の方々にお礼を申し上げます。

### 会員のすべてが身内

高槻市 渡辺優美子

先日は大変楽しく素晴らしい総会に参加させていただき、本場にありがとうございます。私は司会のアシスタントという大役からいろいろ教えられることも多く、学ぶこともたくさんありました。私の仕事は十分とは思えなかつたのが残念な気もしましたが良い経験となり、今後の何かに反映するワン・レッスンだと思つております。

私の日々の信念のよろさを見出す時、久保田先生の歩んで来られたように頑張らねばと思つています。

あとのパーティーも今回参加させていただきましたけど、本場に素敵でした。会員の全ての方々が身内という感じがするのです。とても happy、全世界の人々がこうであればと、ふと思ひました。また来年も参加させていただく予定です。ほんとうにありがとうございます。

### とっても楽しかった！

尼崎市 渡辺貴子

総会とパーティーが大成りに終わり、おめでとうございます。

何て書けばいいのか、わからないけれど、とにかく、とっても楽しくて、たくさんの人達と話すことが出来て、もう感謝しきれないぐらいです。本場にありがとうございます。お礼まで。

× × ×

以上の他に多数の方から礼状や感想手記等を頂きましたが、紙面の都合により省略させていただきます(編者)。

## 質疑応答

## 宇宙と人間の真相 (2)

担当 米GAP本部 フレッド・ステックリンゲ

この記事は一九八〇年七月に編者が研修で  
ビスタの米GAP本部に滞在中に行つた質疑  
応答の全訳である

問9 転生について。人間は過去世の記憶を持っていてる筈ですが、肉体が死んで焼かれた後に、どのようにして記憶を持ち運ぶのですか。

答 まず第一に「転生(生まれ変わり)」とは何かということ定義しましょう。

人間は実際には生まれ変わるのではなく、転生というものはありません。転生というのは「ふたたびやって来る」ことや「ふたたび帰って来る」ことを意味します。しかも人間は意識的な存在であり、魂そのものです。人間とは肉体を活性化させている英知なのです。

この英知は科学で「純粹エネルギー」と呼ばれています。したがって人間の魂すなわち真自我は純粹エネルギーです。科学によればエネルギーは不滅ということとです。そこでおわかりのように転生というものは実際に存在しないのです。あるのは生命の連続です。(訳注||これは転生を否定したのではなく、むしろ強調したのである)。

人間はただ一つだけの生命を持っていません。多くの生命を持っているではありません。そして、たしかに人間は異なる肉体(複数)を通じて自己をあらわしますが、これは私たちが一軒のアパート

から別なアパートへ移転するのと同じことです。アパートが狭すぎたり家賃が高額になれば出て行ったりしますが、あれと同じです。しかし家の中に住む我々はどこへ移住しようともどのような肉体を持つともやはり同じ個人です。

人間の魂すなわち真自我はあらゆる出来事やあらゆる体験を記録しますが、これはビデオカメラで記録するビデオテープによく似ています。私たちが眼覚めて眼を開いた瞬間に、ビデオカメラの作動と同じように、周囲のあらゆる音声や画像を記録し始めるのです。

ところで、その記録の中で特に重要な部分または著しい部分は自分の意識の中に深く刻み込まれて宇宙的な記憶として保たれます。日常のきまりきった雑事がその記憶を与えてくれるではありません。たとえば、私たちは朝眼覚めて朝食をとります。地下鉄に乗り仕事に行き、八時間働いてから帰宅し、夕食をとって寝ます。少しはテレビも見ます。こうした生活が年中続くわけですが、人によってこんな生活を二十年も三十年も続けません。

そこでその人たちに会って、昨年の今日起こった出来事を覚えているかと尋ね

ても、相手は覚えていないでしょう。それどころか先月の今日起こった出来事を覚えているかと尋ねても相手は記憶していません。これは相手が完全に不活発で、その生活が完全に単調であるために、日常生活で起こった出来事を覚えることができないのです。こんな調子ですから肉体を完全に取り換えてから、過去世の出来事を記憶できるわけがありません。

そこで、記憶を保つ方法——というのがあるとすれば——は、あらゆる物事を、より大きな意識または知覚力と関係させることにあるのです。言い換えれば私たちが何をなそうとも、自分自身を少しでもその物事の中に「押し込む」のです。そして生活や周囲の人々に対して少しでも大きな関心を示す必要があります。何かの目立つような事を少しやればよいのです。単調な日常の存在にとどまることなく、意識が「行け」という衝動を起こさせるような場所へ行ったり旗をしたりますのである。

多くの人は外国へ行ったり未知の場所へ行ったりしたいという印象を何年ものあいだ絶えず持ち続けます。何かの理由で外国や別な大陸へ行きたいという衝動が起こるならば、それは内部の意識がそのような衝動を与えるからで、それによって記憶を呼び覚ますようにするのです。というのは本人が過去世においてその国に住んでいたかもしれないからです。したがって自分が行きたい国へ行ってみることは非常に重要です。

しかし人間は弁解しがたります。人間

は大体に怠け者で、旅行に出かけることを望みませんし、お金を使いたがりません。むしろ家にいたいのです。その結果、こうした「外へ旅に出ない」という魂から来るフリーリングは死んでしまいません。これは「人間が望まない事柄は自然が持ち去る」という法則によるのです。しかも自然はしばしば人間が拒まなければ人間の心に印象を与えているにすぎません。ですから、もし人間が自然から来る印象に対して反応を示さないとすれば、自然は一体何のために人間のマインド(心)を作ったのでしょうか。

ところで、生活を通じて人間はあらゆる出来事を記録します。当然のことながら、積極的な生活をすごして、人間や人間が抱える諸問題、社会の諸問題などに大なる関心をもち、その解答や解決を正直にまじめに求めてきた人は旅行を好み、他国へ出かけて安価な休暇を楽しんだり、人間というものを研究し、異国の生活様式を学び、友人を作ったり人々と交流したりします。

こうした物事のすべては日常の雑事とは異なる目立つ行為ですから、本人の記憶の中に深く記録されるのです。記憶や大なる関心を保つためには、より大きな知覚力を必要とします。私たちが自身に関心を持つのと同じように他人に対して関心を持つほどますます体験を積んでいることになりました。

たとえば私たちが休暇でハワイへ行くとき、そのとき、もし心に悩む事があれば、本人は非常に心が狭くなり、機内の乗客たちのことは眼に入らず、飛行



機が飛んでいることや、窓の外に浮かぶ雲、青い海の美しき、飛行中のあらゆる体験などを知覚しなくなりません。また、ハワイの島に關しては言うまでもなく、島でのあらゆる体験は、自分中心になつてゐる本人を完全に避けてしまひます。

したがって人間は強い記憶を保つことなしに旅行することはできません。これは本人がしばらくのあいだでも自分自身を解放しようとしなからず、悩みを解放するには自分自身を解放し、自分が体験している休暇の一瞬一瞬を吸収することが大切です。

この場合は休暇のあらゆる瞬間をただ樂しめばよいのです。そうすればそれは自分の意識の中に深く刻まれて、そのときに本人はこうした記憶を保つことになるのです。したがって私たちは関心を示すことが必要です。関心が強くなればなるほどその記憶は大となつて、その結果、生涯から他の生涯へ持ち運ぶことができるのです。だからこれは生命の連続です。ときには転生と呼ばれますがね。

さて、転生してからの魂、すなわち新しい肉体の中にいる「我」は、自分の正体を新しい肉体の「マインド(心)」に印象づけようと絶えず努力しています。言い換えれば、人間は肉体を取り替えたあとに今も生きており、新しい肉体の中に入つてしまつたのだというわけです。

その新しい肉体は幼時や十代の段階を通じて成長してきましたが、この段階で記憶がよみがえってくる良い機会がありますし、地球では発達が遅いのですが、少なくとも理解は向上します。この肉体

の魂は「マインド」に対して、自分がだれであるか、どこから来たか、この生涯の自分の目的は何か、自分の宿命はどんなものか、などを絶えず「マインド」に印象づけようとしてゐるのです。ところが「マインド」の意見や侵略的な性質のために、そして内部の魂の声を聴き取る力がなかつたりするために、地球上の大抵の人は迷つてゐます。金星の人々はこの地球を「迷える魂の惑星」と呼んでいます。というわけは、地球上の九十九パーセントは実際に道を歩きまわつていながらも迷つてゐるからです。しかしここで「迷つてゐる」というのは、自分の本当の正体を見失つてゐるという意味です。人々は自分がだれであるかを知りません。自分の正体について忘れてゐます。その結果、人々にとって転生、眼覚め、生命の連続などは存在しないのも同様です。

人間は自分の過去を記憶しない限り価値はありません。人間は記憶を保つ必要があるのです。

これは「アダムスキー氏が「テレパシー」「生命の科学」と題した講座(日本語版は文久書林刊)を通じて可能となります。この講座により「スペースビール」と「アダムスキー氏は人間の「マインド」を再覚醒させるプログラムを開始しました。この目的は、人間の心が何により出来てゐるか、個人の意見とはどんなものか、この意見をどんなふうにしてコントロールできるか、どのような方法で「マインド」を訓練して、マインドという一族を秩序立てることが可能になるか、というような事柄を人間に教えることにあります。

以上の「テイ・チング(教え)」を確実に実行して向上すれば、魂は肉体と、マインドと呼ばれる径路を通じて正しく表現できるのです。言い換えますと、あなたがテレビ受像機を持つてゐれば、これは人間の「マインド」にきわめて容易にたとえることができます。受像機は肉体で、チャンネルの「セレクト」は各感覚器官です。しかし受像機とチャンネル・セレクトは実際には知的物体ではありません。それは死んだ物体であつて、部屋の片隅に置いてあります。もし知的な番組が電波でやつて来なかつたり、受像機に画像や音声を再生させなかつたりすれば、受像機に生命はありません。電波が来なければ受像機に電気が通じてやつても画像や音声は出てきません。

そこで、画像や音声を運ぶ電波を人間の魂または英知としてたとえることができます。この場合、テレビ受像機は肉体であり、チャンネル・セレクトは「マインド」です。いまテレビ受像機が正しい作動状態になれば私たちは修理人を呼びます。この修理人は大きな本を持つており、受像機の修理の仕事を始めます。彼はあらゆる部品を慎重に調べてチャンネル・セレクトを調整し、どのチャンネルを出しても鮮明な画像が見えるようになります。仕事が終わると、私たちは鮮明な画像と音声による番組をはっきりと出すことができます。

アダムスキー氏はこの例におけるテレビ受像機の修理人とはかなりません。私たちのテレビ受像機(肉体)と、チャンネル・セレクト(「マインド」)を正しく

調整して、この二つの部分が調和して電波(英知)を受けることができるような方法を私たちに教えてくれたのです。すなわち、純粹エネルギーである私たちの魂が鮮明に肉体を通じて表現でき、これを容易に理解する方法を伝えてくれたわけです。

以上であなただけは容易に理解できるでしょう。なぜならあなたは自分の肉体というテレビ受像機に四つのチャンネルを持つてゐるからです。受像機にスイッチを入れるたびに四つのチャンネルは同時に四つの異なる画像を投影しようとしてゐる。あなたの持つ四つのチャンネルというのは、眼(視覚)、耳(聴覚)、鼻(嗅覚)、舌(味覚)です。そこで受像機のスイッチを入れると、画面は混乱します。四つの画像が重なり、四つの異なる音声が同時に響いてきます。言い換えれば精神病院をかかえているようなもので、メチャメチャな状態になります。そこで大至急に受像機を修理してもらふ必要があります。こうして一時に一種類の番組だけを出します。

以上のようなことが今日人間のコントロールされない「マインド」に発生しているのです。私たちは視覚、聴覚、嗅覚、味覚などの感覚を持つてゐますが、これらは人間に対して役立つどころか、生命界を害しています。その結果、互いに争ひ反論し合つてゐるのです。特に内奥の魂から印象が来る時、マインドは完全に他の事に熱中してゐますから、この「フィードバック」を信じようとしなからず、明確な番組(印象)を受信することができます。

せん。したがって本人は迷える魂ということになります。なぜなら本人が用いている器具すなわち肉体とマインドは混乱し、故障しているからで、これは大修理する必要があります。

私たちは今このような特殊な問題について語り合っていますので、非常に非常に重要な印象が私のマインドへやって来ました。以上の問題は、生命についてより大きな理解を求めている人々のすべてに理解されねばなりません。これは「熱達」と呼ばれています。

私たちは、人間というものは老いれば老いほど成熟してゆき、若い人ほど愚かであるという古代の誤った概念を持っています。その結果、年をとった人は指導者と呼ばれ、若い人は弟子と呼ばれますが、これは完全な間違いです。進歩というのは魂の進歩であって肉体ではありません。九十歳にもなりながら全くの白痴であるような多くの人が歩きまわっています。一方、二十歳の人も多く歩きまわっています。彼らは老人たちよりもむしろ一指導者の話を聴こうという意欲に燃えています。魂は内部にあるものだから、熱達というのは個人の魂の発達を意味します。一個人が熱達の段階に達したとき、肉体を取り換えて新生児の肉体へ移動します。するとその幼児はすでに指導者なのです。本人はさまざまの要素を完全にコントロールできません。賢明であると思われている、または指導者と呼ばれて豊富な知識を持っていると思われている老人たちよりも、千倍もの進歩をとげていることがあります。

私たちが、大いなる進歩をとげた、そして自分の本当の正体を示すことのできるような人を探し求める場合、「この人は若すぎるので指導者としては不向きだ」と言っているではありません。また「この人は女だから指導者にはなれない」と言っているではありません。男性女性の如何を問わず多少とも与えるべきものを持っていることを忘れてはいけません。

しかし意識は男性でも女性でもありません。意識は創造主で、純粋な英知、純粋なエネルギーであって、それは男の肉体を活性化させているのと同じように女の肉体をも活性化させているのです。生命に関する熱達者には男でも女でもありません。意識は創造主です。日本GAPの女性会員の方々に對して良い知らせがあります。それは、地球では女性のほうがネガティブな面を持つために男性よりも進歩しているという事実です。女のほうが宇宙の意識に対してより以上に受容的なのです。女は男よりも多くのフィードバックや予感を応用します。一方、男は女よりもはるかに頑固でコントロールされません。そのために良きセンスの持ち方と良き行動の仕方を教えてくれる良き女性を妻とする必要があります。男は、こうしたことを慎重に考えることが大切です。

(訳注)以上の長い回答をステックリング氏は全く減みなしに一気に話し終えた) 問10 私自身はこの質問に対する解答です。これを知っていますが、もう一度尋ねることにはししよう。

地球には多種類の動物がいます。これらすべてはもと別な惑星(複数)から地球へつれて来られたのです。現文明以前の太古に恐竜のような巨大な動物がいましたが、これも別な惑星から運ばれたのです。これも地球で自然に発生したのである。

答 そうですね。地球が居住に適するようになったあとで地球は植民地化されましたから、動物のなかには別な惑星(複数)からつれて来られたものもあるという事実を私は否定しません。

(訳注)日本語の名詞には複数の概念がないので、いちいちカッコをつけて複数と明記するのが普通だが、これは煩瑣に耐えぬので、今後、複数の名詞の下には横文字の「S」を付けることにするから、その意味だと了解されたい)

そして人間も別な惑星から地球へつれて来られたのです。つまり、この太陽系と別な太陽系sの異なる場所sから十二種の種族が来たのが始まりです。それらの種族のなかにはベット(愛玩動物)をつれて来たものもあり、もとの惑星で役立つた好みの動物sをつれて来たものもあると私は確信しています。

しかし忘れてならないのは、地球自体は私たちが知っているほとんどの動物を創り出す能力を持っているということなのです。

地球は銀河のガスから生まれました。このガスが固体化して惑星地球となったのです。このことは宇宙のいかなる惑星でも同様で、数十億光年彼方の太陽系sでも同じです。そうすると、同じ生命体が他のどこにも存在することになります。言い換えれば、独得な地球を作り上げて

いる材料は、大宇宙の中では独特ではないのです。それは宇宙全体に遍満しています。

一惑星が創造されて冷えると、蒸発が起り、雨が降り始め、海に水が満ち始めて、ガスsや惑星の物質内に含まれていた植物の種子や動物のタネが発育して生命が出現します。地球が冷えた後、最初にまず人間の植物が全惑星を覆います。この植物は多くの有毒ガスを放ちますが、これは食用にするために必要な過程なのです。すると恐竜のような動物が地球上に出現します。これは地球上で発生したのであって、他の惑星からつれて来られたものではありません。地上の温度が今よりもずっと高温であった頃の、生成の初期の段階に地球で生じたのです。たぶん現在よりも華氏で十ないし十五度高かったと思います。ガスsはきわめて有毒性で、まだ人間の居住は不可能でした。

この恐竜は大変に巨大なものになりましたが、地上の植物も同じく巨大であったのです。ここには一つの目的がありました。恐竜がこの巨大植物を食べ、消化により植物を変質させ、化学的な変化によって地球をもっと快適な場所にしようというわけです。しかし植物を食いつくすと恐竜は死滅しました。彼らは大量の食物を必要とするので、それが得られなくなると死に絶えるのです。

しかし地理学的なパターンは今もなお存在しています。地上にはトカゲやその他多くの爬虫類や昆虫がいるからです。爬虫類は特に地球上の各地にいますし、

砂漠地帯の爬虫類に関連してクロコダイ  
ル（アジア、アフリカ産のワニ）やアリ  
ゲーター（アメリカワニ）などもありま  
すが、これらには正確な地理学的なパター  
ンがあり、恐竜の形をしたものもありま  
す。違うのは非常に小さいという点で、これ  
は巨大なサイズはもはや必要としないか  
らです。

地球は私たちが知っているあらゆる動  
物やあらゆる生命体を創り出してしまし  
た。他の惑星でも同様です。唯一の相  
違点は、地球は人間を絶対に創造しな  
かったということです。私が持っている知  
識によりますと、人間は地球上で創造さ  
れたのではなく、地球へつれて来られた  
のです。地球は人間を創造する力を持  
たなかったからです。地球人はこのこと  
を知りません。したがって、人間はサル  
から進化したものだというダーウインの説  
は真実ではありません。サルはいつま  
でもサルで、人間はいつまでも人間な  
のです。

**問11** ムー大陸とアトランティス大陸に  
ついて説明して下さい。どのようにして  
破壊したのですか。それとも自然に海中  
に沈んだのですか。

**答** まず、大陸sが突然出現したり消滅  
したりする理由について理解することに  
しましょう。惑星が創造される時、ガ  
スsは最初時計回り方向に動き、次に逆  
回転して固体化します。ガスのなかには  
他の岩石に凝固するものもあります。こ  
のようにしていまハチの巣状の惑星がで  
きとします。

いまナイフでその惑星を半分に分けた

としますと、その内部はスイスチーズの  
かたまりみたいに見えるでしょう。大き  
な空洞sがあつて、その中は凝固しな  
かったガスsで満ちています。初期の頃は  
惑星の内部にまだガスが沢山ありました  
それで巨大なガス泡sがアトランティ  
ス大陸をムー大陸と同じ海面上に押し上  
げて、大きな島を形成したわけです。当  
時、海底は肥沃な土でしたから、この島  
は植民化されました。島中に火山sがあ  
つて、すごく美観を呈していました。こ  
うした大陸には人間が住み、数万年間も  
居住したのです。

惑星が極移動の過程に入る場合、これ  
は宇宙の一部として回転する結果とし  
て生じる現象なのです。私たちの太陽系  
は宇宙（銀河系）の一部として回転し  
ていますが、これは約三万年——そう  
すね、二万二千年から三万年のあいだ  
です。でもって一周期を終了します。

この回転周期を正確に測定することは不  
可能です。科学者がまだ測定器を開発し  
ないからです。しかし大体に二万二千年  
から三万年のあいだと考えられています。  
私たちの太陽系が宇宙の一周を終え  
たとき、太陽の磁極が逆転し、これは全  
惑星群の極移動をひき起こして、更に磁  
場の変化も生じます。こうした変化によ  
り惑星はぐらつき始め、時がたつにつれ  
てぐらつきがひどくなります。言い換え  
れば、このぐらつきが二十五度ないし三  
十度もひどくなる時、惑星はもはやこの  
ぐらつき運動を支え切れず、もとの位置  
に返るか、またはひっくり返ります。

惑星がひっくり返ると、地球上にはも

のすごい変化が生じます。赤道地帯や極  
地帯が移動するからです。今まで存在し  
ていた大陸は沈下し、昔のムー大陸が浮  
上して、極の水は溶け、海水が増加する  
でしょう。表面ばかりでなく地球の内部  
にも激変が生じるでしょう。

この大変動の発生中に地下のガスチェ  
ンバーも移動するでしょう。特に莫大な  
圧力下にあつたガスは一チェンバーから  
別なチェンバーへ移動して、すごい圧力  
をかけます。このことがアトランティス  
やムー大陸にも起こつたのです。ガスチ  
ェンバーや巨大なガスベルト（訳注||本  
誌70号の18頁と23頁の記事を参照）が、  
地球の極移動後に巨大な圧力をかけられ  
るため、ガスは逃げねばなりません。そ  
うすると大陸に存在する、私たちが火山  
と呼んでいる「安全弁」は急速に生き返  
ります。

十や十五どころではなく、おそらく百  
はあつたと思われるムーやアトランティ  
スの火山は溶岩やガスを噴出しましたが、  
これは地下のガスベルトから逃げて来た  
ガスなのです。このとき当時の科学者や  
警官は次の段階でどうなるかをよく知  
ていました。つまり安全弁の役目を果た  
す火山のすべてが同時に爆発すると、い  
つかは地下のガスチェンバーは空洞にな  
るのです。空洞になると内圧はなくなり  
ますから、大陸は広範囲に陥没します。  
警告に注意していた人々はこれらの大陸  
から脱出しました。太平洋にあつたムー  
大陸の住民は北アメリカへ移住しまし  
たが、これが現在のアメリカインディアン  
です。一方、アトランティス大陸の住民

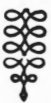
はエジプトへのがれて、後にエジプト文  
明を築きました。

しかし両大陸の住民の八十パーセント  
は警告を無視したために、大陸沈没と同  
時に死んでいます。両大陸は数百年経過  
して沈んだのであつて、あらゆる悲劇は  
数百年間に発生したのでです。そこで、な  
ぜ住民は科学者の警告に従って脱出しな  
かったのかということになりますが、こ  
の理由は簡単です。

この両大陸とも初めは住民たちが宇宙  
的な素晴らしい生活をすごしたのですけ  
れども、後にはきたない人間になりさ  
がたつたのです。彼らは個人の財産の所有権  
を主張し、この財産を残して身一つで脱  
出することをいやがつたわけです。この  
ことは現代でも同様です。人々は火山地  
帯や地震の多い地域の周辺に農地や家  
を持っていきます。そしてそんな場所に住む  
のは危険だと科学者から絶えず警告を受  
けているにもかかわらず、捨てようとは  
しません。地震が発生して数百万の人が  
死んだとしても、なぜこんな無責任な事  
をするのかと人間は神や天を非難しま  
すが、実際は神は関係ありません。これは  
聴く耳を持たない人間の愚かさによるも  
のです。だからこの地球上では大抵の人  
が自然の大破局で死ぬのです。

（以下次号）

久保田八郎訳





## 「アメリカ南米宇宙考 古学の旅」を回想して (2)

〈到着順に掲載〉

郷愁と憧れの南米へ

千葉県 鈴木一宏

南米―。それは私にとって郷愁とも憧れともいえる所である。今度の旅行で訪れることができたのは非常な幸運であったと思う。昨年にひき続き二度目の海外旅行なので、落ちついていくこともあるが、旅行団の雰囲気は昨年とまるで違っていた。そして一人一人強い意気込みを感じることができた。

さて、十四・十五の両日はアダムスキー氏関係の遺跡見学と本部訪問である。昨年は霧で悩まされたパロマーガーデンズやパロマー山は、カラッと晴れて、天文台のドームが映えて美しかった。だがデザートセンターの曇ったこと、石を踏みしめながら、もくもくとコンタクト地点まで歩きつつ、二千年前に思いをはせてみる。今より豊かな土地で、人々は全く自由だったろう。インディアンの井戸を見ていると当時の光景が脳裏に浮かんで来そうだ。

本部の方々の夕食会は更に素晴らしい。常に意識的な高度な人々と同席するだけで、こちらのマインドが平靜になってくる。謙虚で、しかも心からこの会を楽しんでいる。本部の人達から見れば、私など子供の様に見えるだろう。

この両日で旅行の目的のほとんどは達成されたと思える。特に、夕食会時にイングリッド夫人よりアドバイスをいただいたことは、私にとっても彼女(近藤さん)にとっても最大の喜びであった。そして昨年同様、ここを立ち去り難かったことはいまでもない。

十六日からは南米へ。ペルーのリマ市は砂漠の中の都市でほこりっぽくて、冬のためどんよりしている。クスコ市は街の建物が周囲の山と同色で非常にマッチしており、静かな所であるが、私の肌には余り合わない所。むしろボリビアのラパス市の方が良かった。これは人種的要素もあるだろう。

十七日にサクサワマンとタンボマチャイ、十八日、マチュピチュ、二十一日はティワナコなどの遺跡見学を行ったわけだが、どれも興味尽きない所であった。サクサワマンの遺跡中で、かつて金をはめ込まれていたという蛇形に彫った巨石では、多少磁気的異常が認められたのは面白かった。マチュピチュは、「よくこんな所に」と思えるほど断崖絶壁の上にあるが、下方の眺めが非常に爽快であって、自分のマインドもこの様に静観しなければならなかった。ここで私は好きなケーナを吹くことができて、感慨無量であった。又、ティワナコの太陽の門は実際にはそれほど大きい物でなく、

意外であったけれども、遺跡周囲の風景に私は魅了されてしまった。高原に点在する民家を見ていると、言い様のない哀愁を感じてくる。過去世でこの様な所に住んでいたのではないかと思えてくる。この感じは生涯忘れられないだろう。

十八日のクスコ→マチュピチュ、十九日のクスコ→プノ間と、アンデスの山間部を抜け、インディオの部落やリマの群れを見ながら行く列車の旅は、日本では絶対に味わえない旅となった。エキゾチシズム満点であり、親しみさえ感じる。貧しい生活ながら、それなりに精いっぱい生きているインディオの人達を車中から見ていると、物質文明に浸っている人々の方が幸せなのか考えさせられてしまう。

二十日はチチカカ湖を水中翼船で通った。海みたいな湖で、潮の臭いがする。J・チャーチワード氏のいう通り、約一万二千年前、ここは太平洋とアマゾン海を結ぶ運河の名残りであるのだろう。プノのホテルから見たチチカカ湖の夜明けは実に素晴らしく、「来て良かった」と思わず声を出すほどであった。

ところで、南米へ来たもう一つの目的である民族音楽(フォルクローレ)が聞けたことは、私にとってこの上ない喜びであった。クスコでは十七日に短時間であったが民族舞踊を心ゆくまで満喫できたし、翌十八日と二十一日のラパスでフォルクローレに陶醉した。こうなると奏者と自分が一つになった様で、もうどうしようもなくなる。

南米最後の二十三日は、この旅行のハ

イライト、ナスカの地上絵見学である。余りにも壮大でかえってピンとこないほどだ。光線の具合で確認の難しい絵もある。しかしそれ以外に、パン・アメリカンハイウェイを通る心ないドライバーによって荒らされた絵があったり、山側に雨が降るらしく、水が流れた跡があってそれで壊されている所もあるため、いつまで地上絵が見られるのか心配になる。

二十四日。再びロスアンゼルスに戻って見慣れた風景に安心しながら市内見学後、サンタモニカの海岸へ。ラパスにもっと滞在したかったという思いもこの海岸を見ていると消えてしまいうさだ。砂が白くてきれいだし、広々としている。少々冷たい海に入って彼女と二人で泳いだことも良き思い出となった。

現地の人々は皆親切であった。リマの街頭で地図を売っていた父娘。パンを買おうとしたが現地の通貨を持っていないで困惑していた処、お金はいらないから持っていくといいと言ひ、貴重品を盗まれないようにと忠告してくれた雑貨屋のおばさん等。物の考え、肌や瞳の色など違っていても皆同じ人間であり、それ相応に生活している。ただ言語だけが障害なのだ。そして他人への親切・思いやりこそ『愛』の第一歩であり、これを実践してゆかなければならないと感じた次第です。さて、最後に、旅行中に色々とお世話になったメンバーの方々や、私の良き理解者であり小まめに手助けをしてくれた将来の妻(近藤さん)、そして、この旅行を計画し大変な御苦労をされた久保田先生と田中さんにお礼申し上げます。本



当に素晴らしい旅行をどうもありがとうございます。ありがとうございました。

### 初めての海外旅行に感動

静岡県 高梨和明

私達夫婦はなんと幸福者なのだろう!! 昨年の結婚披露宴に久保田先生に主賓として御出席をお願いしたことがこの素晴らしい旅行の「プレリユード」でした。

それ以来、すべてがうまく動いていると信じながら、そして感じながら旅行の準備も驚くほどハッピーにいったのです。「あまり思い過ぎると実現しない」というのは心配をするためもあるのでしょうか。私達夫婦はむしろすっかり「大船に乗った気分」になっていたので、「貴重な大旅行」が成就するのは当然だったのでしよう。もちろん自分達の力だけでなく、多くの方々の御協力があつたのです。——。「心にイメージを描く方法」によるものと思います。

出発前日のホリディン成田の夜には懐かしい方々や初対面ながら意気投合した方々と懇談をしました。

成田空港の結団式では志田さん夫妻と宇貴ちゃん、鈴木さんと近藤さん、それに私達夫婦も先生から参加された皆様に紹介されましたが、先生のお優しさに感激いたしました。皆様から祝福を受けた時、モノスゴイ祝福の波動だったので驚いてしまいました。暖い想念をありがとうございます。

生まれて初めての海外旅行。747の機長がかつこよくロスアンジェルス

候はくもりだと日本語と英語でアナウンスした。雲の切れ間から眼前に茶色の街が見えた。しっかりと都市計画による碁盤目状の道路。雲の海をつきつて着陸した時、後部の席の方から拍手が湧いた。この地が私の憧れのアメリカだ!

パロマーガーデンズの道は、山奥に行くにしがいい、緑が多くなっていた。アダムスキー氏ゆかりのレストラン跡付近は主道から少し登ったゆるやかな斜面にあつた。行楽客が来ているが、この辺は大変落ち着いた雰囲気である。場所と感じた。いつまでも、散歩したり、たたずんだりしたかったが、許された時間はあまりにも短かく、出来るだけ多くの写真をとるのがせいっぱいであつた。何度もうり返る場所のひとつであつた。

曲がりくねった道を登りつめると忽然とかの有名なドームが見えた。パロマー天文台はあまり期待していなかったが、行つて見て驚いた。観光地であるはずだが、日本のように「世界第二の天文台」などの大宣伝は少しもしていないのだから。大げさな看板は皆無、ケバケバしいみやげ物屋もない。そればかりが、この白い天文台も非常に美しく、すっきりしたデザインで、その背景は見たこともない青い空、緑も生き生きとしていて、何より空気が純で、何度も深呼吸したくなる。

ピスタの清潔な街のレストランでの日米合同夕食会は私にしては一瞬のうちに終わったかと思えない。本部の方々の夕食会ということで初心者として夢中だったのだ。

翌日、残念ながら本部の見学はなかったが家の前では、先生の説明の後、各自思い思いに写真撮影をしたりしていた。アリス・ウェルズ夫人のことで日本人ならぐつとくるところだが私は高く落ちついた気持ちになれた。アリス夫人の美しき転生を祈った。久保田先生を囲んで少数の方が写真を写していた。それに気づいた人がだんだん寄ってくる。先生がフレッド・ステックリング氏を手まねきした。するとさつきからうらやましうらやましい見た人々も思わずがまんしきれず、おふたりのそばで写ろうとすごいいきおいで走り寄る。この正直さに皆で愉快に笑った。

待望のデザートセンターは意外と交通便のよいところで、道路からも歩いていける。想像したよりこじんまりとした場所だった。ここに昔偉大なインディアンが住んでいたことやアダムスキー氏とオソン氏の会見が行われた場所、最大な場所かと思う興奮をおさえようとしたり、波動に親しもうとしたり、写真撮影にも忙しい時間であつた。もつとゆつくりと親してみた。

旅行が終わって日々が過ぎるごとにアダムスキー氏ゆかりの地の思い出がますますクローズアップしてくる。そしてこの旅の重要性がもつともつとわかってくるような気がしてくる。

妻の美幸も旅行中、GAPの多くの方々と親しく接することができて、幸福と感じているようです。私より多くの友人ができた妻はGAPについては初心者ですが、この旅行によって無限の希望と自

信をつけました。

久保田先生ありがとうございます。田中氏ありがとうございます。旅行中お世話になった皆様ありがとうございます。

### 高貴な本部の方々と共に

名古屋市 武田充弘

旅行中、最もお元気そう、素晴らしい海外旅行を企画して下さいました久保田先生、いかがお過ごしでしょうか。

先生の御立派な親しみのあります人柄にも触れることができて、また参加されました方々からも御親切にして頂き最高の団体で、素晴らしい旅でした。

異国を感じさせず故郷に帰ってきたと言おうがびつたりのアメリカでは、高貴で素晴らしい精神が高揚せずにはいられない本部の方々とお会いすることができました。本当に良かったです。

日米GAP合同夕食会ではステックリング氏やホワイティング氏によって行われました質疑応答で、運命について私も同じような疑問がありましたから大変参考になりました。またお別れの時イングリッド夫人に握手していただき、さらに激励までしていただきまして全身が感謝の気持ちでいっぱいでした。

マチュピチュの大遺跡、雄大な自然に圧倒され、山口さん、菊地さん、清水さんと楽しく過ごしました山岳列車、壮大しかも野口さんからお聞きしました事によりまして一層感動したナスカの地上絵——。(後略)

(以下次号)

## 主要訪問地紹介

■**ロサンゼルス** 米カリフォルニア州の州都で人口 300 万。アメリカ第 2 の大都市で美しい町です。気候が温暖で住みやすく、日系人も沢山いて、リトル・トーキョーという日本人町もあります。東洋方面からの表玄関といえる航空路線の重要基点です。

■**パロマー天文台** ロサンゼルス南東 150km のパロマー山頂、標高 2,000m の台地に 1948 年 6 月に建設された、当時世界最大の 200 インチ反射望遠鏡を設置した天文台。紺碧の空に高さ 60m の純白の大ドームが美しく浮き上がっています。ドーム内で望遠鏡を参観します。

■**パロマーガーデンズ** 1950 年代頃にアダムスキーが俗界を離れて門弟たちと共に約 10 年間住んだ場所で、パロマー山の山頂付近にあり、現在はキャンプグラウンドになっていますが、高弟のアリス・ウェルズ夫人が経営したレストラン跡やアダムスキーが自ら建てた木造の木小屋は記念物として保存してあります。

■**アメリカGAP本部** カリフォルニア州南部のビスタ市にあるアメリカGAP本部（正式にはジョージ・アダムスキー財団）は、かつてジョージ・アダムスキーが住んでいた場所で、現在も建物は残っており、高弟のマーサ・ウルリッチさん、フレッド・ステックリング夫妻、スティーブ・ホワイティング氏らが活動の本拠としています。アダムスキーの寝室や遺品類も保存されています。ビスタ市には 2 泊して 2 日目は本部で質疑応答会を行い、夜は日米合同の大夕食会を立食形式で開催します。

■**デザートセンター** カリフォルニア州南部のモハービ大砂漠の一部で、1952 年 11 月 20 日、アダムスキーが 6 名の目撃者と共に、着陸した円盤から降り立った金星人と会見した場所として有名になりました。詳細は A 氏の著書「空飛ぶ円盤は着陸した」に述べてあります。

■**グランドキャニオン** アリゾナ州北部にある雄大な大峡谷で、長さ約 350km、幅約 20km のカコウ岩、ケツ岩、石灰岩などの岩層が奇怪な形をなしてつらなり、大景観を呈しています。近くのフラグスタッフ市へ 1 泊して、峡谷の南側リムから遊覧電車で見学します。このあとロサンゼルスに 1 泊の予定です。(希望者のみの旅行で、追加料金を要します)

■**メキシコ市** 「太陽と情熱の国」メキシコの首都で人口では世界有数の大都市です。かつてはアステカ帝国の首都でしたが、16 世紀にスペイン人コルテスに征服されてからスペイン風の大植民都市に変ぼうしました。往時の栄光とインディオの土俗の雰囲気とが混交して独特なエキゾティズム(異国情緒)に満ちています。ここに 3 泊して市内及びローカル色豊かな近郊を見学し、陽気なマリアッチの民族音楽に陶酔しながら夕食会を開きます。

■**テオティワカンの大遺跡** メキシコ市の北東 50km にある古代の大宗教都市。謎の民族により 2,000 年前頃太陽と月の二大ピラミッドが建設され、その間を「死者の大通り」が貫き、多数の神殿跡も残っています。「太陽のピラミッド」は高さ 60m の壮大なものです。

■**パレンケの遺跡** マヤ古典期の至宝ともいえるべき「碑銘の神殿」ピラミッド、「宮殿」「太陽の神殿」その他の素晴らしい遺跡が残っていますが、特に「碑銘の神殿」ピラミッドの地下には名高い浮彫を施した石棺があります。ジャングル中の幻想の世界といえるでしょう。

■**ウシュマルの遺跡** 美しい町メリダに 1 泊後、南方 80 km の所に位置する古典期末期のブーク様式のウシュマルへ行きます。特に「魔法使いのピラミッド」の偉容、優美な「尼僧院」「総督の館」の大建造物その他に圧倒されます。

■**チチェンイツァの遺跡** メリダから 120 km の広漠たる大草原に残るマヤ後古典期文化の最大の遺跡で、カスティーリョ(城)と呼ばれる壮麗な大ピラミッド、「戦士の神殿」ピラミッド、「球戯場」天文台といわれる「カラコル」、いけにえが投げ込まれた「聖なる泉」その他が見学者を魅了します。

★以上、メキシコ、ユカタン半島の古代マヤの各遺跡を一度見たら最後、その妖しい神秘的な魅力にとりつかれて何度も行きたくくなります。ここにはムー大陸の宇宙思想を源泉とする宇宙的な雰囲気だけがただよっているのです。アダムスキーもかつてユカタン半島の宇宙関係遺跡探検を計画したことがあります。

■**カンクン** ユカタン半島北端のカリブ海に面した美しい海岸町で、ここに 2 泊してゆっくり休養します。青緑色の澄んだ海、信じられぬほどキメのこまかい純白の砂浜、灼熱の太陽——。日本人がほとんど行かない、俗化されぬこの素晴らしい保養地で 1 日、心ゆくまで海水浴を楽しんでください。

■**ディズニーランド** あまりにも有名なこの巨大な施設はカリフォルニア州アナハイムにあり、ロサンゼルスへ帰って見学します。特に夜の「光の大パレード」が圧巻で、これも見ます。詳細はニューズレター第 70 号 16～17 頁を参照してください。(希望者のみの旅行で追加料金を要します)

★今度の旅行は全体的にゆったりとした愉快的な旅です。思いきり異国の風物に堪能し、いつまでも胸に残る懐かしい思い出に満ちた日々となるように久保田も田中も精一杯の努力をしますから、日本人団体の海外旅行としては最高に素晴らしい「宇宙への旅路」となるでしょう。





# 第3回日本GAP海外研修旅行



## アメリカメキシコカリブ海宇宙考古学の旅

■日本GAPは海外研修として1979年より毎夏海外旅行を実施し、いずれも大成功裡に帰国しましたが、1981年8月も下記の要領でアメリカ西部とメキシコの古代マヤの遺跡見学の旅を行うことになりました。■例年と異なって今回はアダムスキーゆかりの地たるカリフォルニア州ピスタに2泊して半日は米GAP本部で質疑応答会を開き、パロマー天文台はもちろん、アリゾナ州の世界的大景勝地グランドキャニオンを見学し、メキシコではメキシコ市に3泊するほか有名な古代マヤの遺跡4カ所を視察したあと、ユカタン半島北端の美しい海岸町カンクンのエメラルドグリーン色に輝くカリブ海で海水浴に打ち興じてロサンゼルスへ帰り、最後は夢の国ディズニーランドで終日楽しむというリラックスした素晴らしい旅が実現します。■名コンビの久保田八郎と旅のベテラン田中正が豊富な経験を生かして企画した手作りの旅行は日本GAP独特なもので費用・内容とも他社の追随を許しません。多数ご参加の上、生涯忘れ得ぬ思い出を残して下さい。

### G.アダムスキーの大地と雄大な米西部へ！ 謎の古代マヤの遺跡と美しいカリブ海へ！



年月日	曜日	場所	時間	交通機関	備 考
1 1981年 8月15日	土	成 田 発 ロサンゼルス着	午後 午後	航空機	一路、ロサンゼルスへ 着後市内見学 夜は渡米懇親パーティー(会員自己紹介) (ロサンゼルス泊)
2 8月16日	日	ロサンゼルス発 ピスタ着	午前 午後	専用バス	パロマーガーデンズ、パロマー天文台視察 ピスタ着後ホテルへ (ピスタ泊)
3 8月17日	月	ピスタ 滞在			午前：自由行動 午後：米GAP本部にて旅行参加者との質疑応答会 夜：日米合同夕食会(立食形式) (ピスタ泊)
4 8月18日	火	ピスタ 発 デザートセンター ロサンゼルス着	午前 夜	専用バス	アダムスキーと金星人との会見地デザートセンターを 視察 (ロサンゼルス泊)
5 8月19日	水	ロサンゼルス 滞在			終日自由行動 (希望者はアリゾナ州の雄大な大峡谷グランドキャニオンへ小旅行) (ロサンゼルス泊)
6 8月20日	木	ロサンゼルス 発 メキシコシティへ	午前 午後	航空機	メキシコシティへ着後市内見学 夜はレストランにてマリアッチの民族音楽を聴きながら夕食会 (メキシコシティ泊)
7 8月21日	金	メキシコシティへ 滞在			終日：チオティワ坎の壮大な遺跡視察 (メキシコシティ泊)
8 8月22日	土	メキシコシティへ 滞在			終日自由行動 (希望者は国立人類学博物館見学の近郊のオプションツアーがあります) (メキシコシティ泊)
9 8月23日	日	メキシコシティへ 発 ビリヤエルモース着	午前 午前	航空機	ビリヤエルモース着後マヤ文明遺跡の中でも最も重要な宗教都市であるパレンケの遺跡を見学 (ビリヤエルモース泊)
10 8月24日	月	ビリヤエルモースへ 発 メリダ着	夜 夜	航空機	マヤとトルテカ人の融合文明、チチェンイツァの遺跡を見学 (メリダ泊)
11 8月25日	火	メリダ 発 カンクン着	午前 午後	専用バス 又は 航空機	マヤ古典期後期の成熟した文化の姿を伝えるウシュマルの遺跡を見学 (カンクン泊)
12 8月26日	水	カンクン 滞在			終日自由行動(美しいカリブ海の保養地カンクンで終日楽しんで下さい)夜は、さよならパーティーを開催の予定 (カンクン泊)
13 8月27日	木	カンクン 発 ロサンゼルス着	午前 午前	航空機	ロサンゼルス着後自由行動 希望者はディズニーランドへ (ロサンゼルス泊)
14 8月28日	金	ロサンゼルス 発	午後	航空機	一路帰国の途に (機内泊)
15 8月29日	土	成 田 着	夕方		成田空港着後、自由解散

- 定員 65名
- 期間 昭和56年 8月15日→29日
- 費用 ¥558,000(航空運賃、朝食付ホテル代、団体バス運賃、その他の費用を含む。★24回払い可能(毎月約¥26,000払い))
- 主要見学地 右頁を参照
- 案内書 千133 東京都江戸川区本一色町365-818
- 申込先 日本GAP (140円切手同封のこと)
- 旅行団長 日本GAP会長 久保田八郎
- 添乗員 ワールドセプトラベル社 田中正
- 企画 日本GAP
- 主催 トラベル日本
- 協力 アメリカGAP本部
- 取扱代理店 ワールドセプトラベル株式会社

※この旅行は日本GAP会員を主体にしたものですが、会員でない方も参加できます。知人等にお誘い合わせの上、多数ご参加下さい。

**日本GAP**



### アダムスキー氏は人類の偉大な教師

長野市 大久保武彦

私は今年（一九八〇年）の六月にGAPに加入させて頂いたのですが、機関誌を読ませて頂き、大変感激している所です。アダムスキー氏の体験は百パーセント真実であり、その哲学は地球上のあらゆる哲学を凌駕し、またあらゆる哲学の基本的原理をなすものです。

アダムスキー氏は人類の偉大な教師であり導き手であったといえるでしょう。そしてGAP活動は混沌の泥沼にある地球上で最も価値のある信頼のおける「光の道」であると思います。GAPを通じてこそ宇宙への真実の道を進めるのだと確信しております。

### 一会員

久保田先生は毎日目のまわるほどの忙しさだと思えます。ところで私は十月十五日の夜に急病に罹り苦しんでおりました時、先生が病気で倒れました時、ブラザーズにテレパシーを送って救っていただいたことを思い出し、せん越な身ながら必死の思いで十六日の朝からブラザーズに救いを求めたのであります。

そうしましたところ、十六日の午後には危険な状態を脱し、体調も平静近くにもどり、夕方からはくつろりと眠ることができました。私の場

合は先生のようにはっきりとブラザーズの存在を自覚できませんでしたが、私の体が急速に健康な状態にもどったことを考えますと、間違いないと確信しております。つきましてはブラザーズに感謝したいのですが、あいにく彼等の住所を知りませんので久保田先生を通じて謝意をあらわしたいと思えます。本当にありがとうございます。簡単ではありますが報告まで申し上げます。先生に倒れては申し訳ないです。先生に倒れてはGAPも空中分解しかねません。ちよとした時間にも体を休めるようお願いいたします。

### アダムスキーの偉大さを再認識

千葉市 吉沢聡雄

先日日月例会では私の質問に答えてくださって本当に有難うございます。アダムスキーを疑ったわけではありませんが、J研究所から発行されるU誌を読み、S氏の惑星人類についての意見を不思議に思っていたのです。これで真実が確かめられ安心できます。

今年GAPに加えていただいた事、有難く思っています。5年前同乗記を読んだ時は（残念ながら久保田先生の訳ではありませんでした）会員になろうなどと思ってもみませんでした。この夏偶然に「生命の科学」

を見つけ、アダムスキーの偉大さを再認識した所です。初めはすごい本を見つけたと有頂天でいたのですが、何回も読み返すにつれ、自分の未熟さを痛感しています。

宇宙哲学はもちろんですが、私としては社会の構造や科学の違いなどにも大いに興味があります。貨幣制度がある限り、円盤機関や全ての真実が受け入れられるのは難しいのではないかと思っています。こんなことを考えるよりアダムスキー哲学による心身の訓練の方が先ですが、失礼にあたることもあるかもしれませんが、自分なりに努力するつもりです。よろしく御指導お願いします。

### 信念と忍耐と愛

千葉市 中里信彦

九月六日の東京日月例会にぜひ分しばらくぶりに出席し、先生の元気な様子に出会い安心しました。

某先生とのことやKの哲学に一時的にひかれはしたものの、結局又GAPへ戻って来ました。

一時はそうとうまいりました。フレッド・ステックリング氏が総会の質疑応答の中で（編注）一九七七年十一月、東京における日本GAP総会）、脳性マヒの肉體をもった人について答えていらした時に、引越してみたいに肉體から肉體へ引越せばいいのですと、おっしゃられたのを聞いて、私も自業自得とはいえ体の不自由さを日頃から感じていたので、全ての身辺整理をして、先生にも迷惑のかけられないようにGAPを脱会して「引越そう」とした

のですが、「生きるように」という声があるのです。しかし今までこんなに努力したし、自分ではとにかく一生懸命やっていたもりのに、いまだに不自由のままです。この先も何年も我慢するのは耐えられない。やはり思いどおりにしようとしたのですが、何度も「生きるよ」という声があるように、私にはこの声があるのです。それで私はこんなつまらない生活を続けるよりも多少でもいいから、もう少しましな肉體に引越したいと思ったのです。ガタのきた家を建て直すよりもずっと簡単だし決して悪いことではないと思いたか

らなりました。それでもいざんとしてその声は「生きるよ」「生きるよ」「生きるよ」と語り続けるので私はそれなら生きる方法を教えて下さい。どんな方法でもいいからそれを私にわかるように教えて下さいと心の中で叫んだのです。

それから何日かして、しばらく読まなかつた「生命の科学」を読み始めたのです。依然としてわからないことも沢山ありましたが、とにかく読むことにしました。読み進むうちに以前からわからなかつたことがわかるようになってきました。

仕事の性質上、想念観察などをやっているひまなどないと思っていたのですが、通勤時間や昼休み、仕事から帰って来て眠るまでの時間を利用してかなり効果があるのを見つけた。

それから約一カ月後、宇宙の意識が私自身の内奥にあるのだという事が心の底から感じられるようになったのです。その事は今まで何回も聞きましたし何回も読みましたので、

わかっているつもりでした。しかし心底こんなふうに感じたのは全く初めて経験でした。

万物（人間・自然・宇宙）が一体であり分離できるものは何一つしてないのだ。ただ自我だけがそれらを分離しているのだ。そして安らかな気持ち。豊かで何一つ不自由のない気持ちしばらくの間続きました。

しかし私にはやらなければならない事が多くあります。まず第一に自我の抑制です。とにかく楽しい物事を得る前にこの事が不可欠であるという事です。

以前と違つた事が一つあります。それは何度失敗しても失望しなくなつたことです。過失をおかして失望するのとは別のものではそれこそ雲泥の差があります。たとえ一分前に失敗したとしても失望せずに「なにこそ、今度こそは」と思うのと「ああ俺はなんてまぬけなんだ。今度もやっぱ駄目だつたか」などがつかりして、しょぼくれている時とはなんと違つてくさくさと思うのです。

この間、二日続けて起きた地震の最初の日は親類の家の二階で叔父と二人で眠っていたのですが、揺れはじめて自分が覚めて、どうなるのかと思つたとき、「大丈夫」という声が揺れているうちに又深い眠りに入っていました。

二日目の二度目の揺れの時には多少不安になり、胸がドキドキしたのですが、心を警戒の状態にするのではなくに「大丈夫」という印象があったので、すぐに落ちつきましたが、それから二度程揺る度に目を覚ましたのですが、恐怖も不安も起きませ



んでした。私は何が起ころうとも絶対に死なないし、かすり傷もおわないと強く思いました。

話は変わりますが、九月六日の東京月例会の時にも少しあったのですが、先生がよく思わせぶりな言い方をするのを不満に思っていたのです。そこまで言うのならどうして最後まで話さないのだろうか。しかし私の知りたいと思う欲求どおりにそのままどんどん喋っていたら私は何も知らずに混乱し、混乱しているという事にも気づかずに離反していたかも知れません。

私は円盤に興味があり多少アダムスキーに関心のある人に生命の法則の一つを教えたのですが、その結果は裏目に出ました。その家庭全体にまで良くない影響が出てしまいました。またその真の意味を理解していなかったのです。ですから私は今正しい方向に引き戻さなければならぬと考えています。この方法なら正しいだろうと安易に喋ったその結果です。

だから理解ある人は忍耐力を持って、皆がある水準に達するまでやたらに喋るわけにはいかないのだという事です。今は私の喋る事柄が家族や親類の一部の人達にもかなりの影響力を持つのではないかとこの事を感じ始めています。なぜなら最初全く関心を示さなかった妹が今度GAPの会員になりましたし、私とよく論争を起こしていた母さえも「テレバシー」や「生命の科学」を読むようになったからです。親類の何人かはアダムスキーの著書類を読みたいといひますし、そのうちの一人はGAPの月例会に出席して一度

話を聞いてみたいとも言っています。だからこちら(私)も信念と忍耐と愛をもってその人達に接していかなくてはならないのだと思うのです。決してやさしいことではありませんが、久保田先生のご健康とGAPの発展を願いつつこれで失礼します。

### なつかしい久保田兄へ

鹿児島県喜界島 十菱 麟

南米グラランド・トゥアの詳報満載のニュースレター71号を送っていただき、ありがとうございます。今日やつと読しました。何十年も書き込んでこられた大兄の雄大な筆力によって現地の情景が活写され、オーケストラのような壮大感を覚えました。

熊本青年氏のように正式(或いは政府間契約的)ルートでは(私のポリビア移住は)行かないと思いましたが、私たちが五年後の(ポリビア)移住をめざして今から準備をすすめます(中略)。

御文中、短前崎音とかタンギングとかの音楽用語には目を白黒させました。音楽史の講義はどこでお受けになったのか、思えば大兄のBG(バックグラウンド)に殆ど無知である私です。

(編注)むかし編者は一般教養課程の「芸術」という四単位の科目のうち二単位の西洋音楽史の素暗らしい講義を高名な音楽評論家の村田武雄先生より受けました。残り二単位の西洋美術史は当時有名な美術評論家の守屋謙二先生より受け、中世英文学は世界的な学者、厨川文夫先生、国文学史は折口信夫先生から教わる

等、先生方には全く恵まれていました。特に、亡くなられた厨川先生は終生忘れ得ぬ恩師です。

GAPの教え子さんたち、みなさん清新澄冽としているですね。広義の校長先生という感じがします。Principalの訳語としては主宰の方が多いと思いますが、世間に合わせればやはり松下さんのように(会長)になりますか。(中略)。

とにかくご健闘を切に祈り上げます。私はあの世に行ったら少しは休めると思っていたのしみにしてしまいましたが、アダムスキー氏はちがうことをおっしゃったんですね。不勉強でした。この五、六年、私も家族も円盤に遭遇しません。ブラザーズにみすてられたのでしょうか。

### 自信をとりもどしたわたし

三重県 池谷由里子

九月二十七日付の先生からのお返事、どうもありがとうございます。もうとても感激しました。お手紙が届く前に先生に手紙を出したことがすごく恥ずかしくなつて、もつと自分でよくアダムスキー哲学を理解しているけれど、どんなことでも耐えられることなのに、と思っていたのです。そして先生からのお手紙が届いて、その中に「勇氣をもって生きて下さい。世の中には何も心配することはないのです」と書かれてあって、今も読みますと涙が出てきそうになつてくるのです。本当にどうもありがとうございます。私が手紙を出したのは五月の初め頃で、先生がご病氣とも知らなくて、それから号外が届いてから、ご病氣のご旅行のことをお話したかったの

ですが、どのような手紙を書いたらよいかわからなくて。

あの頃は毎日が悲しくて。それでもアダムスキー哲学を心にとどめておこうとしたのですけれど、七月末に会社をやめて、それからずっと家にいるのです。やめた頃はもう何もする気もなくて、ただ家の中でじっとしてしまいました。

それから八月の初めにニュースレター70号が届き、元気が出てきて、ニュースレターに各地支部報のことが書かれてあったので、いろんな地方から送って頂きました。それを読んでいたたくさんのことを考えさせられました。たくさんありすぎて何を言ったらよいかわからないのですけれど、だんだんとアダムスキー哲学が理解できるようになったのです。だれかに会う時、エゴの心で見るとではなく私の心の中にある宇宙の意識をもって見れば本当に差別などないのだから、だれをも愛し、信じていこうと思ったり、あきらめのような想念はもたないで、いつも明るい想念を、すべてがよくなっているイメージを描いていこうと思うようになったり。急にいろんな想いが寄せてきて、私の世界が明るく広がっていきように感じるようになりました。本当にたくさんあって、すべてをお話することができないくらいなのです。でも、今想うのは、アダムスキー哲学を知って本当に良かったということです。そのことを想うだけで、また涙が出てきそうになります。もう三カ月も家にはいますが、もうすぐ働きに行きます。まだ決まっていたわけではありませんが、でも悲観的な想念は起こさないので、今まで

判断していたことは忘れ去って、がんばります。「私にはできる」という強い信念を持って——(中略)。

それから今日はどうしてもお話ししたいことがあるのです。そのことを思うと今でもなげか手か震えてくるのです。きのう十月二十四日の夜八、九時頃、私は座ってテレビを見ていたのです。そうしたら急にドドド……という音がゴーンというか(編者注)世界各地の地震を予知した事実が詳述してありました)。

### 文通のお願い

GAP会員の方と文通を希望します。どこにお住まいの方でも結構です。よろしく。

千七百一〇一徳島市川内町宮島

留場千砂子

謝します。編者)

### 「テレバシー」解説講義の 筆記録第2部完成—出版

1980年度 東京月例会における久保田先生の名講義の完全トランスクリプト。ぜひ1冊をお手許におそなえ下さい。(第1部在庫若千¥300千200)

第2部/B5判/活字タイプ印刷/¥500千200

注文は下記へ直接にどうぞ。

〒986-16 宮城県柴田郡柴田町大字本給迫字内  
沼田96-2 安藤澄雄 振替仙台30019

# 日本GAP各地 行事報告と予告

80年10月以降分

高次元の波動に満ちて

## 第三回 熊本支部大会

十月十九日午後一時、二年八カ月ぶりに東京より久保田先生をお迎えして、第三回熊本支部大会が開催され、四十余名の会員が出席され、盛大な大会となった。会場は熊本市内中心部の「市みゆき会館」。久保田先生の講演は、「アダマス



キー問題の本質」という普通はなかなか聴けない重要な内容だった。スライド公開はアメリカGAP本部研修の旅「愛と太陽の大地」。このスライド四百枚におよぶ大作は今後公開されないという。

最後の質疑応答では歴史の背後の意外な真実が先生の口からもれた。その後、場所をうつして夕食会がもたれ、二十数名の方が出席された。

今回の大会の特徴は、大会の役員が揃って十分な準備が出来たこと。それに、九州以外から八名もの会員がみえたこと。

また、久保田先生が熊本で二泊されて時間が十分にとれて、前日十八日の歓迎会が持たれ、大会翌日の二十日は、阿蘇山へのドライブに先生をご招待出来たことである。皆様どうも有難うございました。(津野田記)

空は青く、イモはま〜

## 山形支部のイモ煮会

十月二十六日、山形・仙台両支部合同のイモ煮会が山形市内の馬見ヶ崎河原で開催された。総勢二十二名。なかには青森、横須賀、栃木、東京から参加された方もあり、賑やかな一日となった。

イモ煮会というのは江戸時代から続いた有名な伝統的行事で、河原に石でカマドを築き、ナベをかけてサトイモ、コンニャク、ネギ、牛肉、キノコなどを入れ、醤油または味噌で味をつけて賞味する素晴らしい野外パーティーである。

この日編者も招待を受けて山形へ飛んだが、前日のどしや降りの雨はやみ、奇跡的に晴れ間も出て、愉快きわまりない



午後をすごした。皆様方に厚く感謝する次第。(編者)

やった！服部氏ががんばれ！

## 群馬支部が発足

群馬県大泉町の熱心な会員・服部久氏のご尽力によりめでたく群馬支部が発足し、一月より太田市民会館で月例研究会が開催された。地元の会員諸氏は別掲月例会案内を参照の上多数参加された。

## おめでた二件 お幸せに！

千葉県習志野市の会員・植木淳一氏は去る十一月一日、植草尚代さんと結婚さ

れ、ハワイへハネムーンに旅立たれた。ご多幸をお祈りする次第。

かねて噂のあった群馬県館林市の会員熊倉清貴氏もついに十二月七日、椎名幸子さんとゴールインされ、館林市農協大ホールで二百名を超える盛大な披露宴が挙行されてGAPからも編者共十三名がご招待を受け、編者は一席祝辞をお贈りした。お幸せに。

## 80年度日本GAP総会

大成功裡に終了した。詳細は別掲記事と写真を参照されたい。  
楽しかった

## 大阪支部のクリスマスパーティー

大阪支部は十二月二十一日に月例会終了後、はなやかに装飾を施した別会場に参加者三十五名によるクリスマスパーティーを開催。女性会員手作りのオードブルや飲物で愉快地踊り歌い、ゲームに打ち興じ、福引もあり、歓談の花が咲いて素晴らしいパーティーを楽しみ八時に閉会した。岐阜支部から数名参加された。皆様深く感謝したい。(平塚記)

またも歓声と爆笑の渦

## 東京本部の新年会

一月十日東京文化会館における東京月例会は(約百名出席)田中正氏の珍しいテレビ番組体験談や久保田会長の講演等で盛況裡に閉会后、六時半から上野駅そばの竹弥にて恒例の新年会を約六十名で開催。福引も行われて終始爆笑と歓声が渦巻き、九時頃愉快に終了した。このあと二次会三次会が別な場所で行われて尽きせぬ名残を惜しんだ。

# 〈予告〉地方支部大会

	松山支部大会	静岡支部大会	大阪支部大会	仙台・山形合同支部大会	札幌・旭川合同支部大会
日時	3月22日(日) 午後1:00→5:30	5月4日(月・振替休日) 午後1:00→5:30	5月17日(日) 午後1:00→5:00	5月24日(日) 午前10:00→16:20	6月7日(日) 午前10:00→4:00
会場	松山全日空ホテル 4階「弥生の間」の(西)。 松山市一番町3丁目2-1 ☎(0899)33-5511	静岡交通ビル4Fホール 静岡市黒金町55(静岡駅南口) ☎(0542)83-9234	大阪府立労働センター5F 視聴覚室。大阪府東区京橋 3丁目。☎(06)942-0001 地下鉄・谷町線天満橋駅下車、 松阪屋西へ200m。 京阪電車も可。	仙台市市民会館2F 第3 会議室。仙台市桜ヶ丘公園 4番地。☎(0222)62-4721 仙台駅前よりグリーンバス 「八幡町」行きに乗り、市 民会館前で下車。タクシー なら5分、¥350。	札幌市豊平館(重要文化財) 2F18号室。札幌市中央区 南11条西4丁目、中島公園 内。☎(011)511-0985 札幌駅から地下鉄南北線 「中島公園」駅下車。
会費	¥2000	¥2000	¥1500	¥2000	¥1500
プログラム	10:00 支部代表挨拶 (伊藤・石川) 10:15 映画「アメリカ南米 宇宙考古学の旅」 12:00 昼食・休憩 13:00 講演「アダムスキ ー問題の真髄」 14:20 休憩・全員記念撮 影 14:40 質疑応答 16:00 終了	1:00 支部代表挨拶 (平塚和義) 1:05 講演「アダムスキ ー問題について」 (久保田八郎) 2:00 休憩・記念撮影 2:30 質疑応答と意見発 表。 5:00 閉会 今回は久保田会長を中心に 徹底した話し合いの会にす る予定。 多数ご参加下さい。	10:00 講演・会員数名 12:00 休憩・昼食 1:00 講演「アダムスキ ー問題について」 (久保田八郎) 2:30 休憩・記念撮影 3:00 質疑応答 (久保田八郎) 5:00 閉会 今回は久保田先生を囲んで 徹底した話し合いの場を設 けます。ふるって発言して 下さい。	10:00 支部代表挨拶 (伊藤・石川) 10:15 映画「アメリカ南米 宇宙考古学の旅」 12:00 昼食・休憩 13:00 講演「アダムスキ ー問題の真髄」 14:20 休憩・全員記念撮 影 14:40 質疑応答 16:00 終了	
夕食会	大会終了後6:00から8: 00まで同ホテル4階「弥生 の間」の(東)で希望者のみ により開催(立食)。 会費は¥3500程度。	大会終了後6:30から8: 30まで静岡駅南口の東海軒 会館6階ホールで希望者の みにより開催。 会費¥4000	大会終了後6:30から8: 00まで希望者のみの夕食会 会場は未定。 会費¥4000。	大会終了後6:00から8: 00まで。 会費¥3500程度。 (会場未定)	大会終了後、希望者だけで 豊平館内で夕食会を開催。 会費¥3000程度。
宿舎	全日空ホテルのシングル15 部屋とツイン5部屋予約済。 S1泊¥5500 T1泊¥9000	静岡第1ホテルをお世話し ます。 1泊¥4400(税込み)	新阪急ホテル(旧大阪駅の すぐ近く)をお世話します。 1泊¥6640	仙台ロイヤル、ワシントン、 チサン、サンルート等をお 世話します。 1泊¥4000程度。	ビジネスホテルが多数あり ます。 1泊¥3500程度。
夕食会と宿舎の申込	夕食会出席及び宿舎希望者 は、ハガキに宿泊日と「夕 食会参加」と記して2月末 までに下記へお申込み下さい。 〒794 愛媛県今治市黄金町 1-4-4 伊藤達夫 ☎(0898)22-3060	夕食会出席と宿舎希望者は ハガキに宿泊日と「夕食会 参加希望」と記して4月20 日までに下記へご連絡下さい。 〒422 静岡市西島304-9、 野口敏治 ☎(0542)86-7729	大会、夕食会出席、宿舎の 申込はハガキで下記へ4月 末日までにお申込下さい。 〒661 兵庫県尼崎市水堂町 3-16-8 平塚和義 ☎(06)436-3478	大会、夕食会出席、宿舎の 申込はハガキで4月末日ま で下記へ。 〒982 仙台市東十番町1番 地、国鉄アパート1-18、 笠原弘可 ☎(0222)95-0725	夕食会出席と宿舎をご希望 の方は宿泊日を記して3月 下旬から4月5日頃までに 下記へお申込み下さい。 〒071-13 北海道旭川市末 広6条4丁目1158-65、 石川公一 ☎(0166)51-5699
備考	3月の松山支部月例会は大会のため中止。	5月は支部大会のため静岡支部月例会は中止。	5月の大阪支部月例会は大会のため中止。	5月の仙台支部月例会は大会のため中止。	旭川支部報「スペース・プロムナード」を創刊。¥200 〒170 石川公一宛ご注文を。

・東京月例会と新年会・



## 「アメリカカメキシコ 宇宙考古学の旅」

来たる八月十五日より十五日間、日本GAPは第三回の海外研修としてアメリカとメキシコをまわる素晴らしい旅を実施することになった。今回はゆつたりとしたデラックス旅行になるので多数会員のご参加を期待したい。詳細は別掲広告をご参照の上、参加希望者は百四十円切手を同封して案内書を日本GAP宛請求されたい。

## ▼本年度日本GAP総会

本年度の総会は十月十日(祭日。二日連休の初日)に東京都新橋のヤクルトホールで午前十時より午後五時まで盛大に挙行することが決定した。今回は三年前に來日した米GAP本部のステイブ・ホワイトニング氏を再度招待して総会当日大講演会を開催し、夕方六時より別会場にて氏を中心に立食形式による大パーティーを開く予定。詳細は次号に発表。

# 日本GAP全国月例研究会案内

支部名	日 時	会 場	会費	携 行 品 ・ 行 事
東京本部	毎月第1土曜日 午後2:00→6:00	上野公園内「東京文化会館」4階会議室。 ☎03-828-2111。国電「上野駅」の「公園口」下車，改札口の真向かいスグ。 会館正面に向かって左側の入口から入り，奥のエレベーターから4階へ行く。	¥300	2:00→3:00会員による体験講演， 3:00→3:30久保田会長の宇宙哲学講義と近況報告，テレパシー練習，休憩。 4:30→6:00自己紹介，意見発表，質疑応答。
大阪支部	毎月第3日曜日 午後1:00→5:00 ※5月は支部大会のため月例会は中止	大阪府吹田市出口町4丁目「吹田市民会館」☎(388)7351。 国鉄または阪急電車「吹田駅」下車。連絡先=平塚和義 ☎06-436-3478	300	テキストとして「テレパシー」「生命の科学」(文久書林)を持参。東京例会における久保田会長の講演テープを公開。テレパシー練習・研究発表・座談会
新潟支部	毎月第4日曜日 午後1:00→5:00	新潟駅前「青年の家」☎0252-44-6766 連絡先=足立亘宏 ☎0252-62-0968	200	
熊本支部	毎月第3日曜日 午後1:00→5:00	熊本市桜町「熊本市民会館」会議室。 ☎(55)5235 連絡先=津野田俊行 〒860 熊本市3-12-45 常通寺内 ☎0963-52-3381	200	テ テキストとして「生命の科学」「テレパシー」(文久書林)を持参。久保田会長の東京例会における「宇宙哲学」講義録音テープ公開。座談と研究発表。テレパシー練習。
岐阜支部	毎月第2日曜日 午後1:30→4:30	岐阜市神田町「商工会議所」☎64-2131 国鉄または名鉄「岐阜駅」下車，徒歩10分，バスか市電で「柳ヶ瀬」下車，近鉄百貨店を北へすぐ近く。 連絡先=間嶋泰行 ☎0582-71-0069 林 国宜 ☎0586-45-6468	300	テキストとして「生命の科学」「テレパシー」「宇宙哲学」を持参。久保田会長の講演録音テープ公開。研究発表，座談会。
仙台支部	毎月第4日曜日 午後1:10→4:20 ※5月は支部大会のため月例会は中止	仙台市「市民会館」会議室(西公園内) 連絡先=笠原弘可 ☎0222-95-0725	200	東京本部月例会における久保田会長の講義録音テープ公開，テレパシー練習，座談会。
山形支部	毎月第1日曜日 午後1:00→5:00	山形市民会館。小会議室。山形市香澄町山形駅より徒歩5分。☎0236-42-3121 連絡先=山口 緑 山形市東原町4-17-18朝日荘23号 ☎0236-44-0670(勤務先・12:00より夜9:00まで)	200	テキストとして「テレパシー」「生命の科学」を持参。東京本部月例会における久保田会長の講演録音テープ公開，テレパシー練習，研究発表，座談会。
札幌支部	毎月第1日曜日 午後1:00→4:30	中央区北一条西一丁目「札幌市民会館」会議室。☎011-241-9171 連絡先=伊藤重信 ☎011-251-4331	300	テキストとして「テレパシー」「生命の科学」と官製ハガキを持参。読書会，テレパシー練習，自己紹介。
静岡支部	毎月第1日曜日 午後1:00→5:00 ※5月は支部大会のため月例会は中止	3月まで県婦人会館。 4月からプラザ-静岡ビル8階(静岡駅北口すぐ)静岡市御幸町9-1	200	テキストとして「テレパシー」「生命の科学」を持参。東京本部例会における久保田会長の講演録音テープ公開。テレパシー練習，研究発表。
旭川支部	毎月第3土曜日 午後5:00→8:00	旭川市四条通り10丁目右1号「北海道新聞旭川支社」会議室。電話0166-23-2111 連絡先=石川公一 ☎0166-51-5699	500	テキストとして「テレパシー」「生命の科学」を持参。東京月例会における久保田会長の講演録音テープを公開。テレパシー練習，研究発表。
松山支部	毎月第4日曜日 午後1:00→4:30 ※3月は支部大会のため月例会は中止	松山市民会館会議室 連絡先=伊藤達夫 ☎0898-22-3060 (電話は夜間のみ8:00以降)	200	テキストとして「生命の科学」「テレパシー」を持参。東京月例会における久保田会長の講義録音テープ公開。質疑応答，座談会。
群馬支部	毎月第2日曜日 午後2:00→6:00	群馬県太田市「太田市民会館」第6会議室。 連絡先=服部 久 群馬県大泉町下小泉1939-24 いずみ寮内 ☎0276-63-2163・2771	200	東京本部月例会における久保田会長の講義録音テープ公開，座談会等。



★本誌バックナンバー(旧号)★

米GAP本部公認の唯一の日本支部たる日本GAPがアダムスキー問題に関して正確詳細なインフォメーションを伝える本誌は貴重な資料として後世に残るものです。

- No.68 主要記事「UFO問題の真相(最終回)」G.アダムスキー／〈アメリカ中米宇宙考古学の旅〉紀行「転生と追憶の砂漠へ」久保田八郎／「回想のアメリカ中米旅行」——思ひ出を語る人々／「質疑応答(1)」ステイブ・ホワイティング／その他。
- No.69 主要記事「アダムスキー問題と宇宙開発」キース・フリットクロフト／「ヨーロッパのUFO事情、ベルギーGAPの活動とアダムスキーの思い出」メイ・フリットクロフト／「総会を終えて」久保田八郎／「オーラと過去の透視」／「質疑応答(2)」ステイブ・ホワイティング(3)／その他。
- No.70 主要記事「創造主のハート」G.アダムスキー／「愛と太陽の大地」久保田八郎／「コンピューターによるUFO写真の真偽判定は正しいか」田畑宏／「質疑応答」S.ホワイティング／〈写真〉「東京上空のUFO」その他。
- No.71 主要記事「アリス・ウェルズ女史、逝去」F.ステックリング／〈アメリカ南米宇宙考古学の旅〉紀行「大アンデスと太陽の帝国へ」久保田八郎／「質疑応答「宇宙と人間の真相」F.ステックリング&S.ホワイティング／その他。

各 ¥500 円200 — 日本GAP —

「宇宙哲学」講演録音テープ

今年度東京月例会における久保田先生の毎月の講演を録音した貴重なテープ。理解を深め思想の統一を図る上で重要な資料となるものです。先生の雄大な弁舌をぜひお聴き下さい。

テープ1本(90分) ¥1000 円200

このテープの注文に限り××月分と記して必ず下記へご注文下さい(56年1月より毎月録音)。GAP本部では扱いません。

〒430 静岡県浜松市寺島町221  
小島国弘(静岡支部所属。自宅TEL.0534-52-8502)



①オーソン肖像写真  
②シンボルマーク

①1952年11月20日、カリフォルニアの砂漠でアダムスキーが劇的な最初のコンタクトをした金星人は「宇宙からの訪問者」第2部でオーソンという名で出てくるが、これをア氏の記録やアリス・ウェルズのスケッチにもとづいて女流画家ゲイ・ベッツが描いた名画の写真。(キャピネ判)(カラー写真)

②この金星のシンボル・マークの中央にある眼は「すべてを見透す眼」で、宇宙の意識をあらわし、周囲の四層の星は人間のマインド(心)の発達状態をあらわしている。(サービス判)(カラー)

上記2点共、スペース・ブラザーズとの一体化を図る上で重要な資料となるものです。他所では入手できません。ご注文は必ず日本GAP宛直接に振替でどうぞ。

① ¥500 円120 ② ¥200 円60 一括注文の場合円120

編集後記

★年頭には多数の会員の方から年賀状を頂き厚く御礼を申し上げます。また多大の維持寄金をたまわりまして衷心より感謝いたします。事情によりご芳名は掲載しませんが記録は保存してあります。

★本号は昨年秋の創立二十周年記念日本GAP総会特集号とし、編者による英五氏による講演全文及び写真、数氏による手記等を掲載しましたので本号に限り総頁を48頁としました。次号からは40頁にもどしますからご了承下さい。本号は迫力ある記事で充実して読みごたえがあると存じます。

★重要な記事「宇宙と人間の真相」は紙数の都合により本号で完結せず、残りは次号まわしとなりました。忍耐強くお待ち下さい。

★こうした、待ち遠しい状況を少しでも改善するために、本年より本誌の発行を季刊とし、一月末、四月末、七月末、十月末の年四回発行とします。これにより不定期間から定期間に変わりますからご留意下さい。

★本年五月と六月は地方支部大会が集中的に開催されて活気を呈しました。編者の講演題目は同じでも話の内容は地方ごとに異なりますから、ふるってご参加下さい。

★八月の第三回海外研修旅行も着々と準備をすすめて万全の態勢をしておりますので、参加希望者は早目にお申し込み下さい。大戦争が始まりそうなので旅行は実現しないだろうと予測する向きもあるようですが、編者としてはこれに對して否定的です。必ず実現するとみていますし、ワールドセプトラベル社のテレパシスト田中正氏も必ず実現すると一月の東京月例会の席上で断言されました。

★秋の十月十日(祭日・連休の初日)には恒例の本年度総会を実施しますが、今度はアメリカGAP本部よりステイブ・ホワイティング氏を再度招待して大講演会とパーティーを開催します。詳細は次号に掲載しますからご期待下さい。

★従来、東京月例会における編者の「生命の科学」「テレパシー」等の解説講義録音テープを浜村建郎氏が製作頒布してこれでしたが、事情により浜松市の小島国弘氏と交替されました。今後は小島氏宛ご注文下さい。

お知らせ

★全国各地地方支部の月例会ではなるべく編者の東京月例会に聴かせる講演録音テープを会場で流して出席者に聴かせることが望ましく、コピーテープの入手に万全を期せられるようお願いいたします。これは理解を深める上で大切な資料です。なお本年度の東京月例会における編者の講演は毎回「宇宙哲学」と題する幅広い内容が展開する解説講義になります。

★かねてからユニバース出版社よりアダムスキーの体験記「宇宙からの訪問者」が出版されてきました。今度ハードカバー付きの保存用豪華版が二月に刊行されます。定価は二〇〇〇円程度ということですが詳細は同社へご照会下さい。二下部発行の限定版です。その他絶版になっているアダムスキーの著書類をなんとかして日本GAPより出版するべく画策中です。(K)

多年本誌は一部頒価を五〇〇円としてきましたが、昨今の諸物価高騰その他により五〇〇円の線を維持することは困難になりましたので、申訳ないことながら、本号より一部頒価を七〇〇円としますので、申しすかして下さるようお願いいたします。料二〇〇円で計九〇〇円となり、年会費は四分で三六〇〇円となります。すでに旧会費金額で前納済の方は振置きとし、差額は頂きません。

日本GAP機関誌・季刊  
GAPニュースレター 72号  
編集発行人 久保田八郎  
発行所 日本GAP本部  
〒133 東京都江戸川区本一色町365-18  
電話 (651) 0955  
振替東京 430912(久保田八郎名義)  
一九八一年一月二十五日発行  
頒価七〇〇円・送料200円



